

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	青少年国際交流事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進		
事業内容	青少年(町内在住中学生)を海外へ派遣し、教育・文化・歴史・産業などの視察学習、ホームステイ、現地の学校への体験入学を実施することで、外国に住む県人等と交流を深め、移民について学び、国際化時代に対応する青少年の育成を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,492	3,500	4,520	3,150	4,456
		(b) 予算現額	3,500	3,500	4,261	3,150	4,456
		(c) 増減額(b-a)	8	0	▲ 259	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	3,500	3,500	4,261	3,150	4,456
	B. 執行済額		3,500	3,500	4,055	3,150	4,456
	うち交付金充当額		2,800	2,800	3,244	2,520	3,564
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	95.2%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。 活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	交流事業派遣生徒数:12名		目標 (10名)	(10名)	(10名)	(12名)	
			実績 10名	10名	10名	12名	
	研修後報告会の開催		目標 (1回)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績 1回	1回	1回	1回		
達成 状 況 説 明	本研修は10日間の日程でカナダで実施した。研修生である中学生12名は3日間のホームステイを体験しながら3日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。帰国後は研修報告会を開催することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	報告会の実施などを通じた参加者の意識向上 (内容)アンケート実施。外国語や海外文化、移民への興味を持った生徒の割合 70%を目指す。		目標 ()	(70%)	(70%)	(70%)	()
			実績	90%	100%	100%	
	【H30成果目標】 帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標				80%
進 捗 状 況 説 明	派遣した生徒へアンケートを実施したところ、外国語や海外文化、移民への興味を持ったと回答した割合が100%となり、目標の70%を達成できた。「英語以外の外国語も学んでいきたい」、「英語力を上げて留学をしたい」など、外国語への関心が高まり、海外文化に直接触れる事で「出発前以上に海外への関心が高くなった」「日本食が1番だと思った」など、これまで以上に海外文化を通して自国への関心も高くなっている事がわかった。 また、英語コミュニケーション能力への向上心が上がり、積極性及び責任感も増幅し、今後も南風原町のために活動したいと思うようになったと回答を得ている。						

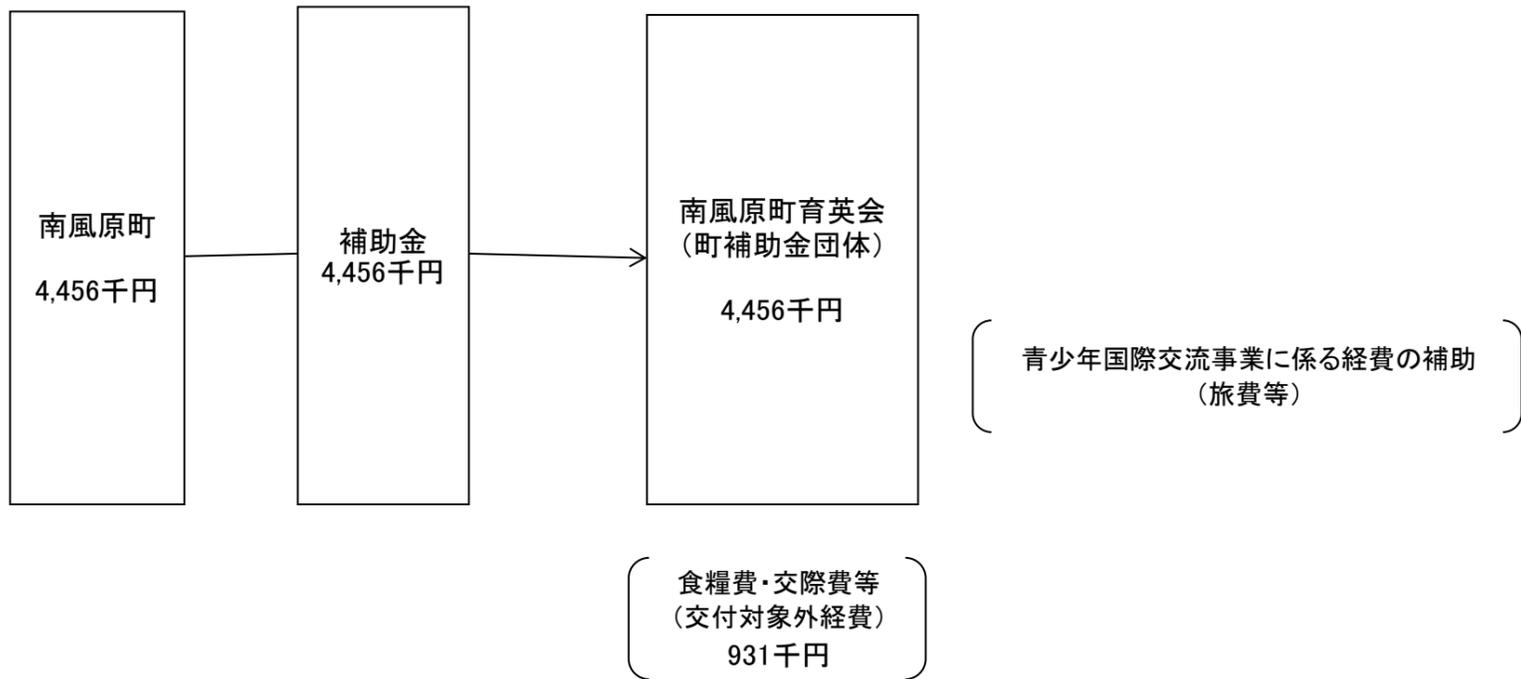
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	進学・就職の際に必要な自己アピール力や、自己の育った地域について学ぶ事で地域愛を育み、町を内外へアピールする力を養う為、体験した事を他者へ伝える場を増やし、自らの経験を他者に伝えるプレゼンテーション能力の向上を図る必要がある。また、より多くの生徒の国際社会への関心を高めるため、研修へ参加してない生徒への体験の共有を図ることも必要である。	国際交流に参加した生徒による発表の場を増やすため、「学校での発表」について100%実施に取り組む。

今後の取り組み方針

学校での発表について、町内中学校2校中、1校では開催されているため、未開催のもう1校に呼びかけ、発表の機会を設けるよう促す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,387	4,456	3,564	892	931



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町と連携して、国際化時代に対応できる人材育成を目的に事業を実施しており、町補助金等交付規則に基づき支出していることから妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業に必要な旅費、現地経費、謝礼金を要綱等や見積もりにより、支出しており適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 小学校英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	小学生のうちから英会話に触れさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させる為に、各小学校に英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
		(b) 予算現額	7,200	7,200	7,200	7,200	7,184
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 16
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	7,200	7,200	7,200	7,200	7,184
	B. 執行済額	7,200	7,087	7,050	7,200	7,165	
	うち交付金充当額	5,760	5,669	5,640	5,760	5,732	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.4%	97.9%	100.0%	99.7%	
予算の状況の説明	予算16千円の減額の理由は、他の事業へ流用したことによる。 不用額19千円は、小学校英語指導助手4人のうち、1人の採用が4月途中になったことによる。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	小学校英語指導助手配置数:4人	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	4人	
	目標	()	()	()	()		
実績							
達成状況説明	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
	英語に興味を持った・好きになった児童の割合80%以上(アンケート)	目標	()	(60%以上)	(60%以上)	(80%以上)	()
		実績		80.0%	75.0%	74.4%	
	【H30成果目標】 外国の人と友達になったり、外国のことについてももっと知りたいと思ったか(80%以上)を含め、児童へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標					80%
	進捗状況説明	英語に興味を持った・好きになった児童の割合を増やすことを目的としていたが、結果は74.4%と目標の80.0%を達成することはできなかった。また、昨年度よりも0.6%下がった結果となった。					

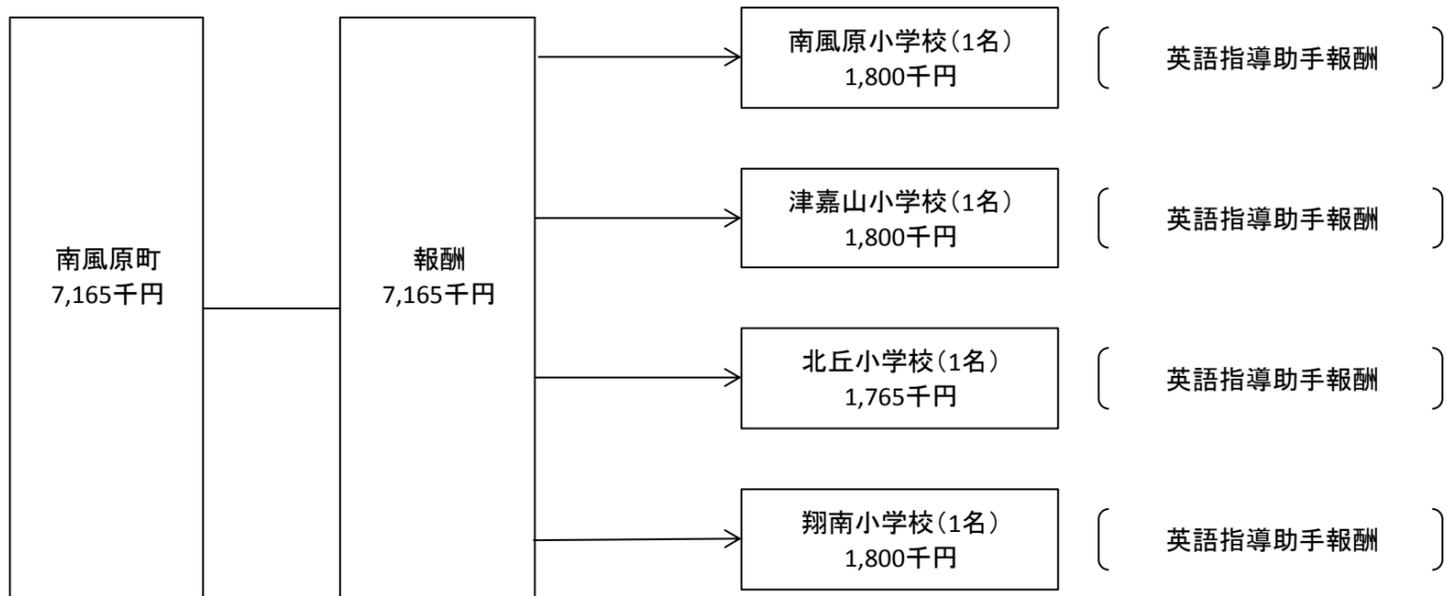
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(英語に興味を持った・好きになった児童の割合80%以上 アンケート) ・目標に届かなかった原因として、英語に対し苦手意識を持っている児童への対策が不足していたと考えられる。また、前年度の割合よりも減少していることから、更なる学習における工夫改善を図り、興味を持たせ、苦手意識を少なくする授業を行う必要がある。	(英語に興味を持った・好きになった児童の割合80%以上 アンケート) ・先生と児童、児童同士でのコミュニケーションを英語で取ることで抵抗を少なくするため、授業だけではなく普段の学校生活においても英会話を取り入れていく。また、今後も引き続き、興味を引きつけられるよう授業の工夫改善を図っていく。

今後の取り組み方針

(英語に興味を持った・好きになった児童の割合80%以上 アンケート)
 ・今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置し、進んで英語を話す児童や英語が好きになる児童を増やしていけるよう活動内容を改善していく。また、児童の興味・関心のある活動や題材を設定し、楽しく考え学べるような授業を行い、英語に対する興味・関心の向上を図っていく。
 ・挨拶などのコミュニケーションを普段の学校生活で活用し、苦手意識を取り除けるように、楽しく学べる環境を整えていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,165	7,165	5,732	1,433	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目用途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③ 学力調査等事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進		
事業内容	個々の学力の把握及び個々の実態に即した指導を実施し、児童生徒のさらなる学力向上につなげるため、学力調査を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,632	2,758	4,004	3,433	4,230
			2,632	3,724	4,004	3,172	4,230
			0	966	0	▲ 261	0
			-	-	-	-	-
			2,632	3,724	4,004	3,172	4,230
	B. 執行済額		2,574	3,617	3,722	3,171	3,929
	うち交付金充当額		2,059	2,893	2,977	2,536	3,143
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.8%	97.1%	93.0%	100.0%	92.9%
予算の状況の説明		事業について、町内各小中学校(小学校:4校、中学校:2校)に学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学力調査等の実施 小学校4校中4校 (国語・算数・5年生理科) 中学校2校中2校 (国語・数学・理科・社会・英語)	目標 (小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)		
実績 小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校			
達成状況説明	標準学力調査を、目標の小学校4校中4校、中学校2校中2校で実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	年度	目標値(30年度)
	標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 小学校:全科目(13科目) 中学校:3科目以上		目標 ()	(小学校:全科目 中学校:3科目以上)	()	()	()
			実績 小学校:12科目 中学校:2科目				
	中学3年生の高校進学率98.5%(県目標値)		目標 ()	(98.5%)	()	()	()
			実績 97.3%				
	【H30成果目標】 県学力到達度調査の平均正答率が県平均以上の科目数 小学校:全科目/7科目 中学校:全科目/6科目		目標 ()				小学校:全科目 中学校:全科目
進捗状況説明	学力調査については、小学校において平均正答率が目標値以上の科目は12科目で、目標に1科目届かなかった。中学校において平均正答率が目標値以上の科目は2科目で、目標に1科目届かなかった。 高校進学率は97.3%で目標値にわずかに届かなかった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(学力調査) ・児童生徒の学力向上に向けて、各科目の目標値を設定し実施しているが、前年度同様の結果となっていることから、目標値を達成できなかった科目について、あらためて対策を検討し、個々の学力に合わせたきめ細やかな指導をしていく必要がある。	(学力調査) ・目標値を下回った科目を重点的にきめ細かな指導や補習を行うなど、対策を図る。
	(高校進学率) ・目標値に届かなかったことについては、不登校により受験をしていない生徒と不合格の生徒によるものであるが、不登校生徒については進路に対する意識を持ってもらうこと、不合格については、生徒個々の弱点の補強等が課題である。	(高校進学率) ・不登校の生徒の受験に向けての意識付けができるよう進路・教科指導等を充実させる。また、調査結果等の客観的なデータを利用して苦手科目の克服を図る。

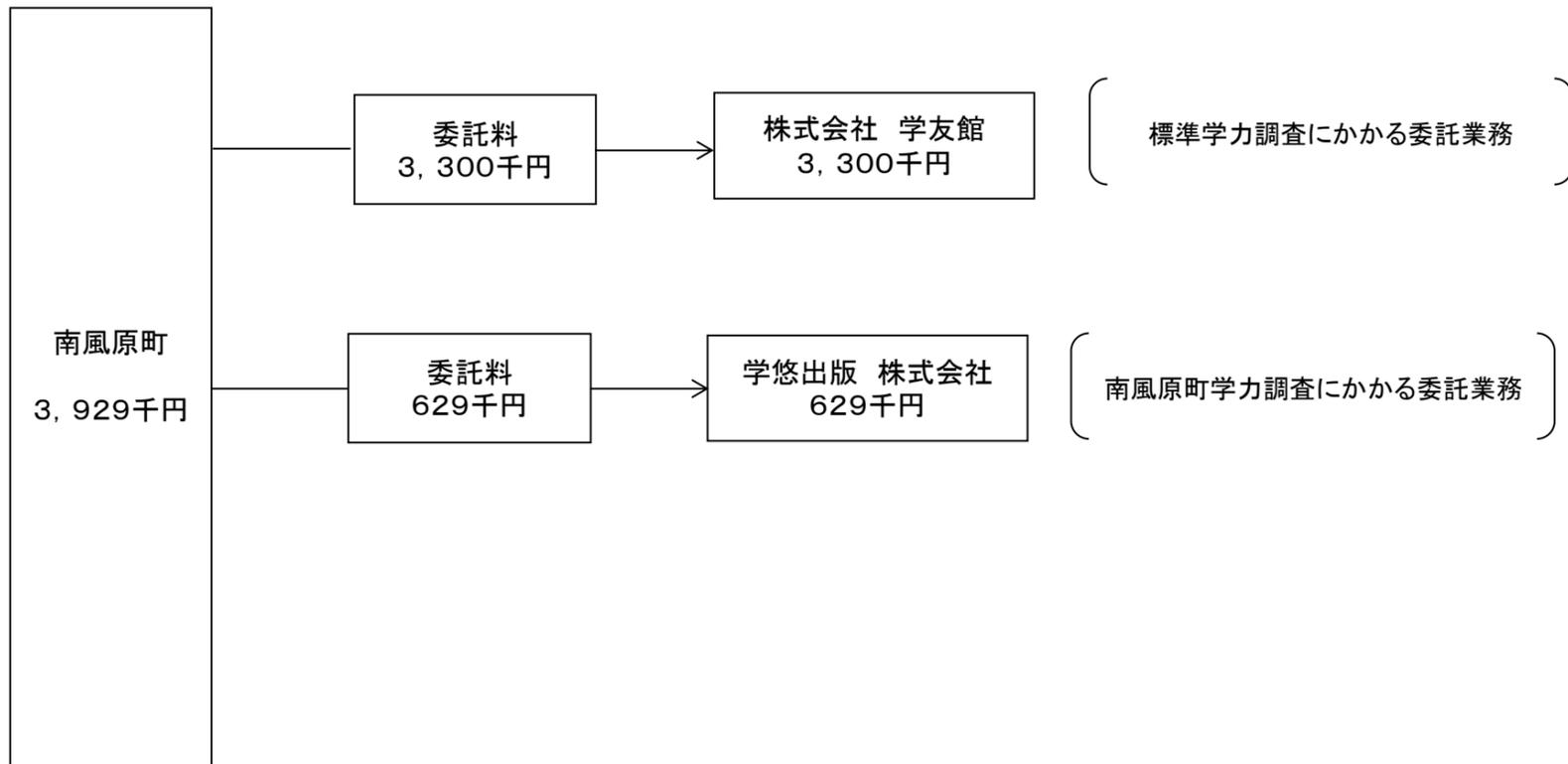
今後の取り組み方針

(学力調査)
・Web分析レポートを活用して個々の弱点を把握し、苦手科目を改善できるよう補習等を行い、次年度に向けたレディネスを揃える取組を充実させる。また、中学校においては、小学校の結果を踏まえ「学びの継続性」を意識した、小中連携をより一層進めていく。

(高校進学率)
・2学期(10月)に学力調査を行い、高校進学への意識付けにつなげていく。進路指導では、三者面談等で客観的なデータから自分の立ち位置を確認させ、生徒個々の弱点の補強ポイントについて、強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,929	3,929	3,143	786	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定方法は、全国で採用している市町村が多く学力の比較がしやすい調査を実施している業者を選定し、随意契約とした。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○費目・使途については、学力調査委託料として目的に即し、受験者数に応じ支出しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育の 推進		
事業内容	通常の授業ではついていけない児童生徒の授業の理解を深め、学力を向上させるために、学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,374	15,360	26,880	26,880	24,960
		(b) 予算現額	11,382	17,120	28,480	28,000	23,905
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,992	1,760	1,600	1,120	▲ 1,055
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		11,382	17,120	28,480	28,000	23,905
	B. 執行済額		10,265	16,480	27,771	27,863	23,879
	うち交付金充当額		8,212	13,184	22,216	22,290	19,103
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.2%	96.3%	97.5%	99.5%	99.9%
予算の状況の説明		執行率については99.9%であり、ほぼ計画どおり執行することができた。 学習支援員の募集をかけても応募がなく、年度途中の配置となったことから、補正により1,055千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援員配置数 小学校:9人、中学校:4人	目標	(小学校5人・ 中学校4人)	(小学校9人・ 中学校6人)	(小学校8人・ 中学校6人)	(小学校9人・ 中学校4人)	
		実績	小学校4人・ 中学校4人	小学校9人・ 中学校6人	小学校9人・ 中学校6人	小学校9人・ 中学校4人	
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	小学校学習支援員は4小学校の内3小学校に2人ずつ、1小学校に3人を配置し合計9人の配置を行った。また、中学校学習支援員は、各中学校に2人ずつ配置し合計4人の配置を行い、予定していた人数の学習支援員を各小中学校へ配置することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (年度)
	標準学力調査の平均正答率が目標値以上の科目数 小学校: 全科目(13科目) 中学校: 3科目以上	目標	()	(小学校:全 科目 中学校:3科 目以上)	()	()	()
		実績		小学校:12科目 中学校:2科目			
	進捗状況説明	小学校について平均正答率が目標値以上の科目は12科目で、目標に1科目届かなかった。 中学校について平均正答率が目標値以上の科目は2科目で、目標に1科目届かなかった。					

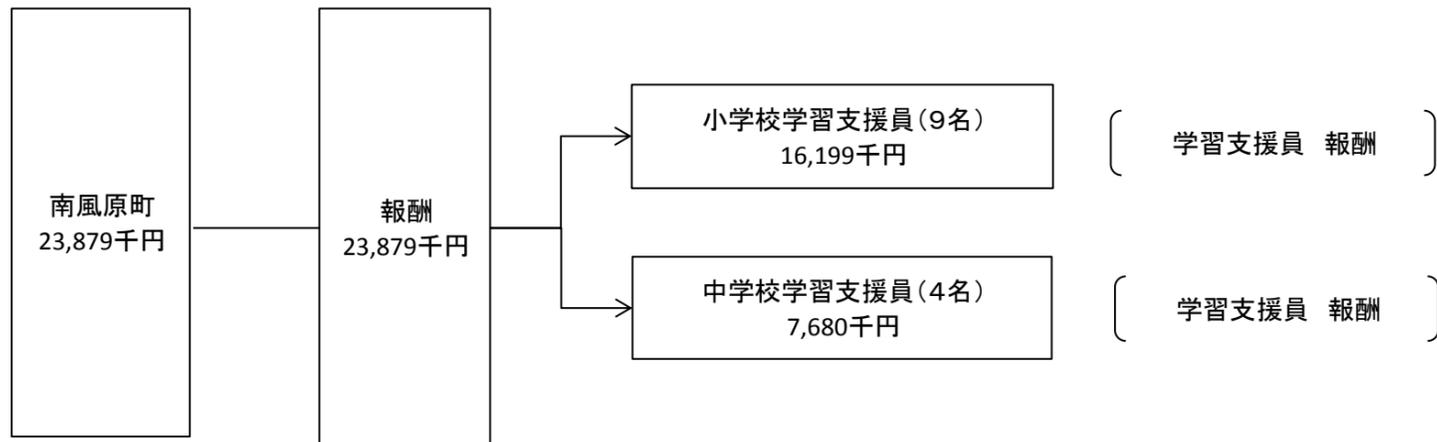
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に届かなかった原因として、未達成となった科目を苦手とする児童生徒が多い。 ・町内の全小・中学校に学習支援員を配置することができ、授業環境は改善していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未達成となった科目の基礎学力の向上・正答率などのキャッチアップを図る。 ・きめ細かい指導を行うために教材研究等に努め、苦手科目の学力向上を図る。

今後の取り組み方針

- ・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
- ・苦手科目等を効果的に指導するため、担任教諭と連携を図り、きめ細かい指導、教材研究等に取り組む。
- ・未達成科目においては、個別復習教材を活用して問題の復習を行い、児童・生徒の基礎学力の向上に繋げていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
23,879	23,879	19,103	4,776	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目用途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	授業で一斉指導についていけない多動や心身に障害を持った子どもに対して特別支援教育支援員を配置し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	49,234	59,536	78,379	74,267	62,080
		(b) 予算現額	51,364	50,790	78,379	57,606	51,612
		(c) 増減額(b-a)	2,130	▲ 8,746	0	▲ 16,661	▲ 10,468
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	51,364	50,790	78,379	57,606	51,612
	B. 執行済額		49,643	46,738	58,991	55,794	48,822
	うち交付金充当額		39,714	37,390	47,192	44,635	39,057
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.6%	92.0%	75.3%	96.9%	94.6%
予算の状況の説明		全校への特別支援教育支援員配置を行ったが、中途退職・中途採用があったため執行率は94.6%となった。予算10,468千円の減は、予定していた支援員の配置ができず欠員が生じた期間があったことから、他の事業へ2,768千円を流用し、更に3月補正により予算7,700千円を減額した。また、不用額2,790千円は、予算減額後に支援員の募集を行ったものの、予定数を配置できなかったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	特別支援教育支援員配置数 幼稚園:10人、小学校:29人、中学校:6人		目標 (幼稚園8名・小学校(校31名・中学校6名))	幼稚園12名・小学校33名・中学校6名	幼稚園10名・小学校35名・中学校6名	幼稚園10名・小学校29名・中学校6名	
			実績 (幼稚園6名・小学校31名・代替員4名・中学校5名)	(幼稚園11名・小学校33名・中学校6名)	(幼稚園9名・小学校34名・中学校6名)	(幼稚園15名・小学校30名・中学校5名)	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	町内小中学校・幼稚園への特別支援教育支援員の配置について、必要な支援員数の募集を行ったが、応募する人がなく中学校で1名配置することができなかった。 また、当初予定していなかったが、小学校へ1名、幼稚園へ5名の追加配置を行い、支援を必要とする児童・園児への支援を行うことができた。 一部で特別支援員を配置することはできなかったが、全体的には支援を必要とする児童生徒に対してきめこまかい支援をすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	対象となる児童等の保護者にアンケートを実施し、特別支援員の対応への満足度80%以上で目標達成とする。		目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績	86.3%			
	進捗状況説明	特別支援員の対応への満足度については、対象児童となる保護者へのアンケートを実施し、41名からの回答を集計した結果、満足度86.3%であり目標を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の支援に際しては、発達の違いにより支援方法も異なるが、臨機応変に対応できたことが目標値の達成に繋がった。 ・中学校で1名配置できなかったが、学校単位では、支援員の配置を調整しながら、支援を必要とする生徒に対して支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒への支援は、発達の違いやその場の状況などによって左右されるため、臨機応変に対応しなければならないことから、今後も更なる支援に取り組めるよう、質の向上に努めていく。また、担任、特別支援コーディネーター、支援員の連携を行い、十分な支援が行える体制を整えていく。 ・支援員の配置においては、児童生徒の状況や現場の状況にあった必要な配置に努めていく。

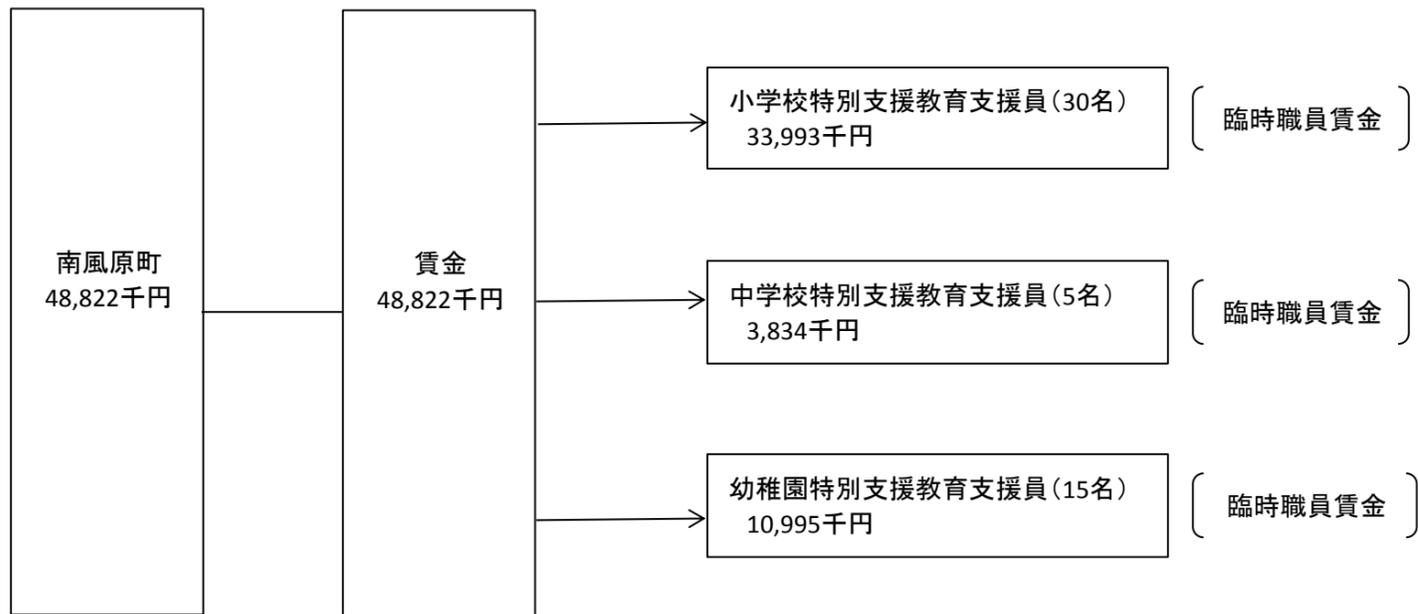
今後の取り組み方針

・担任、特別支援コーディネーター、支援員についての会議を実施し、多くの情報を共有することで対応の幅を広げ、支援員の質の向上を図る。また、幼小中で十分な連携が取れるよう合同研修会などを開催し、より良い環境を作っていく。

・引き続き、支援を必要とする児童生徒への支援員を配置し、それぞれの発達にあったきめ細かな対応を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
48,822	48,822	39,057	9,765	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○各学校に必要な配置を行っており、不用額は予算規模の5%程度であることから適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途が事業目的に即しているかについては「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 学校ICT推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学校においてパソコン等機器を充実させ、わかりやすい授業を行うことで、教育の質の向上を図り、学力向上やより良い人材の育成を行うための環境を整備する。また、ICT機器を活用した魅力ある授業を支援するため、ICT支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(b) 予算現額	17,640	91,477	54,074	22,713	46,825
		(c) 増減額(b-a)	124,971	89,800	56,653	21,170	43,534
		(d) 繰越額	107,331	▲ 1,677	2,579	▲ 1,543	▲ 3,291
		A. 計(b+d)	-	-	-	-	-
		B. 執行済額	124,971	89,800	56,477	20,498	43,513
		うち交付金充当額	99,976	71,840	45,181	16,398	34,810
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.7%	96.8%	100.0%
		予算の状況の説明	予算3,291千円減については、入札残等による補正減である。H29年度に計画していた事業内容はすべて実施した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	PC教室機器整備 2中学校	目標	()	()	()	(2中学校)	
		実績				2中学校	
	ICT支援員 2名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(2名)	
		実績	3名	3名	3名	2名	
達成状況説明	中学校のコンピュータ教室にICT機器82台を整備した。ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小・中学校に2名配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	(80%)			()
		実績		64.5%			
	教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合:80%以上	目標	()	(80%)			()
		実績		89.9%			
	進捗状況説明	授業が分かりやすかったと答えた割合については、2月に生徒にランダムで抽出を行いアンケートを実施した。その結果、64.5%が分かりやすかったと答えたが、成果目標達成に至らなかった。習熟度が上がったと答えた割合については、3月に教員にアンケートを実施した。その結果、89.9%が習熟度が上がったと答え、目標を達成することができ、ICT機器の活用やICT支援員の配置によってわかりやすく魅力ある授業を行い、教育の質や学力の向上に繋げることができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【ICT機器を使用することによる学校教育の質の確保】 ICT機器について、今年度は中学校コンピュータ教室の機器を整備したが、成果目標を達成できなかった。コンピュータ教室の利活用が少ないことも要因と考えられる。</p> <p>【ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟】 教育委員会とICT支援員の連携を強化していることと、ICT支援員の質が向上していることにより、教員のICT機器の習熟度が向上し、目標を達成したと考えられる。</p>	<p>【ICT機器を使用することによる学校教育の質の確保】 コンピュータ教室と、導入している学習支援ソフトウェアの利活用について周知を図る。</p> <p>【ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟】 引き続き教育委員会とICT支援の連携に努める。</p>

今後の取り組み方針

<p>【ICT機器を使用することによる学校教育の質の確保】 教員にコンピュータ教室で積極的に授業を行ってもらおう働きかけるとともに、導入している学習支援ソフトウェアや電子黒板の利活用を一層促進する。</p> <p>【ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟】 教育委員会とICT支援員とで連携を行い、教員に分かりやすく丁寧な支援を行い、教員のICT機器の習熟度を向上していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
43,513	43,513	34,810	8,703	0


```

graph LR
    A[南風原町 43,513千円] --> B[備品購入費 31,752千円]
    A --> C[委託料 11,761千円]
    B --> D[株式会社 興洋電子 31,752千円]
    C --> E[株式会社 興洋電子 11,761千円]
    D --- F["( 中学校コンピュータ教室ICT機器購入費  
中学校 82台 )"]
    E --- G["( ICT支援員に係る委託料  
支援員 2名 )"]
  
```

評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○ICT機器購入業者は、実績又は県内で取扱い可能な事業者を選定し、指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であった。また、ICT支援員委託事業はプロポーザル方式で選定を行い、妥当であった。</p> <p>○事業内容に基づき予算を執行しており、また支出先の選定も上述のとおり妥当であったことから、予算規模は適正な規模であった。</p> <p>○購入した備品は、事業内容に記載した、教育の質向上により児童・生徒の学力向上を図るためのものであり、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており適正</p>
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦ 教育相談支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	家庭・地域の教育機能の充実		
事業内容	不登校児童生徒の支援のため、青少年教育相談員、発達支援心理士、心の教室相談員、適応指導教室学習支援員、自立支援教室支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,960	8,367	8,942	8,943	16,142
		(b) 予算現額	3,434	7,283	7,708	6,793	16,139
		(c) 増減額(b-a)	▲ 526	▲ 1,084	▲ 1,234	▲ 2,150	▲ 3
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	3,434	7,283	7,708	6,793	16,139
	B. 執行済額		3,103	6,894	7,449	6,768	15,333
	うち交付金充当額		2,482	5,515	5,959	5,414	12,266
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.4%	94.7%	96.6%	99.6%	95.0%
予算の状況の説明		不用額806千円は、自立支援教室指導員2名の配置が当初より遅れたことと、心の教室相談員の勤務実績によるものである。執行率は95.0%であるが、最終的には必要な配置が全て行えた。予算について、流用により3千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年教育相談員1名配置 ・発達支援心理士1名配置 ・心の教室相談員4名配置 ・適応指導教室学習支援員2名配置 ・自立支援教室支援員2名配置 	目標	(配置)	(配置)	(配置)	(配置)	
達成状況説明	教育委員会に青少年教育相談員及び発達支援心理士を各1名配置した。小学校3校と中学校2校に心の教室相談員を各1名配置した。中学校2校に適応指導教室学習支援員及び自立支援教室支援員を各1名を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の原因を究明分析し、学校・福祉分野・地域との連携した結果を報告する。(連携事業の報告) 	目標	()	(報告)	()	()	()
		実績			報告済		
	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の1,000人当たりの不登校児童生徒数を全国平均以下にする。 	目標	()	(13.5人)	()	()	()
		実績			19.5人		
【H30成果目標】不登校児童生徒復帰率		目標					60%
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・連携事業の報告については、不登校が増えた要因を分析して報告し、今後も学校・家庭・地域が連携して登校支援の体制に取り組むことを確認した。 ・不登校児童生徒数については、1,000人当たりの不登校児童生徒数が、昨年度の10.7人から大幅に増え19.5人となり、全国平均を上回った。 						

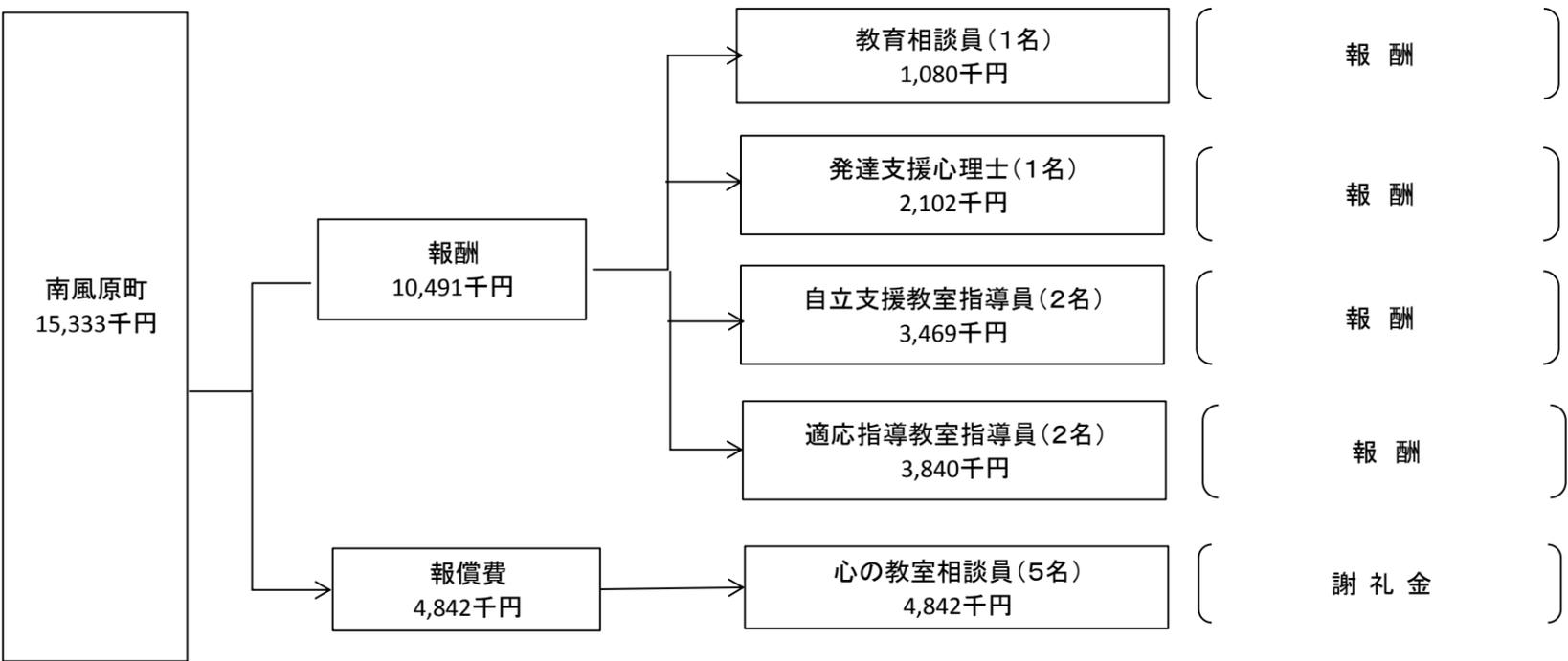
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業は不登校児童生徒数の改善を目的としているが、登校復帰しても不登校児童生徒数は計上されるため、事業の効果が計りにくい。</p> <p>29年度に不登校児童生徒数が大幅に増えた要因は、フリースクールをはじめ民間施設の活用など不登校の対応における社会の意識の変容や、集団生活への不適応、発達障害などの特別支援的な要素など、多様化している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果を計るため、登校復帰した児童生徒数を把握する。 ・多様化する不登校の要因に対応するため、関係機関で連携する。

今後の取り組み方針

- ・不登校児童生徒数の改善を検証するため、教育相談等により登校復帰することができた児童生徒数を把握することで、本事業のあり方を検証する。
- ・多様化する不登校の要因に対して、行政・学校・家庭・地域が連携して登校支援の体制に取り組めるよう情報共有の場を設ける。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,333	15,333	12,266	3,067	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○教育相談員、発達支援心理士、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧ 中学校外国人英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、中学校に英語指導助手を配置する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780	
		(b) 予算現額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780	
	B. 執行済額		3,780	3,780	3,730	3,780	3,780	
	うち交付金充当額		3,024	3,024	2,984	3,024	3,024	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画どおり執行できた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	外国人英語指導助手の配置 中学校 1名	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)		
		実績	1人	1人	1人	1人		
			目標	()	()	()		
			実績					
達成状況説明	目標のとおり配置することができ、外国人によるネイティブ英語の授業を展開することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (30年度)	
	標準学力調査の平均正答率が50点以上	目標	()	(50点以上)	()	()	()	
		実績		69.7点				
	【H30成果目標】 標準学力調査の平均正答率について、目標 値との差を縮める。 1年:-2.6ポイント以内 2年:-2.7ポイント以内		目標					1年:-2.6 2年:-2.7
	進捗状況説明	中学校に外国人英語指導助手を配置したことで、目標である標準学力調査における平均正答率50点以上を達成することができた。生の英語を聞くことで基礎力向上に繋がっていることから、今後も外国人英語指導助手を配置し、通常授業を更に充実させ英語の学力向上に努めたい。						

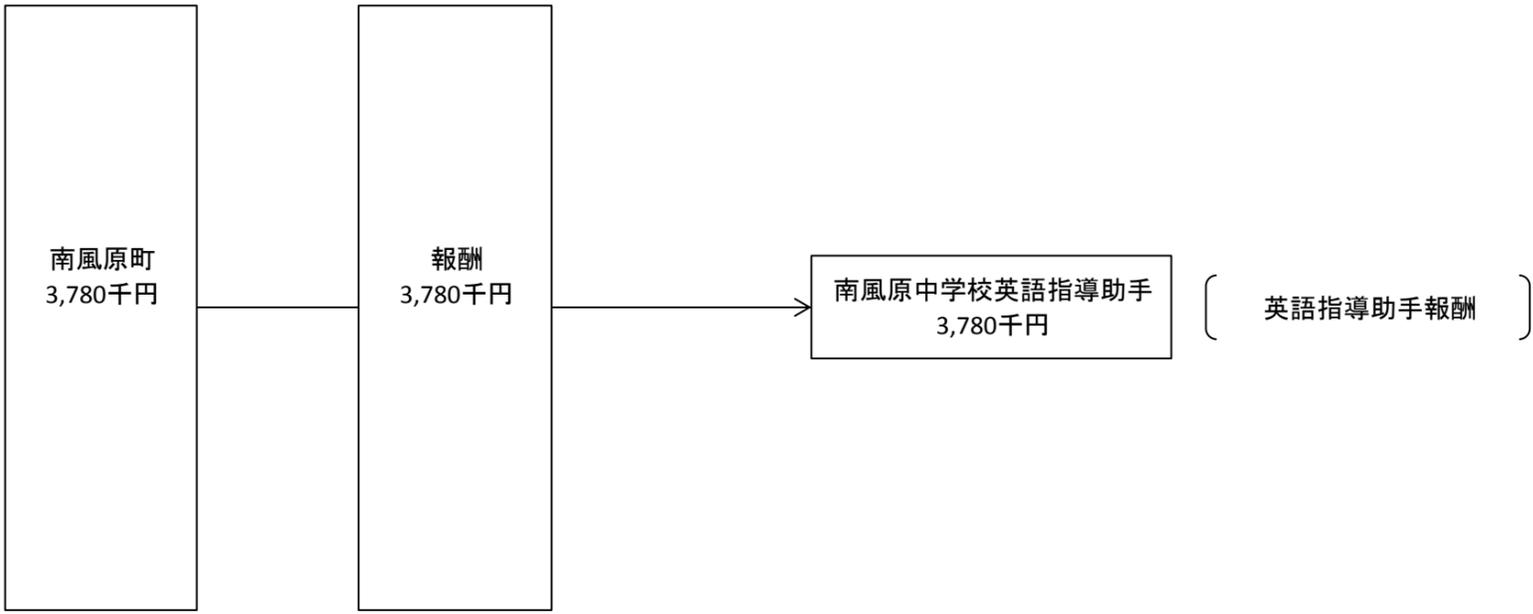
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	生の英語に触れることで英語を身近に感じ、抵抗を少なくすることができる反面、まだ英会話などを苦手としている生徒がいることから、通常授業との相乗効果が弱く感じられる。	授業の中だけではなく、授業以外でも英会話を使ったコミュニケーションが取れるよう普段の学校生活の中で、英会話への苦手意識を少なくする工夫が必要である。また、生の英語を活かせるよう、通常授業の向上を図る。

今後の取り組み方針

・普段の学校生活の中で、英会話を使った挨拶などをする事で、英語への苦手意識を少なくすることに繋げていく。また、授業においても生徒の興味や関心がある話題を出すことで、楽しく学べるような環境を作り、英会話への抵抗を減らしていく。
 ・中学校英語への移行を抵抗なくできるよう、小学校英語より意識を持たせ、連携を図っていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,780	3,780	3,024	756	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた給与を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨ 南風原町各種大会派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	県外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせるため、小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,837	1,837	1,990	1,991	1,800
		(b) 予算現額	1,991	1,837	1,990	1,639	1,400
		(c) 増減額(b-a)	154	0	0	▲ 352	▲ 400
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,991	1,837	1,990	1,639	1,400
	B. 執行済額		1,991	1,197	1,685	1,404	1,123
	うち交付金充当額		1,592	957	1,348	1,123	898
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	65.2%	84.7%	85.7%	80.2%
予算の状況の説明		県外大会に参加する児童生徒に対し、派遣費の一部を補助した。 補正による予算の減額400千円及び不用額227千円は、計画していた人数よりも下回ったためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	児童生徒の大会派遣の支援		目標 (派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	
			実績 派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	児童・生徒を運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣することができた。 九州大会5種目、全国大会3種目、58人の児童生徒が出場できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度		目標値(30年度)	
	補助対象の児童・生徒全員への支援完了		目標 ()	(全員への支援)	()	()	
			実績	全員への支援			
	【H30成果目標】対象児童等の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童等の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。		目標			80%	
	進捗状況説明	事業の推進にあたっては、小・中学校へ本事業の周知を図り、学校と連携して補助対象の児童・生徒の把握に努め、対象者全員への支援を行うことができた。					

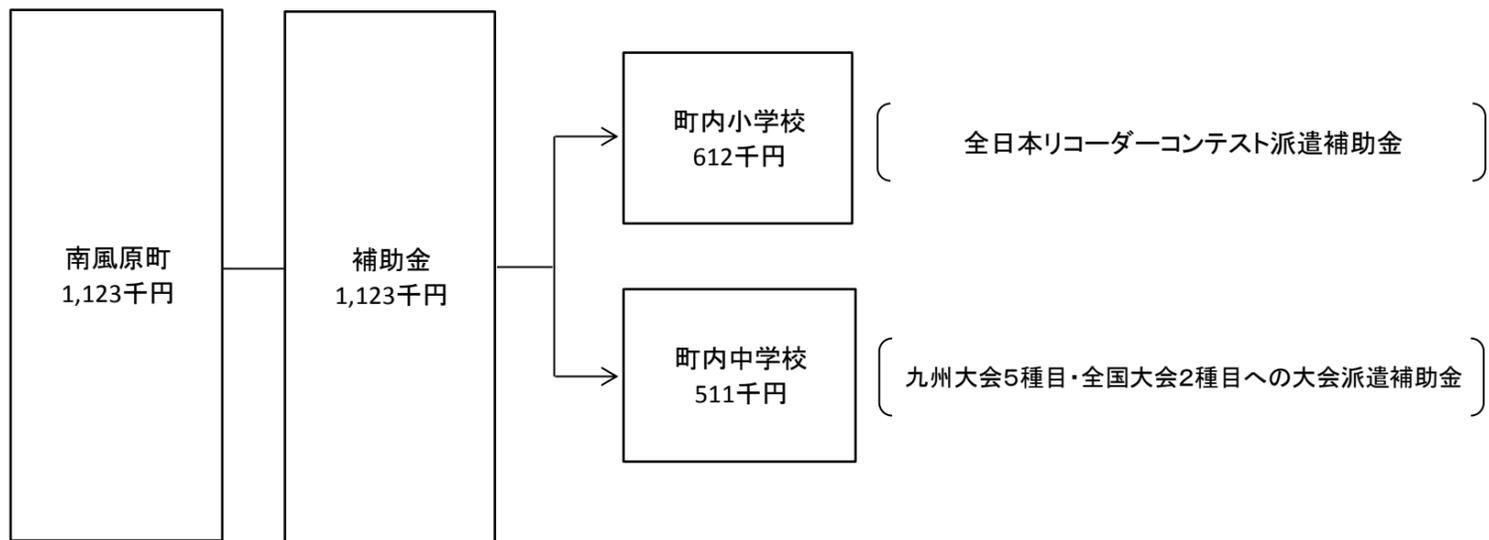
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(補助対象の児童・生徒全員への支援) 学校と連携して補助対象の児童・生徒の把握に努めたことで対象者全員へ支援することができた。	補助対象の児童・生徒全員への支援については、本制度の周知と学校と密に連携をとることで適切に事業を実施することができているため、引き続き支援に取り組んでいく。

今後の取り組み方針

引き続き学校へ本制度の周知し、学校と密に連携をとることで対象となる児童生徒の把握に努め、補助対象の児童・生徒全員への支援に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,123	1,123	898	225	0



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩ 南風原町県外等派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,979	2,976	2,976	2,976	2,976
			2,154	2,237	2,341	2,076	3,051
			▲ 825	▲ 739	▲ 635	▲ 900	75
			-	-	-	-	-
			2,154	2,237	2,341	2,076	3,051
	B. 執行済額		2,024	2,004	2,299	2,002	3,021
	うち交付金充当額		1,619	1,603	1,839	1,601	2,416
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.0%	89.6%	98.2%	96.4%	99.0%
予算の状況の説明		見込みより申請増となったため、予算流用で75千円増額した。変更後の金額は執行できており、適正な予算執行ができたと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	目標	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	
		実績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	軟式野球やバドミントン、テニスなど多様な競技について、146人(46件)を支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	児童・生徒及び青年会等派遣人数(累計): 140人	目標	(138人)	(140人)	(140人)	(140人)	()
		実績		139人	124人	146人	
	【H30成果目標】対象児童等の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者等に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。		目標				80%
	進捗状況説明	派遣人数については、146人で目標の140人を上回り、H28年度と比較して22人の増となった。参加した生徒からは、県大会より上位の大会に参加する事で「県外のレベルを知ることができた」、「来年も頑張りたい」、「試合後、他県の試合を観戦することで良い経験となった」などの声があった。					

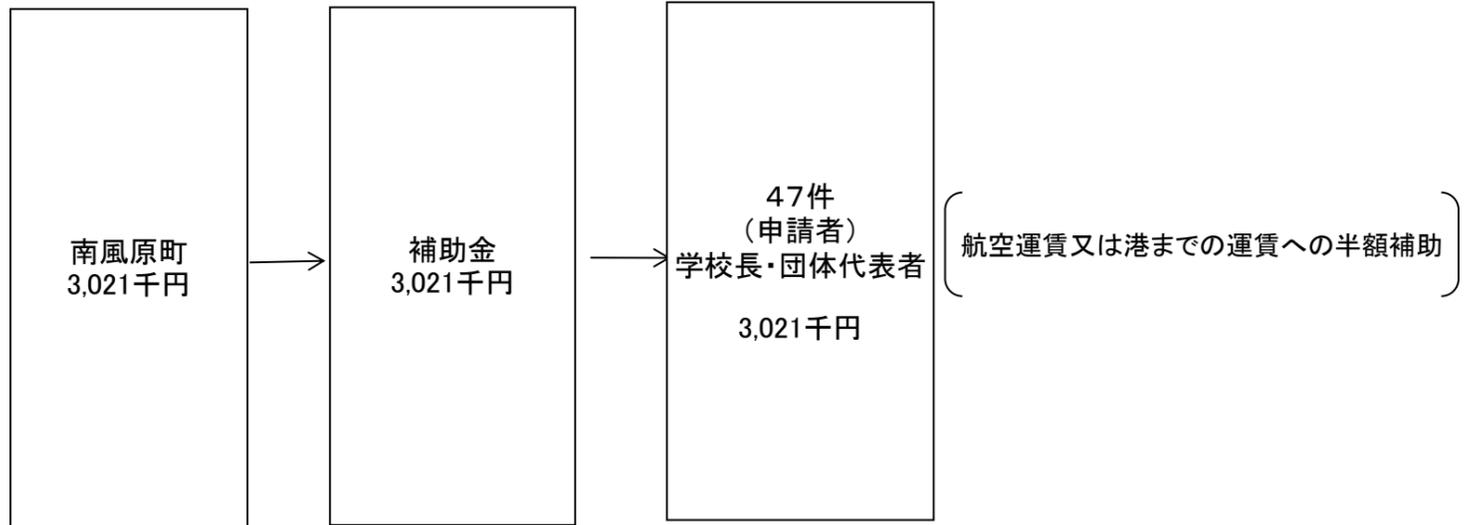
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	制度を知らないことにより期限内に申請が間に合わない等の申請漏れがあったことから、制度の周知を定期的かつ継続的に行い、迅速な申請手続きが出来るように促す必要がある。	学校との連携を強化して、支援事業の周知を図るとともにホームページや広報誌等からの情報発信を行うことで、申請漏れを防いでいく。

今後の取り組み方針

小・中学校と連携して事業の周知を図るとともに、生徒や保護者から県外派遣の連絡があった際には、担当課へ連絡をするよう依頼する。また、ホームページや広報誌等で情報発信を行い、事業の問い合わせがある場合は、大会期日の確認等を行い、申請期限の提示をして早めの申請を促していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,021	3,021	2,416	605	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、要綱に照らして決定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援金額についても普通運賃額を超えないように比較し適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪ 南風原町幼稚園体育活動充実事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第三章-5-(3)-イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進					
担当部課名	教育部 教育総務課 事業実施(予定)年度 平成28~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-(1)					
事業内容	南風原町内の幼稚園児を対象とし、運動能力を向上させるため、専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,281	1,711			
			1,046	1,711			
			▲ 1,235	0			
			—	—			
			1,046	1,711			
	B. 執行済額		1,046	1,711			
	うち交付金充当額		836	1,368			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画どおり、事業を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目標 (実施) 実績 実施	(実施)	(実施)	()	()	
達成状況説明	・南風原町内の町立4幼稚園の5歳児及び4歳児を対象に専門講師による技術指導を行った。 ・町立4幼稚園の各園5歳児に27回、4歳児に9回体育指導を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	逆上がりの習得:90%	目標	()	(90%)	(90%)	()	()
		実績		25.34%	23.60%		
	跳び箱3段の習得:90%	目標	()	(90%)	(90%)	()	()
		実績		64.96%	67.77%		
【H30成果目標】 運動する楽しさを実感したか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標				80%	
進捗状況説明	・逆上がりの習得については、394人中93人が習得したが目標の90%には届かず、昨年度より1.74%下回る結果となった。 ・跳び箱3段の習得については、394人中267人が習得し、目標の90%には届かなかったが、昨年度より2.81%上回った。						

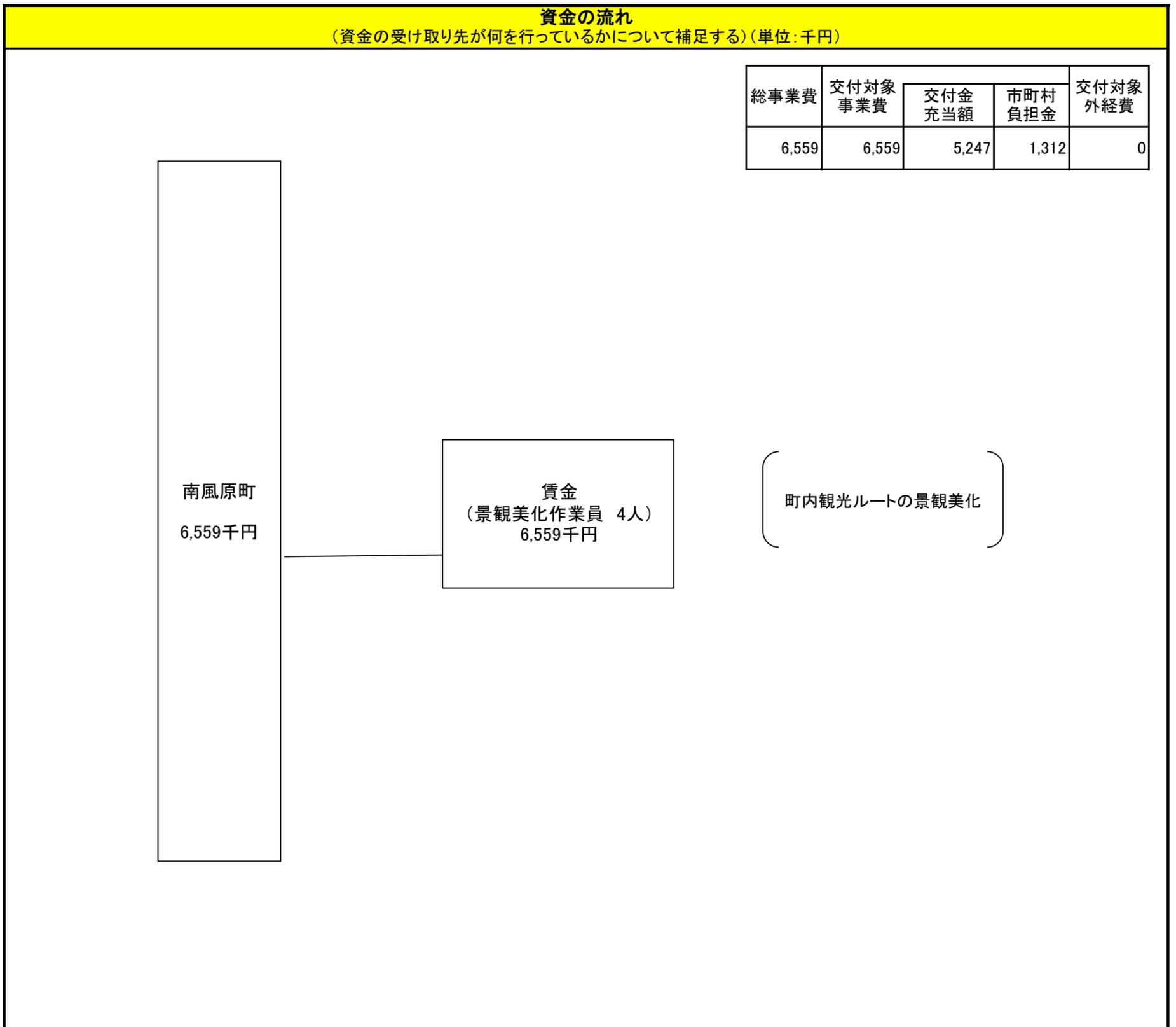
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(逆上がりの習得) ・実施計画どおり指導を実施したが、目標値を達成することができなかった。また習得率も前年度実績を下回った。 (跳び箱3段の習得) ・実施計画どおり指導を実施したが、目標に達することができなかった。ただ習得率は、前年度を上回っている。	(逆上がり、跳び箱3段の習得) ・実施計画に沿って指導がなされているにも関わらず、過去2年間の実績が大きく下回る結果となったことから、事業の効果を適切に測る指標について再検討を行う。
今後の取り組み方針		
・平成30年度は、運動する楽しさを感じることで運動能力を向上させる視点から、目標値を運動する楽しさを実感したか(80%)に変更し、幼稚園の体育指導を継続的に実施することで、町内の子どもたちの健康の保持促進を図りながら、運動能力の向上に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	1,711	1,711	1,368	343	0
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">南風原町 1,711千円</div> <div style="margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">委託料 1,711千円</div> <div style="margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">株式会社太陽スポーツクラブ 1,711千円</div> <div style="margin-left: 20px;"> (南風原町立幼稚園体育活動充実支援委託業務) </div> </div>					

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約(プロポーザル実施)により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 南風原町観光景観美化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光ルートの美化整備を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,442	6,442	6,442	6,442	6,780
		(b) 予算現額	6,442	6,442	6,442	6,442	6,780
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	6,442	6,442	6,442	6,442	6,780
	B. 執行済額		6,128	6,184	6,061	6,104	6,559
	うち交付金充当額		4,902	4,947	4,848	4,883	5,247
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.1%	96.0%	94.1%	94.8%	96.7%
予算の状況の説明		予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	観光ルート延長L=12,600mの町道メンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を実施	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・景観美化作業員を4名雇用し、町道のメンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	観光ルート延長L=12,600mの町道メンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を実施	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実績		実施	実施	実施	
	【H30成果目標】魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標				80%
	進捗状況説明	・南部の観光ルート拠点として、町道の草木の伐採を恒常的に行い、道路の景観を維持することができた。 ・夏季に著しく繁茂した草木の処理に対応するため、除草剤を使用するなど草木の処理を徹底した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・南部の観光ルートでもある町道は、景観を維持するために常に巡回して草木やゴミを処理することが必要である。 ・町道の草木は夏季に著しく成長するため、主要な道路の草木を重点的に処理するなどの対応が必要となってくる。今年度より国や県に準じ、除草剤を使用し草木等の処理の徹底を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ルートの景観を維持するために関係施設周辺の点検を行い、環境美化の充実を図る。 ・繁茂する草木の伐採時期及び薬剤散布日の作業時期等について検討する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光ルートの景観を維持するために、毎月1回施設周辺の点検に努め、美化の向上が町全域に広がるよう取り組んでいく。 ・繁茂する草木の伐採時期や薬剤散布については、適切な時期に実施するよう計画的に取り組んでいく。 		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② かすりの道活性化プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	「かすりの道」を活用した魅力的な観光地づくり、まちづくりを促進し、認知度を高めるため、地域住民参加による緑化活動や観光客を誘客するためのイベントを開催する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	4,254	9,044	4,709	4,663
		(b)予算現額	3,753	4,254	10,175	4,709	4,663
		(c)増減額(b-a)	▲1,247	0	1,131	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	3,753	4,254	10,175	4,709	4,663
	B.執行済額		3,343	3,962	8,613	4,451	4,562
	うち交付金充当額		2,674	3,169	6,890	3,561	3,649
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.1%	93.1%	84.6%	94.5%	97.8%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	イベント開催:4回	目標	(6回)	(6回)	(4回)	(4回)	
		実績	7回	13回	15回	17回	
	かすりの道緑化活動:10回	目標	(10回)	(10回)	(10回)	(10回)	
		実績	28回	29回	19回	20回	
達成状況説明	・かすりの道ツアー等の誘客イベントを12回、古民家活用イベントを5回開催し、町内外から386人の参加があった。古民家を活用した「落語寄席」など参加者からは好評であった。 ・かすりの道緑化活動は、かすりの道両側に植栽をした草花の雑草取り、施肥、季節の花の植付などを周辺住民と観光協会が毎月第1日曜日などに定期的に行うとともに、かすりの道の路面清掃も行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	イベント参加者:360人	目標	()	180人	360人	(360人)	()
		実績		198人	364人	231人	
	かすりの道散策ツアー参加者:360人	目標	()	360人	360人	(360人)	()
		実績		126人	121人	155人	
	進捗状況説明	(イベント参加者) ・イベント参加者数については、「落語寄席(古民家落語の夕べ)」など5回のイベントを開催したが、参加者は231人で目標には届かなかった。 (散策ツアー参加者) ・散策ツアー参加者については、かすりの道ツアー12回を開催し、155人の参加者で昨年より34人の増となったが、目標には届かなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(イベント参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者が目標に届かなかった理由は、一部のイベントを参加型から事前申込み制の体験型に変更したことから、参加者が減少した。リピーターと新規の来場者を増やすためにイベント内容の充実を図るなどの取り組みが課題である。 <p>(散策ツアー参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に届かなかった原因としては、ツアーの内容によってリピーターの参加が少なかったためと思われる。 	<p>(イベント参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの内容の充実と募集方法の工夫を図り、参加者の増に繋げる。 <p>(散策ツアー参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなメニューを開発すると同時に既存のツアーを充実させることで、参加者の増に繋げる。

今後の取り組み方針

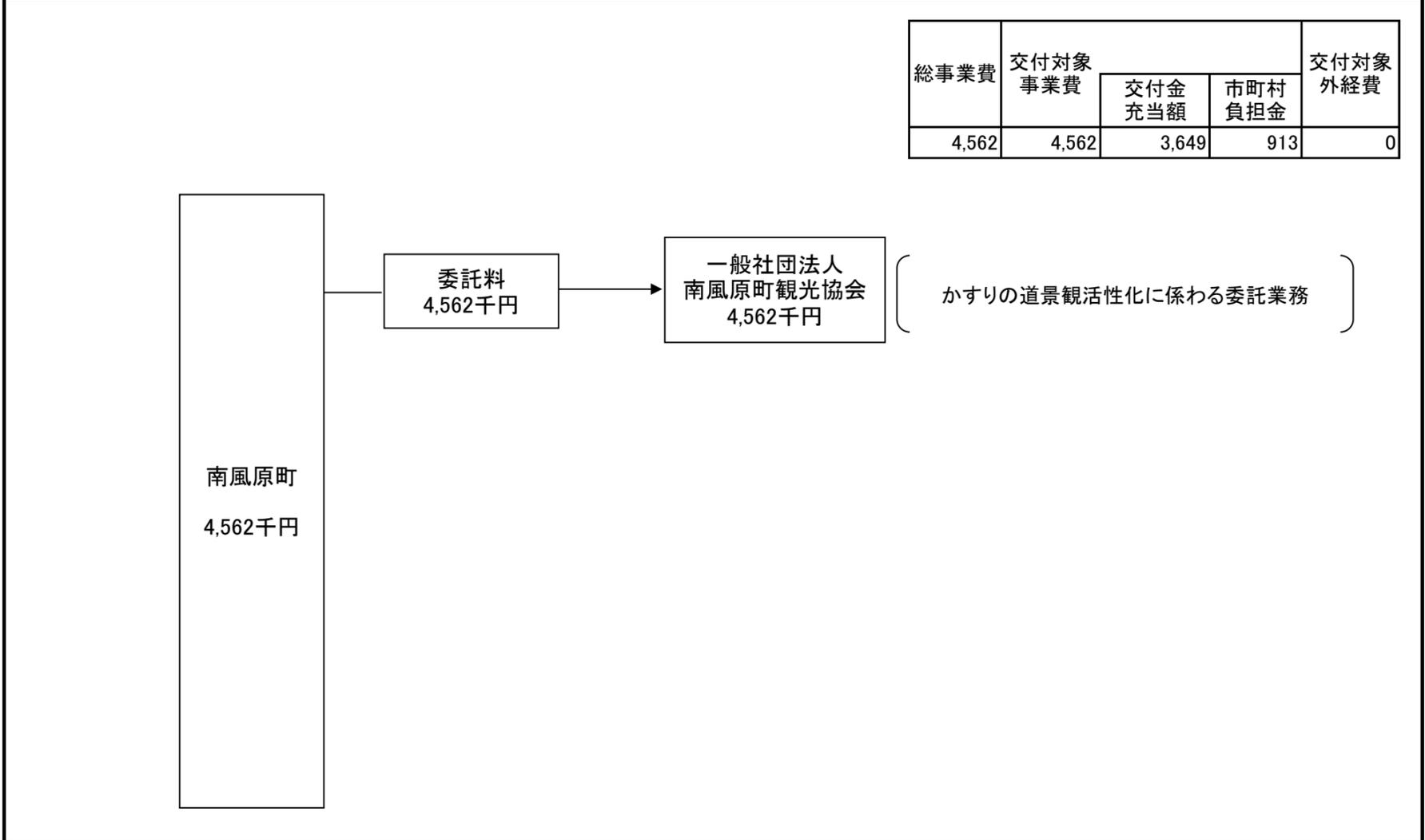
(イベント参加者)

- ・人気のある古民家コンサートや落語寄席などのイベントを継続して開催するとともに、琉球藍染めが体験できる体験型イベント内容の充実を図り、参加者増に向けて取り組む。

(散策ツアー参加者)

- ・多様なツアーメニューの開発に地域と一体になって取り組むとともに、観光協会HPでの情報発信を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の契約先である一般社団法人南風原町観光協会は来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費用は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	デザイン・くくり担い手育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ			
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成		
事業内容	琉球絣の製造に5年以上関わる中堅の技術者に「デザイン・くくり」の技術習得の場を提供し、不足している「デザイン・くくり」の継承者の育成を図る。実習生自身で、考案したデザインから染織までの工程を年6回行い、実践に近い感覚で「デザイン・くくり」の技術習得を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	24,899	14,749	16,457	5,884
		(b) 予算現額	17,770	22,791	14,749	13,622	5,884
		(c) 増減額(b-a)	▲ 12,230	▲ 2,108	0	▲ 2,835	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	17,770	22,791	14,749	13,622	5,884
	B. 執行済額		16,140	22,275	13,849	11,809	5,785
	うち交付金充当額		12,912	17,820	11,079	9,447	4,628
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.8%	97.7%	93.9%	86.7%	98.3%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業はすべて実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	工場の即戦力となるデザインくくりの技術者を育成する	目標	(技術者育成)	(技術者育成)	(技術者育成)	(技術者育成)	
		実績	技術者育成	技術者育成	技術者育成	技術者育成	
		目標	(—)	(—)	(—)		
		実績	—	—	—		
達成状況説明	・今回からは基本的な絣の知識、織りの技術などは習得している中堅の技術者が対象者のため、短い実習時間の中から、デザイン、種糸取り、整経、くくり、染織の工程を年間で6回行うことができた。 ・1年間という短い期間であったが、成果を成果展というかたちで発表し、デザインくくりの基本的な技術者育成が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	デザインおこし、くくりの知識、技術習得	目標	()	(技術習得)	()	()	()
		実績		技術習得			
	研修生がデザインしたオリジナルの反物を一人3種類製作	目標	()	(一人3種類製作)	()	()	()
		実績		一人3種類製作			
	進捗状況説明	(知識、技術習得) ・H29年度は5年以上琉球絣の製造に関わる中堅の技術者5名が実習を行い、技術を習得した。 (一人3種類製作) ・研修生自身でデザインした絣の反物を一人3種類製作し、目標を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(知識、技術習得) ・紺事業に従事している中堅の技術者を対象にしたことで、講師の指導がスムーズに行え、知識・技術の習得を達成できたが、知識・技術はそれぞれの実習生の習熟度で、多少の差が出てくる。	(知識、技術習得) ・実習生同士の教えあいを取り入れ、知識・技術の落とし込みを行う。
	(一人3種類製作) ・今回は6反挑戦して、3反オリジナル、3反共通のデザインで制作したが、それぞれの実習生に、製作する順番を任せた結果、進捗状況に差が生じた。	(一人3種類製作) ・製作にあたっては、順番やデザインの製作時期を調整することで、効率的な実習につなげる。

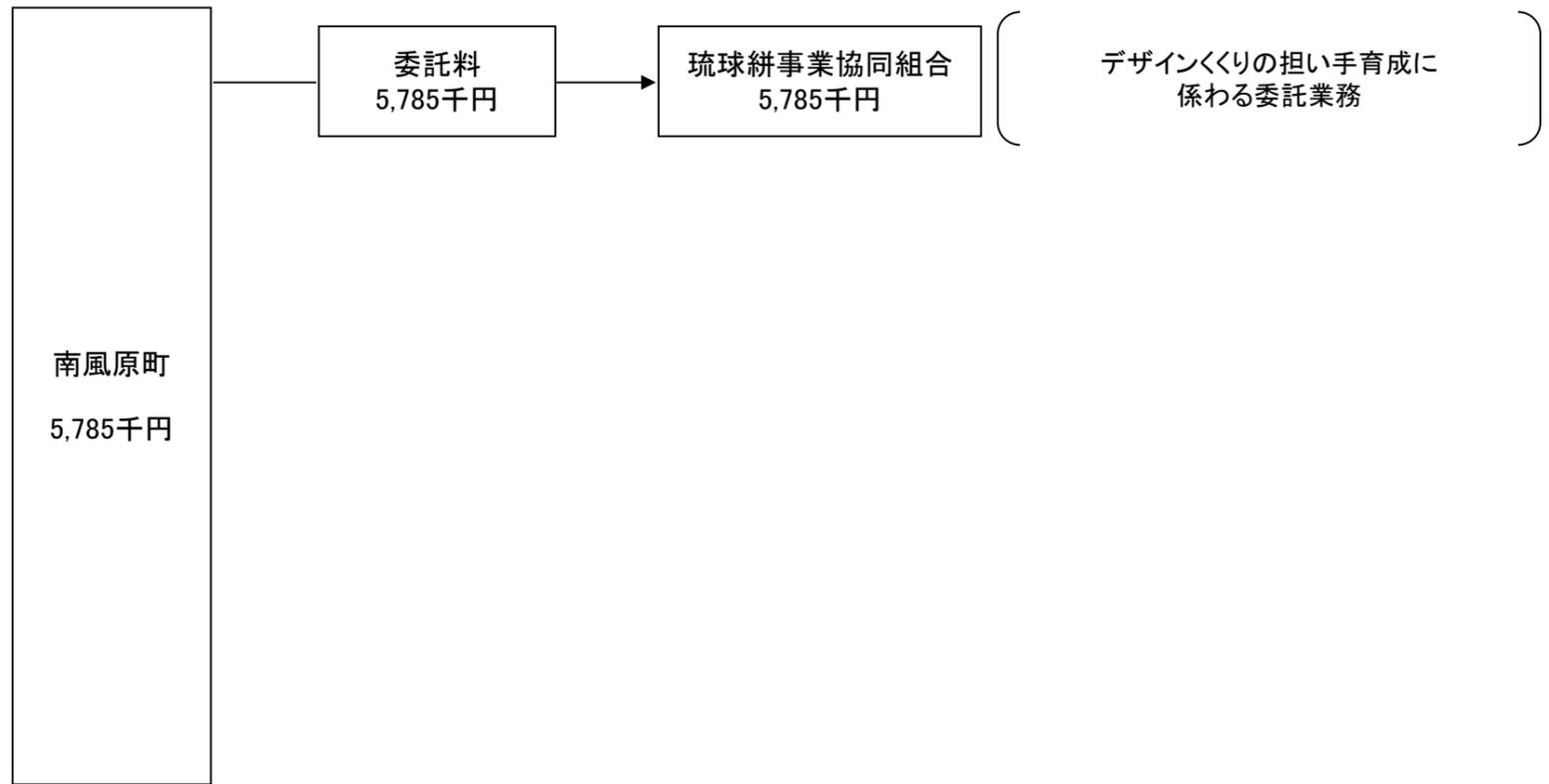
今後の取り組み方針

(知識、技術習得)
・1反ごとに2人のグループと3人のグループに分けて製作を行い、グループ内での進捗管理を行いながら、知識・技術の落とし込みを行っていく。

(一人3種類製作)
・オリジナルのデザインと共通デザインの取り組み時期を共通で行う。スケジュール管理を密に行い、先行している実習生が遅れている実習生の補助に入ること
で製作時期の調整を行いながら進めていく。
・琉球紺の絹上布と南風原花織と組み合わせた反物など、琉球紺の分業制を維持できるように「デザイン・くくり」の製品に合わせた技術習得に向けた事業に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,785	5,785	4,628	1,157	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球紺組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球紺の歴史的背景や50を超える琉球紺事業者の会員で構成され、琉球紺の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は紺組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④ 危険生物駆除事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光客等をハブ咬傷から守るため、ハブトラップを設置するとともに、その周辺を重点地域として巡回する危険生物駆除員を配置し、安全な観光地を目指す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,523	1,749	1,833		
		(b) 予算現額	2,010	1,749	1,834		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 513	0	1		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	2,010	1,749	1,834		
	B. 執行済額		1,679	1,622	1,699		
	うち交付金充当額		1,343	1,297	1,359		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		83.5%	92.7%	92.6%		
予算の状況の説明		ほぼ、事業計画のとおり執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	捕獲器を町内に50器設置	目標	(30器)	(40器)	(50器)		
		実績	30器	37器	40器		
	巡回を実施	目標	(—)	(実施)	(実施)		
		実績	—	実施	実施		
達成状況説明	当初ハブ捕獲器50器を観光地内へ設置見込であったが、ハブの捕獲状況から40器で充足したことから、10器は設置不要となった。巡回について毎週1回実施し、捕獲状況の確認や、捕獲器の保守点検に努めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	観光地内におけるハブ咬傷件数 0件	目標	()	(0件)	(0件)	()	()
		実績		0件	0件		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	危険生物駆除臨時職員を1名配置し、町内50箇所に捕獲器の設置を予定していたが、捕獲状況から40器となった。毎週1回の巡回を実施し、62匹を捕獲することができた。					

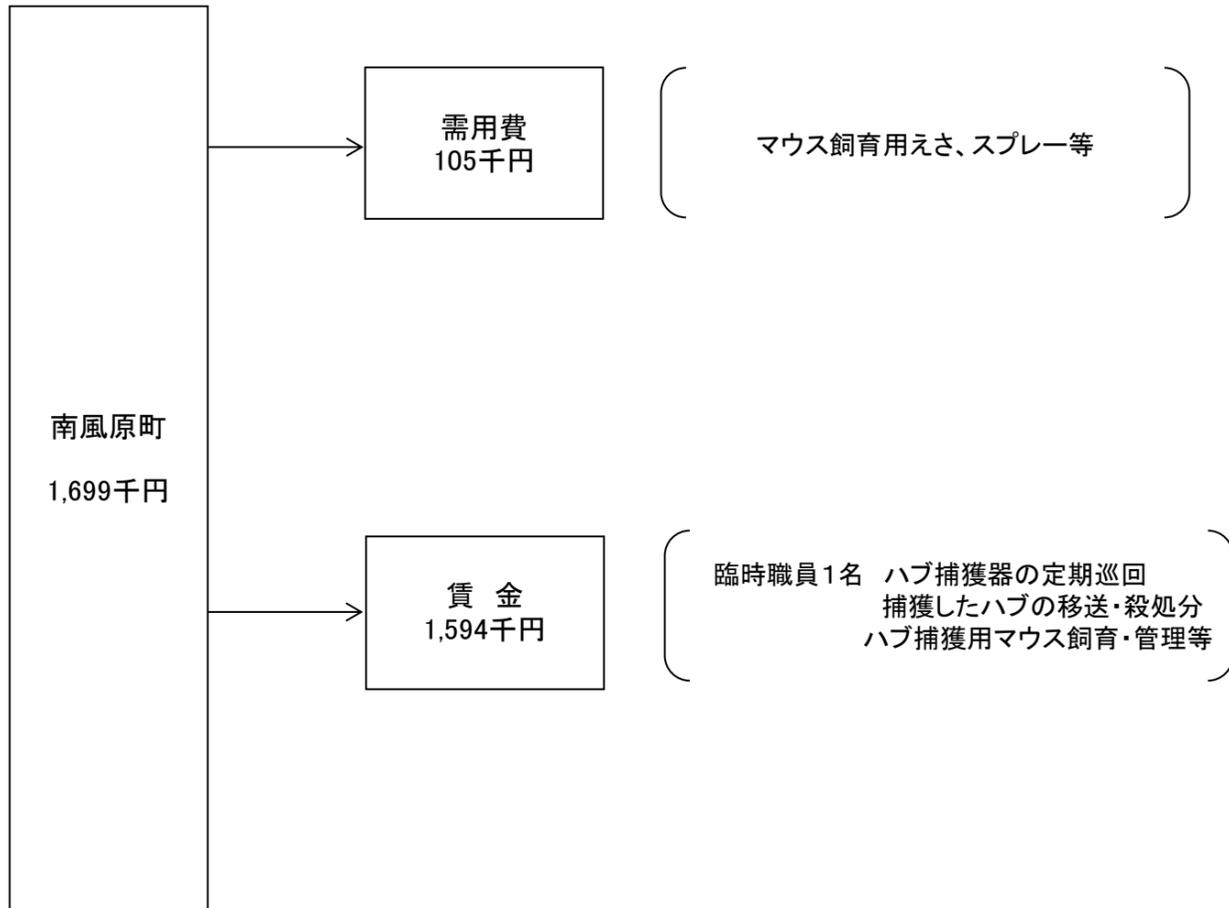
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>ハブは4月頃から活動が活発化するため、観光客等へ咬傷被害がないよう定期的に巡回し、注意喚起したこと等が要因と考えられる。 各字の古民家ツアーや、町歩き探検で住宅地などを散策するため町内全体が観光地となり、捕獲器の設置要請が増えている。</p>	<p>観光地内のハブの生息区域に捕獲器を設置し、立ち入り制限の看板を設置するなどして、観光客等への注意喚起を図る。 観光ルートになっている住宅地にも捕獲器を設置し、観光客の咬傷被害の防止を図る。</p>

今後の取り組み方針

今後も危険生物駆除臨時職員を配置し、必要な箇所への捕獲器の設置及び巡回を行う。また、捕獲器周辺に立ち入り制限の看板を設置し、観光客に危険区域であることを周知する。町広報誌やホームページ等でも注意喚起を行い、咬傷件数0件を目指して取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,699	1,699	1,359	340	0



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○臨時職員は面接を行い、適正人物を採用し妥当である。 ○予算規模について、不用額は135,000円であり、適正な規模であったと考えている。 ○事業目的以外の用途には私用していないため適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤ 民泊啓発推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、民泊家庭登録者数の増のためのPRや民泊登録家庭に対する研修の実施、民泊の誘致を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,598	3,563	3,375	3,794	3,750
		(b) 予算現額	2,644	3,563	3,375	3,794	3,750
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,954	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	2,644	3,563	3,375	3,794	3,750
	B. 執行済額		2,337	3,389	3,149	3,480	3,504
	うち交付金充当額		1,869	2,711	2,518	2,784	2,803
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.4%	95.1%	93.3%	91.7%	93.4%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・不用額246千円については、計画段階の委託費よりも使用料、消耗品などの実績が下回った事による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	宿泊体験登録家庭数:29家庭		目標 (5家庭)	(20家庭)	(26家庭)	(29家庭)	
			実績 7家庭	7家庭	8家庭	累計36家庭	
	修学旅行誘致営業:1回		目標 (—)	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績 —	3回	1回	1回		
達成状況説明	宿泊体験の、年間登録目標29家庭に対し、受け入れ家庭を5家庭増やし累計36家庭となった。県内、外の旅行会社に対して、ダイレクトメールを発送、誘致の営業を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	宿泊体験受入数:300名		目標 ()	(90名)	(200名)	(300名)	()
			実績	175名	427名	606名	
	新規受入学校:3校		目標 ()	(1校)	3校	(3校)	()
			実績	13校	10校	13校	
	【H30成果目標】 宿泊体験登録家庭数:新規		目標				8家庭
	【H30成果目標】 民泊体験者数		目標				450人
進捗状況説明	・宿泊体験受入数については、300名の目標に対し、前年度より179名増の606名で目標を達成した。 ・新規受入学校については、3校の目標に対し、前年度より3校増の13校で目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(宿泊体験受入数) ・新しい受け入れ家庭では、生徒の受入に不安もあることから、研修等が必要である。 ・H30年6月から始まる民泊新法への対応が必要である。 (新規受入学校) ・学生の修学旅行における宿泊先は、数年前に既に決まっていることから、先を見越してPRを行っていく必要がある。	(宿泊体験受入数) ・研修会をとおして民泊家庭の質の向上を図り、民泊家庭の増に繋げる。 ・民泊新法の施行により、すべての民泊受入家庭が県への届出、標識の提示が義務づけられることから、対応への支援が必要である。 (新規受入学校) ・関係機関と連携して学校へのPR活動を強化することで事業の定着を図る。

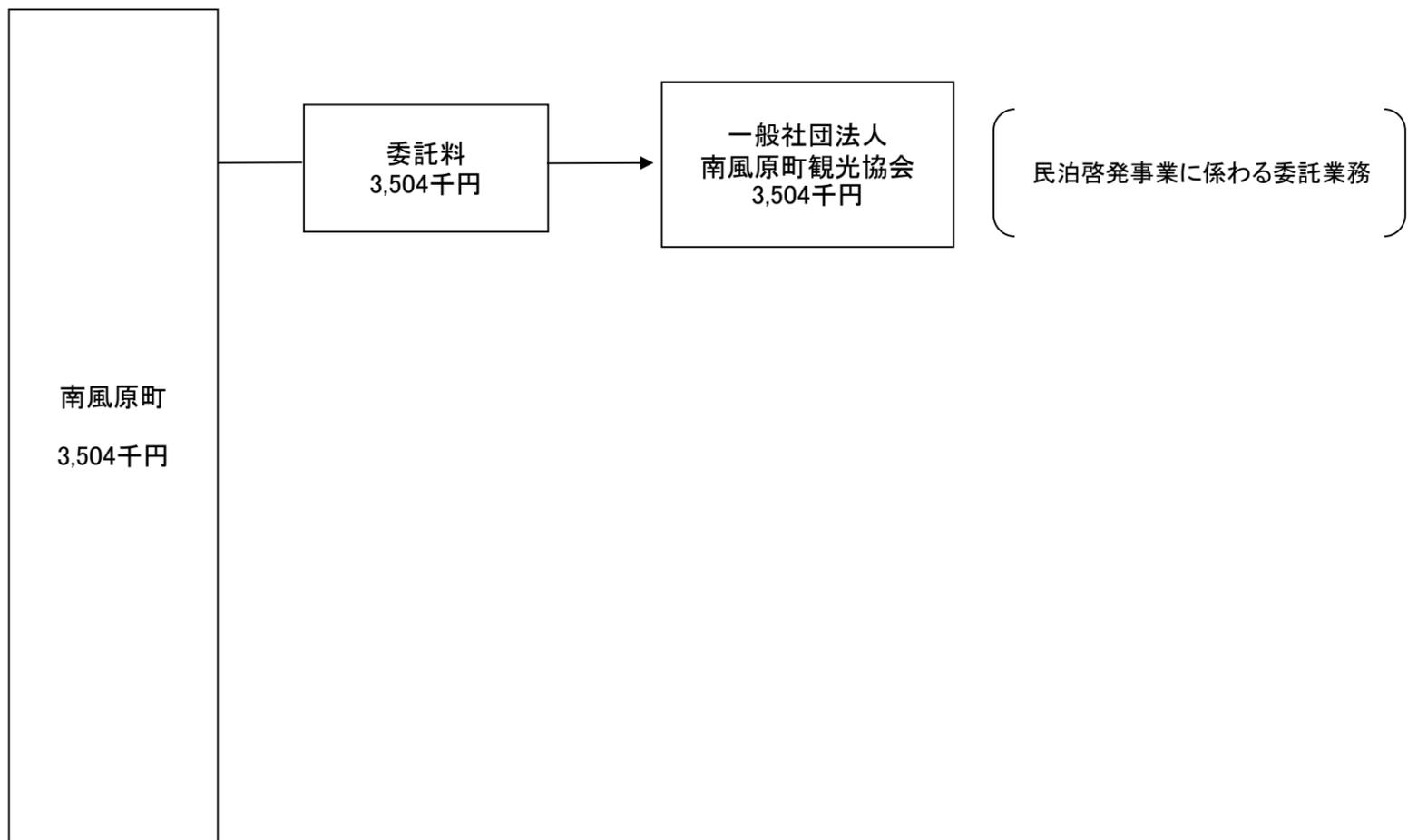
今後の取り組み方針

(宿泊体験受入数)
 ・民泊受入家庭に対して、H30.6月から始まる民泊新法に対応するための支援と研修会や情報交換等を行うことで質の向上を図り、民泊家庭の増に繋げる。

(新規受入学校)
 ・沖縄コンベンションビューローと連携した営業活動を行い、修学旅行生の民泊受入に取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,504	3,504	2,803	701	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥ 南風原地域発信力強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(6)-イ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域づくりを担う人材の育成		
事業内容	南風原産ヘチマの愛称を「はえばる美瓜(びゅうりー)」と名付け、ブランド化を図っていることから、そのヘチマを観光物産として元気、若いという良いイメージを付けて魅力を町内外に発信するため、ビュウリーズというダンスユニットを結成し、活動する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,125	3,158	3,634	4,677	4,446
		(b) 予算現額	2,977	2,680	3,634	4,677	3,225
		(c) 増減額(b-a)	▲148	▲478	0	0	▲1,221
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		2,977	2,680	3,634	4,677	3,225
	B. 執行済額		2,883	2,565	3,599	4,510	2,768
	うち交付金充当額		2,306	2,052	2,879	3,608	2,214
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.8%	95.7%	99.0%	96.4%	85.8%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・事業運営職員が退職したことにより、3月補正において1,221千円を減額した。 ・不用額457千円については、計画段階の委託費よりも事業運営職員の退職などにより実績が下回った事による。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	メンバーのダンスレッスンや町に関する知識やマナー研修を行い、イベント、ラジオ出演により町の魅力を発信する。	目標	(実施)	(-)	(-)	(-)	
	実績	実施	-	-	-		
達成状況説明	年間67回の練習、22回のイベント出演で、南風原町の『南風原町へちま大使』として特産品のPR等を実施した。ヘチマ大使との事で、イベントなどで質問に答えるため町の歴史についての学習会を2回行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	町PR活動イベント出演:20回	目標	(-)	(5回)	(20回)	(20回)	()
		実績	-	23回	24回	22回	
	新聞等への活動掲載:3回	目標	(-)	(5回)	(3回)	(3回)	()
		実績	-	4回	3回	5回	
	ラジオへの出演:2回	目標	(-)	(5回)	(2回)	(2回)	()
		実績	-	1回	2回	2回	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント出演について、地域内外のイベントで特産品のPRを行うなど22回出演して目標を達成した。イベント出演回数が目標回数を上回ったのは、町内外においてビュウリーズの活動が浸透して夏祭りや各団体のイベントへの参加依頼が増えてきたことと、練習による質の向上があったことも一因と考えられる。 ・新聞への活動掲載について、5回の掲載で目標を達成した。 ・ラジオ出演についても、2回出演し目標を達成、「へちま大使」としての役割を果たすことができた。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント出演) ・毎年入れ替わるメンバーもいるため、質の向上を図るためにダンスレッスンや勉強会を継続して実施していく必要がある。 (新聞等への活動掲載) ・積極的にPRを行いメディア出演の機会を増やす必要がある。	(イベント出演) ・特産品のヘチマをPRするためにダンスレッスンやヘチマの勉強会を行い質の向上を図る。 (新聞等への活動掲載) イベント出演、メディアへの掲載を増やすために関係機関に働きかけ、南風原産ヘチマのPR活動に取り組む。

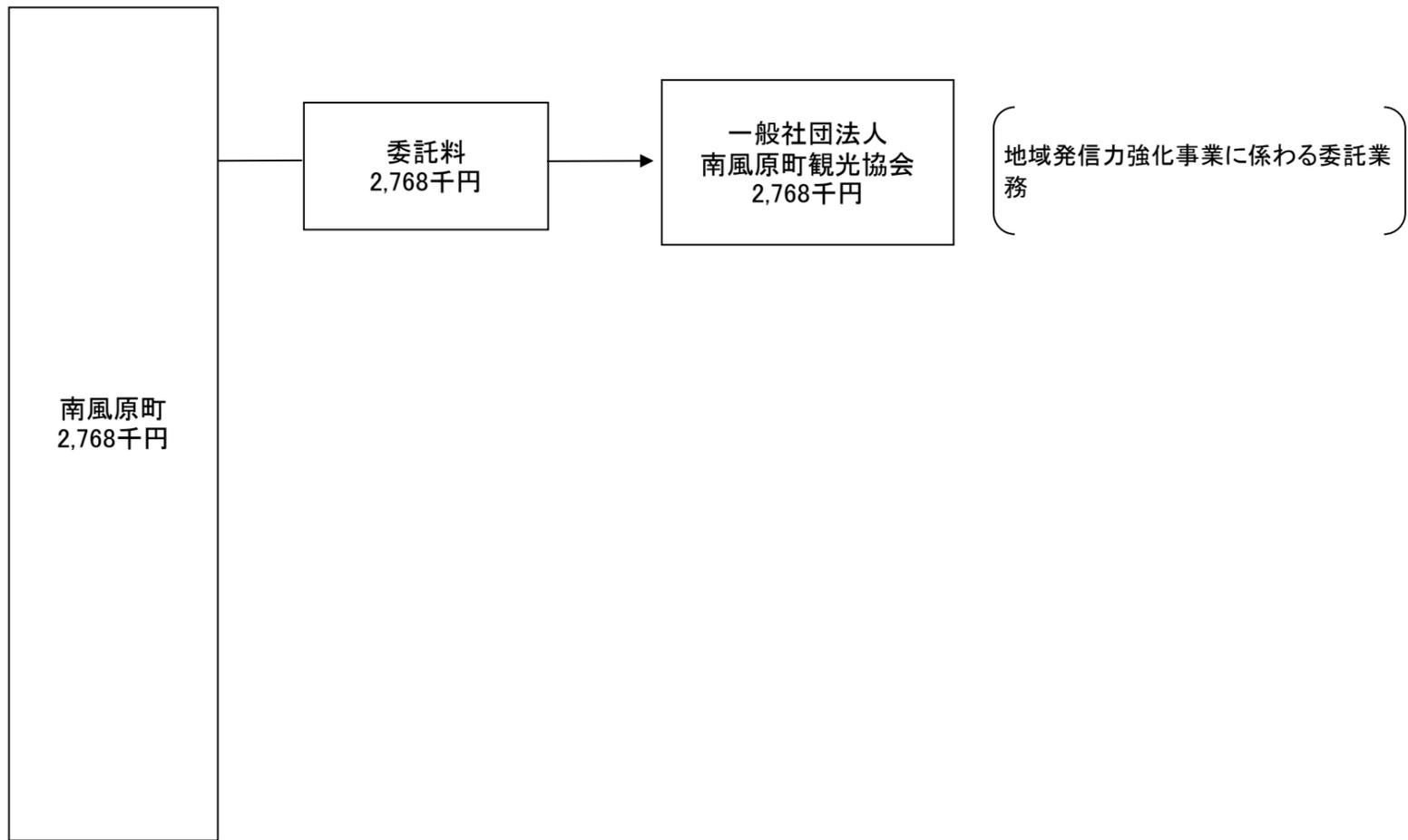
今後の取り組み方針

(イベント出演)
 ・毎年入れ替わるメンバーの質の向上のためダンスレッスン及び勉強会を行い、ヘチマやビューリーズの魅力を伝えるPR活動に取り組む。

(新聞等への活動掲載)
 ・新規イベント、町外でのイベントにも出演することで、美瓜並びにビューリーズの魅力をメディアを通して伝えていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,768	2,768	2,214	554	0



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦ ヒーローのまちづくり事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度 平成25~33年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	本町の観光振興、地域活性化のため、全国的なヒーローや、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信を行うためイベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,568	7,583	7,961	7,999	7,310
		(b) 予算現額	3,456	7,583	7,961	7,998	7,310
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,112	0	0	▲ 1	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	3,456	7,583	7,961	7,998	7,310
	B. 執行済額		3,389	7,484	6,523	7,232	6,867
	うち交付金充当額		2,711	5,987	5,218	5,786	5,493
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.1%	98.7%	81.9%	90.4%	93.9%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 不用額443千円については、計画段階より会議費、印刷費などの実績が下回った事による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	イベント・フォーラム開催:各1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績	5回	2回	3回	3回	
	脚本賞舞台化:1回	目標	()	()	()	(1回)	
		実績				1回	
達成状況説明	金城哲夫生誕地事業として、映画の上映会のほか、地域住民と一緒に運営委員会を立ちあげウルトラマンライブと金城哲夫展を同時開催した。 新たに劇団を立ち上げ、平成30年3月に町立中央公民館黄金ホールで、これまでに実施した脚本賞の受賞作品の舞台化を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	イベント・フォーラム来客者数:1,000人	目標	()	(1,000人)	(1,000人)	(1,000人)	()
		実績		3,236人	2,890人	1,902人	
	舞台来客者数:500人	目標	()	(—)	()	(500人)	()
		実績		—		900人	
	進捗状況説明	・イベント・フォーラム来客者数について、ウルトラマン上映会に602人、金城哲夫生誕地事業に1,300人の参加があり目標数を大幅に達成した。 ・舞台来客者数について、900人の来場があり、目標値を大幅に達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント・フォーラム来客者数) ・金城哲夫生誕地事業として、ウルトラマンライブと「金城哲夫展」を同時開催したことで多くの来客に繋がったと思われるが、例年と似たようなイベントの内容となっていることから、来場者が減少していると考えられる。	(イベント・フォーラム来客者数) ・住民と連携し、新たなイベントを計画して来場者の増に繋げる。
	(舞台来客者数) ・新たに劇団を立ち上げ旗揚げ公演として行う事により、多くの方に来てもらう事ができたと思われる。	(舞台来客者数) ・これまで実施してきた脚本賞の受賞作品を活かすため、舞台化に向けた取り組みを継続して行う。

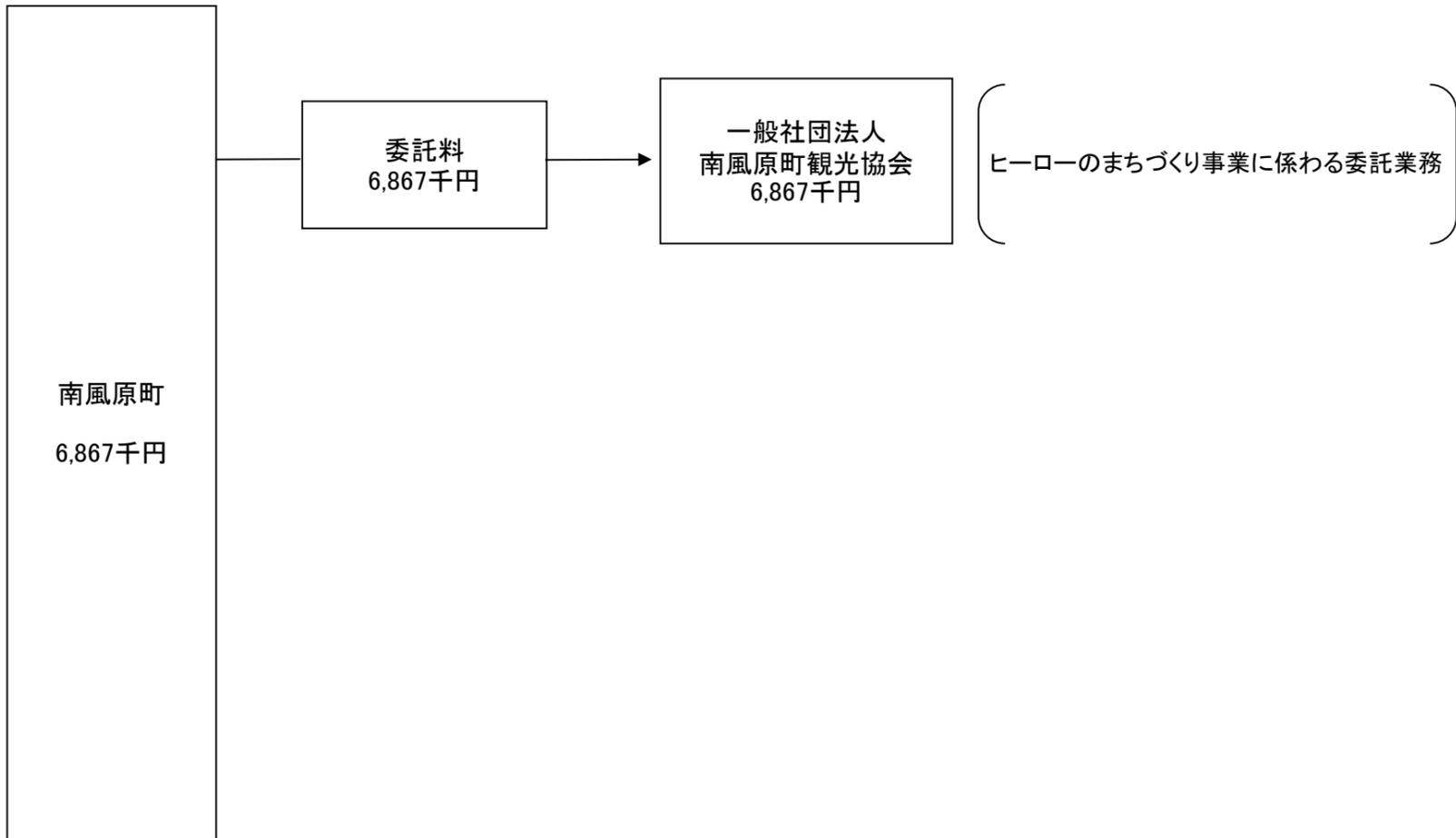
今後の取り組み方針

(イベント・フォーラム来客者数)
・平成30年は金城哲夫生誕80年の年となっていることから、映画の上映会や金城哲夫展、脚本の舞台化だけでなく、新たなイベントの開催に向けて地域住民が中心となった実行委員会で取り組む。

(舞台来客者数)
・これまでの脚本賞の作品を平成31年2月上演に向けて舞台化し、ヒーローのまちづくりの取り組みを強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,867	6,867	5,493	1,374	0



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧	シマジマガイド事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	訪問客に南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマジマガイド」(名所案内巡り)を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステムを構築をし、観光振興を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,240	5,308	6,874	9,071	8,321
			4,240	5,308	6,874	9,071	7,436
			0	0	0	0	▲ 885
			—	—	—	—	—
			4,240	5,308	6,874	9,071	7,436
	B. 執行済額		4,172	4,933	6,124	7,347	7,179
	うち交付金充当額		3,337	3,946	4,899	5,878	5,743
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.4%	92.9%	89.1%	81.0%	96.5%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画していた事業内容はすべて実施した。 ・事業運営職員が退職したことにより、3月補正において885千円を減額した。 ・事業途中に事業運営職員が退職し、後任を採用するまでに期間を要したことで不用額257千円が生じた。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	ガイド養成:新規2名	目標	(10名)	(10名)	(2名)	(2名)	
		実績	11名	7名	13名	8名	
	シマジマガイド開催:12回	目標	(—)	(12回)	(12回)	(12回)	
実績		—	12回	12回	12回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ガイド研修を5回開催し、8名をガイドとして養成した。 ・シマジマガイド事業を12回実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	ガイド回数:1回/人	目標	()	(1回/人)	(1回/人)	(1回/人)	()
		実績		3回/人	2回/人	2回/人	
	シマジマガイド事業 年間利用者数:1,460人	目標	()	(1,450人)	(1,460人)	1,460人	()
		実績		753人	508人	945人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド回数について、ガイド1人1回を目標としたが、1人2回実施することができた。 ・シマジマガイド事業について、目標値には届かなかったが、前年度より437人利用者を増やすことができた。 						

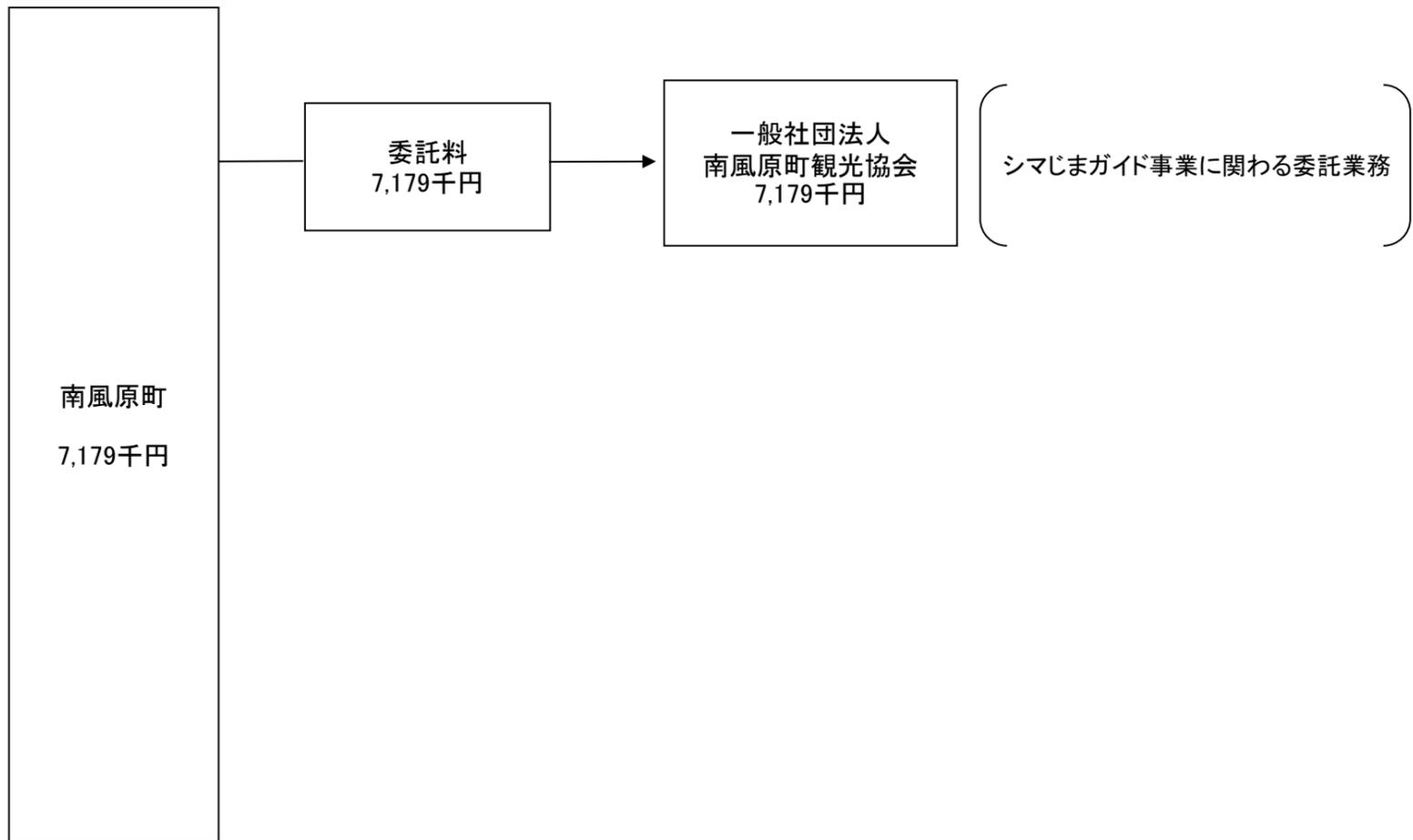
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ガイド回数) ・事業を継続していくために全ガイドが複数回ガイドを実施できる仕組み作りが課題である。 (シマじまガイド事業) ・目標に届かなかった原因としては、新たなメニューが少ないため、リピーター利用実績が伸び悩んでいると考えられる。また、リピーターを増やすためにはガイドの質の向上も必要である。	(ガイド回数) ・ガイドのスキルアップのため研修を行い、地域ツアー充実強化を図る。 (シマじまガイド事業) ・新たな地域ガイドメニューの創設及びガイドの質の向上に取り組むことでユーザーの増に繋げる。

今後の取り組み方針

(ガイド回数) ・ガイドの質向上のための実務や地域の歴史等の研修会を行い、多くのガイドがツアーを実施できるように取り組む。 (シマじまガイド事業) ・新たな地域ガイドメニューの開発と既存メニューの充実強化に向けて、観光協会及び地域関係者が連携して取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,179	7,179	5,743	1,436	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 南風原町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑨ 黄金森公園スポーツ施設活性化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第三章-2-(1)-イ
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度 平成25~33年度	「スポーツアイランド沖縄」の形成
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 良好なスポーツ・トレーニング環境の提供により観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致、開催を図るため、黄金森公園スポーツ施設の機能強化と受入体制等の整備を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	18,580	22,669	18,480	41,306	39,170
		(b) 予算現額	18,580	47,549	53,192	48,392	27,284
		(c) 増減額(b-a)	0	24,880	34,712	7,086	▲ 11,886
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	18,580	47,549	53,192	48,392	27,284
	B. 執行済額		18,238	44,740	51,967	44,823	26,291
	うち交付金充当額		14,590	35,792	41,573	35,858	21,032
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.2%	94.1%	97.7%	92.6%	96.4%
	予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・不用額993千円が生じているが、入札等執行残やJリーグキャンプ等支援委託料において、キャンプ期間の短縮(15日間から7日間へ)及び観客送迎バスの委託を町所有車両で対応したこと等によるものである。 ・予算11,866千円減については、11,015千円は入札残等による補正減、871千円は別の事業への流用である。 				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	32年度
芝生作業嘱託員:1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	()
	実績	1名	1名	1名	
Jリーグキャンプ等支援委託(町イメージ動画作成、町PRパンフレット及びグッズ作成、名古屋グランパス春季キャンプ受入に係る警備・テント設営・観客送迎バス運行等一式)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()
	実績	実施	実施	一部実施	
陸上競技場及び野球場芝生の管理委託	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()
	実績	実施	実施	実施	
トレーニング室へのトレーナー配置	目標	(-)	(-)	(実施)	()
	実績	-	-	実施	
トレーニング機器保守点検	目標	(-)	(-)	(実施)	()
	実績	-	-	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグキャンプ受入体制整備、陸上競技場及び野球場の芝生整備、トレーニング室へのトレーナー配置等を実施し、スポーツ施設を整備・強化することで、サッカーJチームの春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿を誘致した。 ・Jリーグキャンプ等支援委託については、Jリーグキャンプに係る業務を一括委託で予定していたが、業務を精査し、グッズ作成、警備・テント設営・観客送迎バス運行等は個別で実施した。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
			陸上、サッカー等合宿利用者数	()	(550人)	(700人)
	実績		1,207人	1,583人	1,434人	
Jリーグキャンプ見学者数	目標	(-)	(10,000人)	(10,000人)	(10,000人)	()
	実績		約8,000人	約7,500人	約9,800人	

進捗状況説明

- ・合宿利用者数については、スポーツ施設を整備・強化することで、サッカーJチームの春季キャンプ57人、県外大学等の陸上競技合宿で1,377人が利用し、目標値を上回った。
- ・キャンプ見学者数については、目標値にわずかに届かなかったものの前年度を約2,300人上回った。

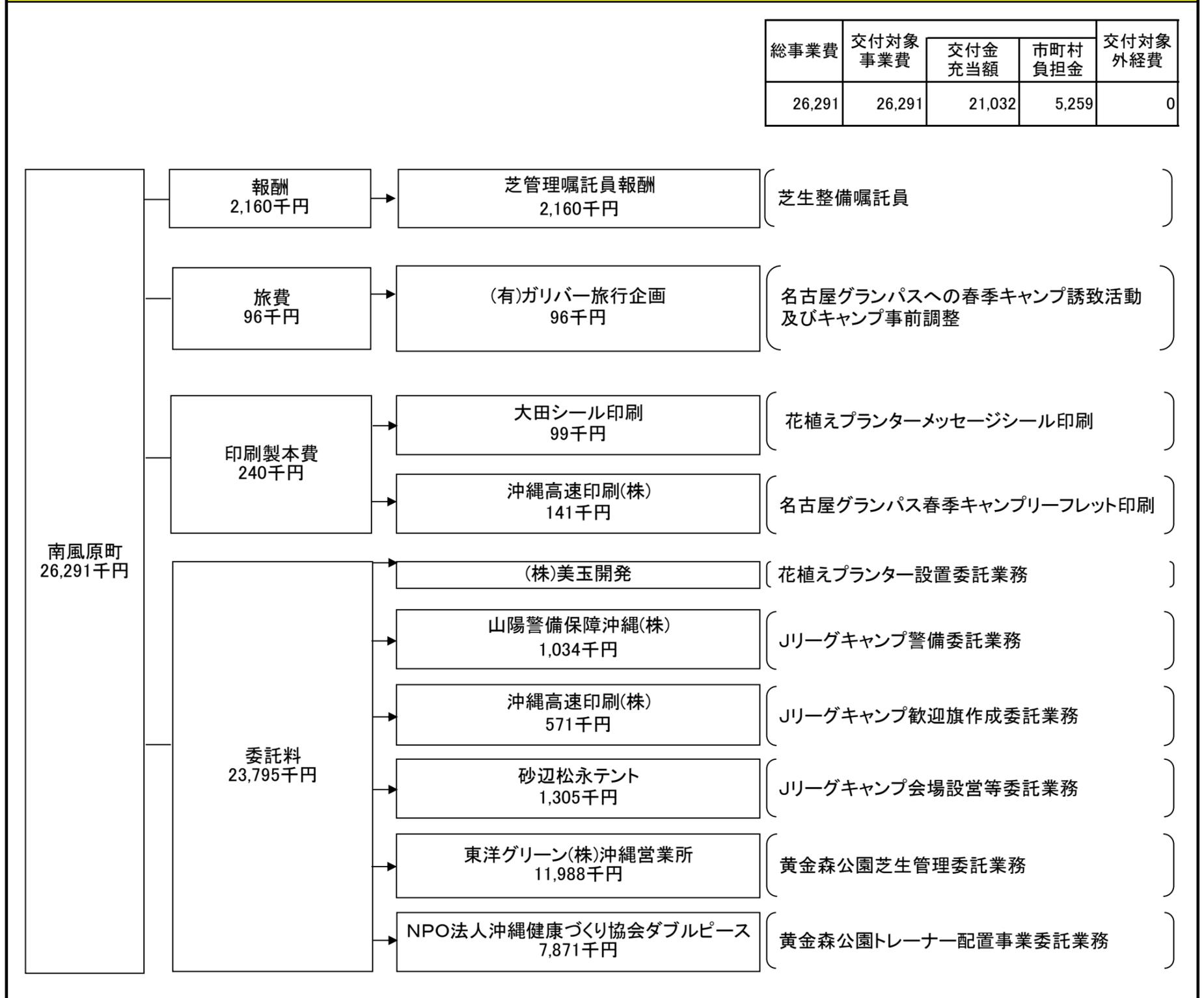
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(合宿利用者数) ・トレーニング室へのトレーナー配置や陸上競技場及び野球場の芝生整備、サッカーキャンプ時の受入体制の整備強化を実施したことにより、合宿の受入環境が整ったことが県外団体等の利用に繋がった要因と考えられる。 (キャンプ見学者数) ・キャンプ見学者は、トレーニングマッチ実施日に多く訪れている。また、対戦相手によっても見学者数に影響が出る。	(合宿利用者数) ・合宿利用者のニーズを把握し継続的な利用を促進するとともに、他の県外合宿団体へのスポーツ施設案内などによる取組及び情報発信を強化する。 (キャンプ見学者数) ・見学者の多くがキャンプ中に実施されるトレーニングマッチの見学者であることから、トレーニングマッチ及びイベント案内などの情報発信を更に強化する。

今後の取り組み方針

(合宿利用者数)
 ・県外合宿利用者の継続的な利用を促進し、スポーツ施設案内等を町ホームページに掲載し情報発信を強化することで、新たな合宿利用者を誘致に取り組む。

(キャンプ見学者数)
 ・キャンプ情報(特にトレーニングマッチ)や観光と結びつけたイベント等の情報発信を強化することで、新たなキャンプ見学者を誘致する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約(プロポーザル等)により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 南風原町

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑩ 南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-ア
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度 平成24~33年度	ものづくり産業の戦略的展開
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 本町の魅力の発信及び認証した商品の販売数増を図るため、町内事業者を対象に商品開発に関するワークショップの開催や、「はえばる良品」認証及び、特産品の販路開拓等を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	8,322	7,718	19,793	21,953	18,780
	(b) 予算現額	7,411	7,718	15,119	21,617	18,780
	(c) 増減額(b-a)	▲ 911	0	▲ 4,674	▲ 336	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	7,411	7,718	15,119	21,617	18,780
	B. 執行済額	7,158	7,718	15,112	21,617	18,779
	うち交付金充当額	5,726	6,174	12,089	17,293	15,023
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	96.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	・当初の予定通り事業の執行を行うことができた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
ブランド認証制度の構築・運用	目標	()	(構築・運用)		()
	実績		構築・運用		
販路開拓セミナーの開催	目標	()	(6回)		()
	実績		13回		
28年度に認証した商品のPR	目標	()	(実施)		()
	実績		実施		
販路開拓、拡大、テスト販売	目標	(3回)	(5回)	()	()
	実績	5回	12回		

達成状況説明

- ・ブランド認証制度の構築・運用について、ブランド商品認定委員会を開催し、食品分野1品、非食品分野2品の計3品を「はえばる良品」として新規認定した。
- ・販路開拓セミナーの開催については、食品分野のワークショップを全4回開催し、特産品開発に関しての知識習得や商品のブラッシュアップを図った。非食品分野では9回の会議を開催し、商品の魅力を伝えるためのコンセプトづくりや情報発信の手法等について協議を行った。
- ・28年度に認証した商品のPRについては、県内外のイベントにおいてPRを行った。
- ・販路開拓、拡大、テスト販売については、県外3回、県内9回のイベント出展を行い、特産品のPRを行った。

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	目標	実績					
南風原町ブランド認証	目標	()	()	(-)	(2件)	(2件)	(-)
	実績			-	4件	3件	
セミナーへの町内事業者参画	目標	()	()	(-)	()	(15社)	(-)
	実績			-		18社	
町広報誌、商工会会報誌、ホームページへのPR記事掲載	目標	()	()	(-)	()	(5回以上)	(-)
	実績			-		26回	
認定商品の周知拡大	目標	()	()	(-)	()	(実施)	(-)
	実績			-		実施	
販路先開拓数	目標	()	()	(-)	()	(2件)	(-)
	実績			-		2件	
H27年度までに開発した商品の販売目標 マドレーヌ:450個×10ヶ月(4月～1月)= 4,500個 (H27実績:4,500個(店舗販売))	目標	()	()	(1,700個)	(1,800個)	(4,500個)	()
	実績			5,100個	5,680個	6,020個	
H27年度までに開発した商品の販売目標 美瓜カレー:40食×5ヶ月(8月～12月)= 200食 (H27実績:148食(店舗販売))	目標	()	()	(350食)	(200食)	(200食)	()
	実績			521食	549食	220食	
【H30成果目標】 南風原良品の販売個数増	目標						-
ぴよぴよシフォン	目標						5,035個
ゆめかなえぼしパウンドケーキ	目標						380個
漉しカボチャ使って味わうスープの素	目標						1,000個
はえばるのまきもの	目標						60個
ウォッチナー	目標						88個
SANGOくっしょん	目標						450個
沖縄キビまる豚	目標						430個
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド認証については、今年度は食品分野1品、非食品分野2品の計3品を「はえばる良品」として認定した。 ・セミナーへの町内事業者参画については、18社の参加があり目標を達成した。 ・PR記事の掲載については、各広報誌等において積極的に掲載し目標を達成した。 ・認定商品の周知拡大については、県内外のイベントにおいて商品の周知を行った。 ・販路先開拓数については、目標の2件を開拓することができた。 ・開発した商品のマドレーヌは、順調に販売個数を伸ばしており、目標数を達成することができた。 ・開発した商品の美瓜カレーは、目標数を達成したものの前年度から329食の減となっている。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(ブランド認証)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体でもまだ7件と数が少なく、またブラッシュアップも足りない。 <p>(セミナーへの町内事業者参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼びかけを行っているが、微増であり、中でも飲食業者の参加が少ない。 <p>(PR記事の掲載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町広報誌等への掲載を行っているが、周知が足りていない。 <p>(認定商品の周知拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内外のイベントに参加し周知拡大を図った。 <p>(販路先開拓数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開拓先開拓数がまだ少ない。 <p>(H27年度までに開発した商品の販売目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> マドレーヌは、商品開発後もブラッシュアップを図ってきたことで、味がまろやかになっており、また特に地元での認知度が上がってきていることが、売り上げの向上につながっていると考えられる。 美瓜カレーについては、目標は達成したが、10月の産業まつりが台風で中止になる等、大きな販売が期待できるイベントに参加できず、売上を伸ばすことができなかった。 	<p>(ブランド認証)</p> <ul style="list-style-type: none"> ブラッシュアップ、さらなる認定数を増やす。 <p>(セミナーへの町内事業者参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内事業者、特に飲食業者への呼びかけの強化、工夫を検討する。 <p>(PR記事の掲載)</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなるPR記事の掲載を行う。 <p>(認定商品の周知拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに数多くのイベントに参加する。 <p>(販路先開拓数)</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる販路開拓を検討する。 <p>(H27年度までに開発した商品の販売目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、商品の周知を図るとともに、イベント等に左右されないよう通常の販売方法についても検討する。

今後の取り組み方針

(ブランド認証)

- すでに認定された品のさらなるブラッシュアップを図るため検討会や講習会を開催する。また食品部門の認定商品を素材として町内飲食業者でのメニュー化を企画するなど異業種交流による新しい良品候補を作り上げる等、新規認証できる業者・品目発掘の強化に取り組む。

(セミナーへの町内事業者参画)

- 広報等へ掲載告示や参加の少なかった飲食業者を対象としたセミナー内容の充実を行い、また今一度参加しやすいセミナー日程を調査する。

(PR記事の掲載)

- 町広報誌や商工会広報誌だけでなく、新聞やテレビなどのメディア、おきなわ倶楽部や機内誌などへの掲載依頼活動を行う。

(認定商品の周知拡大)

- 県内外のイベントに積極的に参加しPRしていく。また認定商品店舗へのフライヤー設置などを行っていく。

(販路先開拓数)

- 招聘している外部専門家や県コンベンションビューロー、産業振興公社等から助言を受けながら販路開拓を強化する。またご当地商品を扱うECサイトへの販路開拓を行う。

(H27年度までに開発した商品の販売目標)

- 引き続き、商品の周知を図り、町内事業者と連携して販売増加に向けて取り組む。
- マドレーヌは店舗販売しているが、美瓜カレーは1店舗のみでのメニュー展開で、イベント等に左右されやすい状況にあるため、複数店舗でのメニュー化を模索する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,779	18,779	15,023	3,756	0


```

graph LR
    A[南風原町  
18,779千円] --> B[委託料  
18,779千円]
    B --> C[南風原町商工会  
18,779千円]
    subgraph Note
    D[南風原町地域ブランド構築・展開  
プロジェクト事業に係わる委託業]
    end
    C --- Note
  
```

資金の流れ、費目・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考えます。</p> <p>○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。</p> <p>○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

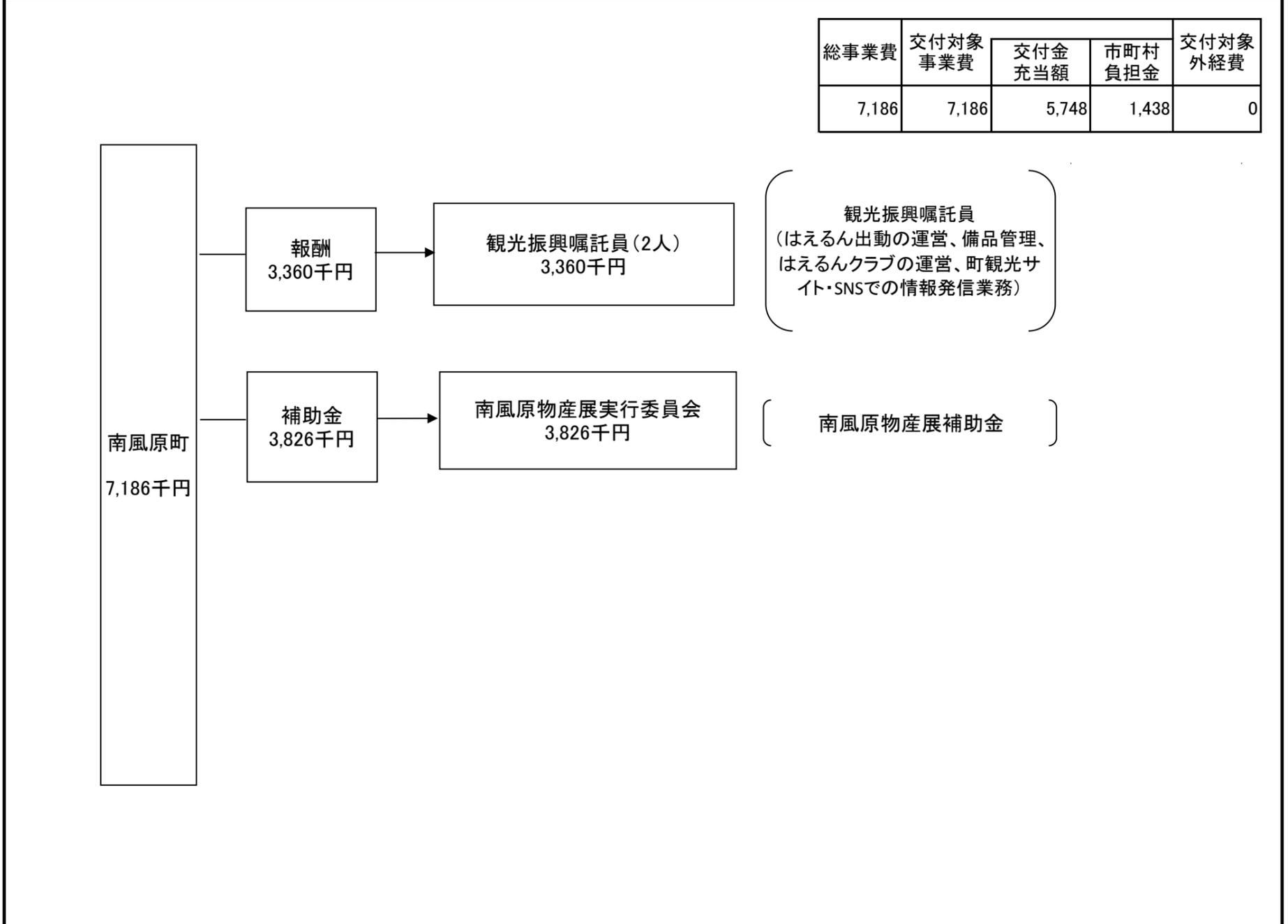
市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑪ 南風原町観光PR促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本町の認知度向上と地域資源の情報発信を図るため、はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,091	9,300	9,860	7,318	
		(b) 予算現額	18,366	9,300	9,860	7,318	
		(c) 増減額(b-a)	11,275	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	18,366	9,300	9,860	7,318	
	B. 執行済額		17,495	9,287	9,669	7,186	
	うち交付金充当額		13,996	7,429	7,735	5,748	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		95.3%	99.9%	98.1%	98.2%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	イメージキャラクターによる観光PR活動(1年間で100回)	目標	(活動)	(100回)	(100回)	(100回)	
		実績	活動	124回	91回	92回	
	観光サイトの更新、SNSへのはえるん出演情報、観光情報の掲載	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)	
		実績	-	-	-	実施	
	物産展の開催	目標	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	開催	開催	開催	開催	
	達成状況説明	・イメージキャラクターはえるんを活用し、町内や県内の各種イベントに参加し、南風原町のPRをおこなった。また、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行った。 ・観光サイトを更新し、はえるんの出演情報や観光情報の発信した。 ・南風原物産展を開催して町内事業所と商工会で連携をおこなうことで、南風原町の物産を町内外の方に広くPRし、町への誘客を図ることができた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度
はえるん等利用申請数:70件		目標	()	(60件)	(70件)	(70件)	()
		実績		37件	49件	40件	
はえるんファンクラブ加入(延べ人数):1,200人		目標	()	(900人)	(1,100人)	(1,200人)	()
		実績		281人	1,233	1,385人	
物産展来場者:15,000人		目標	()	(12,000人)	(13,000人)	(15,000)	()
		実績		14,700人	23,000人	38,000	
観光案内所の利用者数:7,000人(4月~3月の12ヶ月間)		目標	()	(10,000人)	(10,000人)	(7,000人)	()
		実績		6,827人	6,121人	6,236人	
【H30成果目標】 観光サイトアクセス数		目標					207,000件
進捗状況説明	・はえるん等利用申請数は、前年度より9件の減となり、目標件数も下回った。 ・ファンクラブ加入については、あらたに152人の加入があり、目標数も達成した。 ・物産展来場者数は、前年度より15,000人の増となり、目標を大きく上回った。 ・観光案内所の利用者数は、前年度より115人増となったものの目標数には届かなかった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(はえるん等利用申請件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はえるんの出演依頼が増加しているものの、イベントが重なると出演ができないこと等が目標を下回った要因である。 <p>(ファンクラブ加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンクラブの会員数は順調に伸びてきており、「はえるん」の認知度が上がってきていることが目標達成の要因と思われる。 <p>(物産展来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、継続して物産展を開催することで、町内外の方に南風原物産展の魅力がPRできていることが目標達成の要因と思われる。 <p>平成30年度からは物産展の主催が町商工会へ変更となった。</p> <p>(観光案内所の利用者数)</p> <p>HPやSNS、広報誌等の広報活動は十分に行っており、28年度からは回復傾向にあるが、関係機関の連携不足により、利用実績は伸び悩んでいる。</p>	<p>(はえるん等利用申請件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の出動数を増やすことで利用申請の増が見込まれる。 <p>(ファンクラブ加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「はえるん」の活動等をイベントや広報誌等で周知していく。 <p>(物産展来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も物産展の来場者が楽しめる様々な仕組みを検討し、来場者の増加に向けて取り組む。 <p>(観光案内所の利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化センターや沖縄陸軍病院南風原壕群との連携強化をしていく。

今後の取り組み方針

<p>(はえるん等利用申請件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値の達成に向けて、平日の出動の可能性も含め、依頼者とのスケジュール調整等を行い、効果的な観光PRIに取り組む。 <p>(ファンクラブ加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はえるん」の活動等をイベントや広報誌等で周知を行い、会員数増にむけて取り組む。 <p>(物産展来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催が商工会になるが、従来通り行政として事業者や商工会と連携して物産展を開催し、新たな特産品のPRを行うなど、イベントの充実を図っていく。 <p>(観光案内所の利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化センターや沖縄陸軍病院南風原壕群と連携し、その利用者を観光案内所の利用者増へつなげられるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○嘱託員の選定は面接によりしかるべき人物を採用しており、また物産展実行委員会は補助金等交付規則に基づいており妥当である。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な予算規模であった。</p> <p>○受益者負担については、商工会からも一部負担金を支出し南風原町振興特別推進事業交付金交付要綱に基づき整理しており妥当である。</p> <p>○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。</p>
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目、使途の点検評価

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑫ 南風原町和牛改良支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-(ア)				
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度				
		沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(1)				
事業内容	農家の経営安定化に向け、子牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛導入経費の一部を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,000	3,000	2,000		
			3,000	3,000	2,000		
			0	0	0		
			—	—	—		
			3,000	3,000	2,000		
		B. 執行済額	2,444	2,396	1,905		
		うち交付金充当額	1,954	1,916	1,524		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	81.5%	79.9%	95.3%		
	予算の状況の説明	不用額95千円は、セリの落札価格が当初計画より安価で購入出来たことによる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	優良母牛の導入支援	目標	(6頭導入)	(6頭導入)	(4頭導入)	()	
		実績	6頭導入	6頭導入	4頭導入		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	計画どおり4頭の優良繁殖雌牛を導入することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	今年度導入率:10% (H29年度:4頭導入予定)	目標	()	(14.2%)	(14.2%)	(10%)	()
		実績		14.2%	14.2%	10%	
	【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛と導入牛以外の牛から生まれた子牛との価格差の割合(牝)108%、(去勢)140%以上	目標					(牝) 108% (去勢) 140%
		進捗状況説明	平成27~33年度で優良母牛40頭を導入する計画である。平成29年度は計画通り4頭を導入できた事により、優良繁殖雌牛の増加に繋がった。				

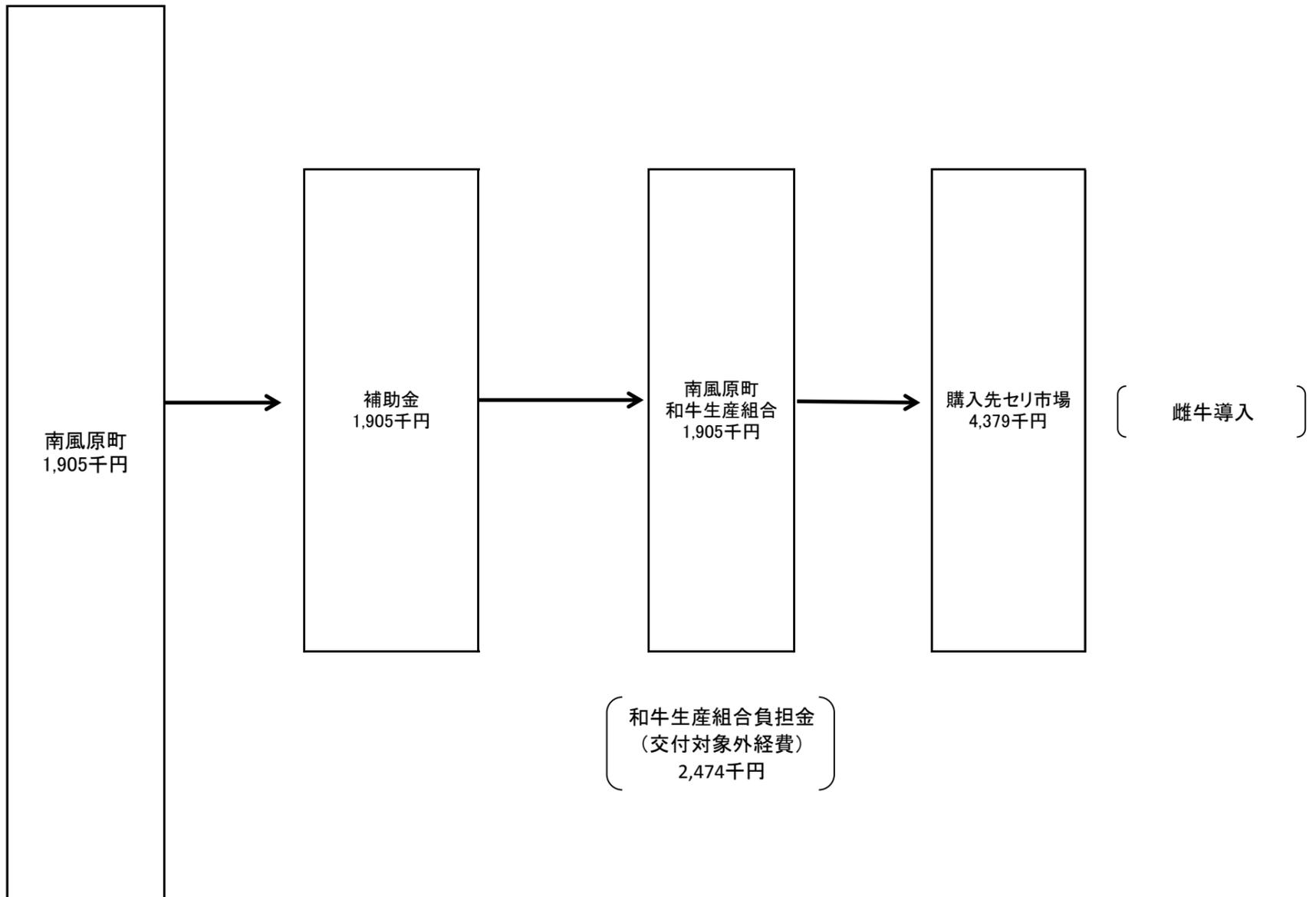
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	導入した牛が繁殖障害と診断された場合、農家が代替牛を購入することになるため、農家の負担が増加する恐れがある。	和牛改良の促進にあたっては、繁殖障害の可能性が低いより良い母牛の導入が必要不可欠である。特に優良繁殖雌牛から生産される子牛の出荷を保留して、母牛として更新することで子牛の品質向上を図り生産基盤を強化していく。

今後の取り組み方針

系統の良い優良母牛や妊娠牛を導入し、母牛の更新と生産基盤の強化を促進する。また、導入牛から産まれた子牛のセリ価格などの情報収集を行い、事業の成果を検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,379	1,905	1,524	381	2,474



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、町内農家で構成されている組織であり、妥当だったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はあったものの、5%以内であり、セリによる落札であったため適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は、総事業費の5割以上を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑬ 南風原町乳用牛改良支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(7)-(イ) 流通・販売・加工対策の強化					
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度 平成28~32年度 沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-1-(1)					
事業内容	本事業により乳用牛の更新・増加を促進し、生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、優良乳用牛の導入を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	3,200			
		(b) 予算現額	4,000	3,200			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	4,000	3,200			
	B. 執行済額		3,900	3,200			
	うち交付金充当額		3,120	2,560			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		97.5%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	優良乳用牛の貸付頭数8頭/年		目標 (10頭)	(8頭)	()	()	
			実績 10頭	8頭			
達成状況説明	当初計画のとおり8頭を導入できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	今年度導入率:16.7% (H29年度:8頭導入予定)		目標 ()	(20%)	(16.7%)	()	()
			実績	20%	16.7%		
	【H30成果目標】 生産乳量の増加:6,000kg以上		目標				6,000kg
	【H30成果目標】 乳質(脂肪率)の向上:0.02%以上		目標				0.02%
	進捗状況説明	平成28~32年度で優良乳用牛48頭を導入する計画である。平成29年度は、計画通り8頭を導入できた。					

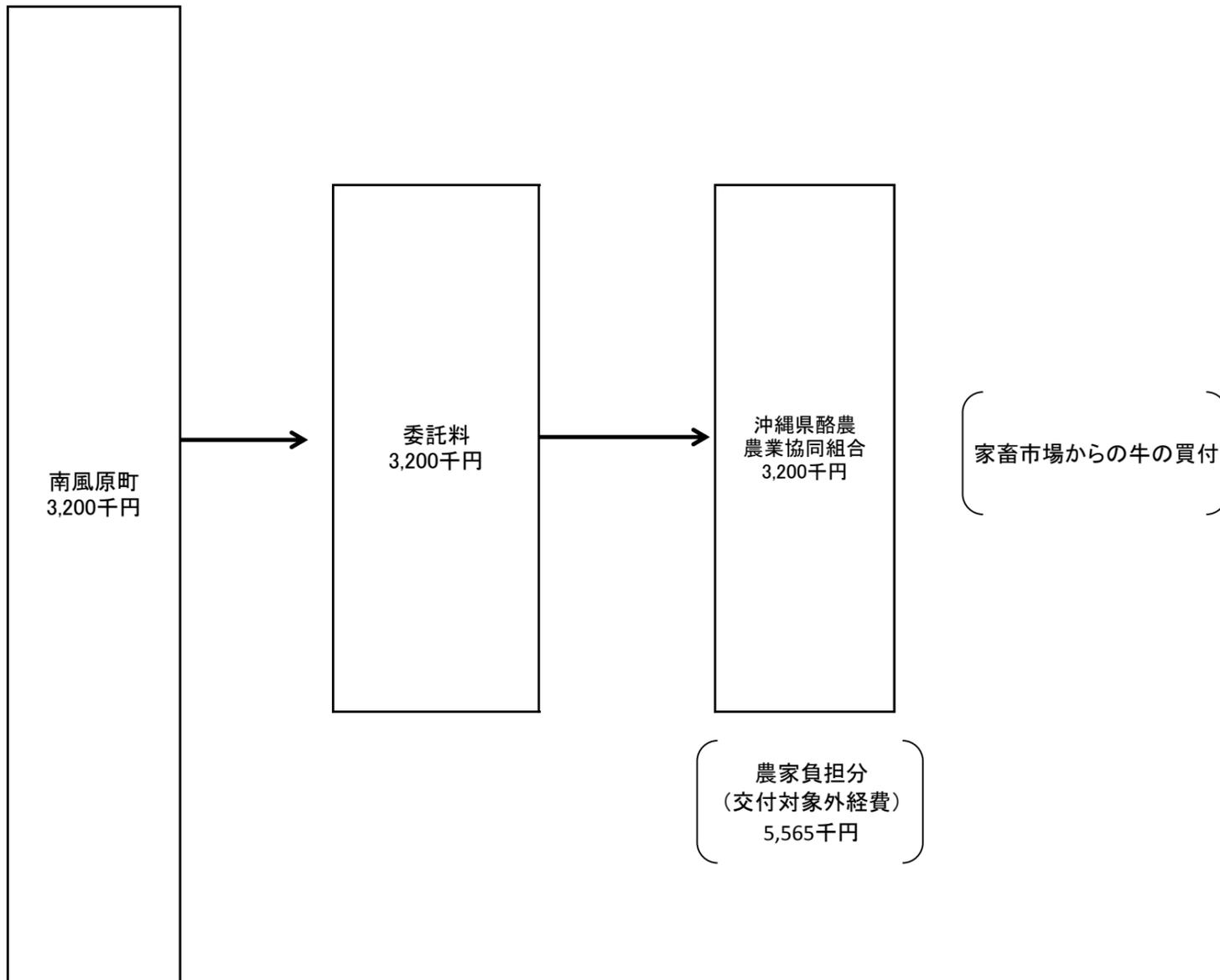
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	導入牛から生産する子牛が乳用種になるようにし、雌の場合は積極的に自家保留したほうが望ましい。	生産性向上のため、事業計画のとおり乳用牛を導入することにより、生産乳量の増加、乳質の向上を図り、生産性向上により、農家の経営を安定させる。

今後の取り組み方針

乳用牛の改良強化を図るため、今後も引き続き、優良乳用牛貸し付け支援を行い、成果目標を達成できるように取り組む。
 導入牛から生産した子牛が乳用種雌子牛の場合は積極的に保留するよう、沖縄県酪農農業協同組合などの関係機関と連携をとり、農家への周知・指導を行い促進する。
 また、生産乳量や乳質のデータを収集し、事業の成果を検証する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,765	3,200	2,560	640	5,565



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、町内農家の経営実態を把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。 ○不用額はなく、適正な規模であった。 ○受益者である農家は、総事業費の6割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

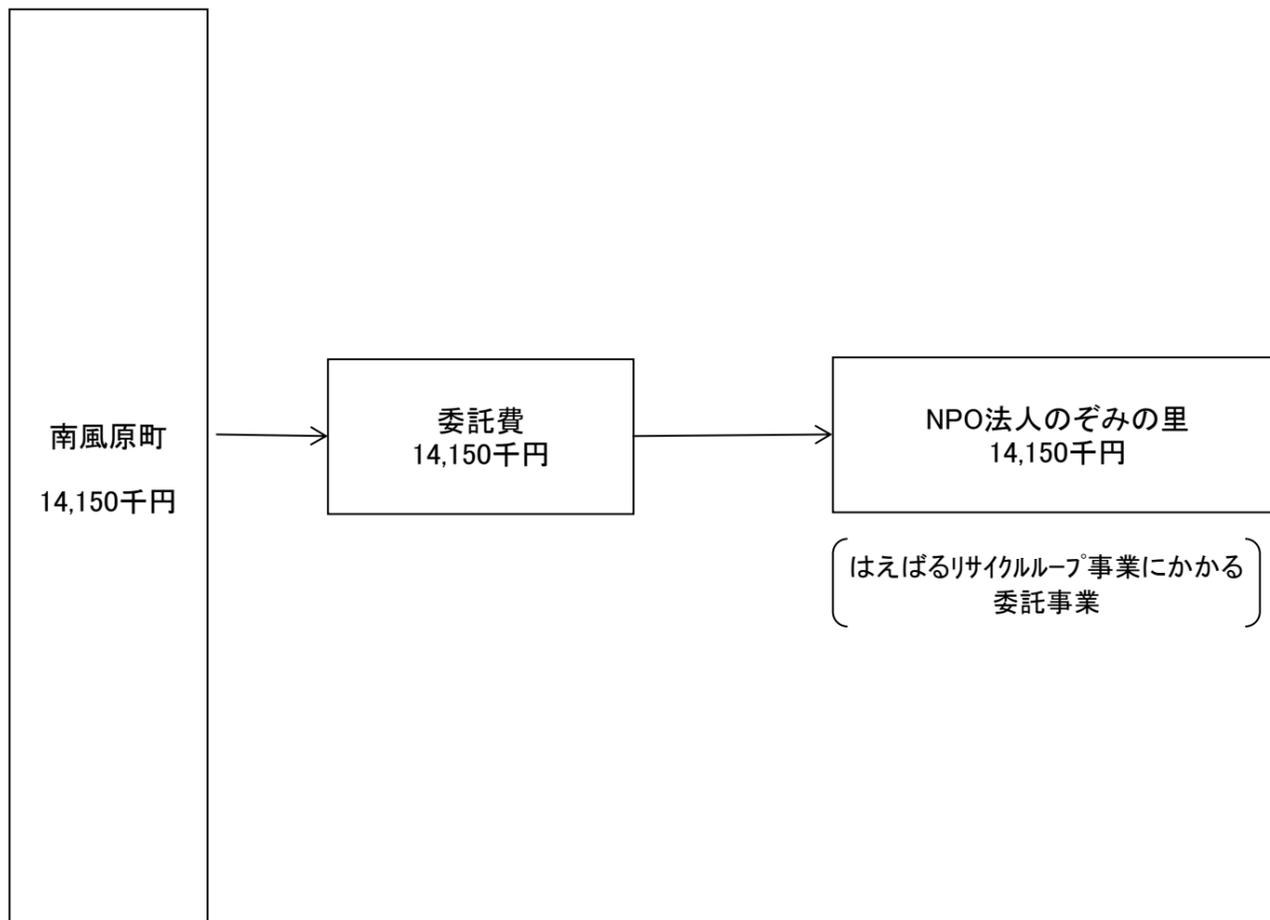
市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① はえばるリサイクルループ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	町内で発生する食品廃棄物(生ごみ、廃食用油含む)を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。そこで生産された飼料で養豚を育て、ディーゼル燃料を車等に利用することで、食品廃棄物の循環を構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,520	16,150	14,905	14,639	14,200
		(b) 予算現額	16,520	16,150	16,260	14,639	14,200
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	16,520	16,150	16,260	14,639	14,200
	B. 執行済額		14,867	14,804	14,905	14,639	14,150
	うち交付金充当額		11,893	11,843	11,924	11,711	11,320
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.0%	91.7%	91.7%	100.0%	99.6%
予算の状況の説明		事業計画のとおり執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	町内で排出される食品廃棄物を回収、分別し、飼料や肥料を生産することで、循環構築をはかり、生ごみ(家庭系)の年間資源化の増を目指す。		目標 (60トン)	(75トン)	(80トン)	(45トン)	
			実績 33トン	30トン	27トン	27トン	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	目標値を下回った原因として、協力世帯が飼料・肥料に適さない水分や油分を多く含んだ生ごみを分別して排出することで排出量が減ったと考えられる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	生ごみ(家庭系)の年間資源化量:45トン		目標 ()	(75トン)	(80トン)	(45トン)	()
			実績	30トン	27トン	27トン	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	目標値を下回った原因として、協力世帯が飼料・肥料に適さない水分や油分を多く含んだ生ごみを分別して排出することで排出量が減ったと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	協力世帯数は271世帯で、平成27年度から増加していないことから、新たな協力世帯の増加に向けた取り組みが必要である。	新たな協力世帯を増やし、生ごみの資源化量の増に努める。

今後の取り組み方針
町の広報や自治会長へ働きかけ、協力世帯の増加に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,150	14,150	11,320	2,830	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町の事業目的に対応できる事業所が1事業所のため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	環境学習支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-オ			
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県民参画と環境教育の推進		
事業内容	ごみ減量やリサイクルの重要性の意識の向上と、次代を担う子どもたちの環境倫理の醸成のため、専門家による「体験型」の環境教育・環境学習を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(b) 予算現額	788	810	810	864	864
		(c) 増減額(b-a)	788	810	810	821	864
		(d) 繰越額	0	0	0	▲43	0
		A. 計(b+d)	-	-	-	-	-
	B. 執行済額		630	486	648	810	864
	うち交付金充当額		504	388	518	648	691
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		79.9%	60.0%	80.0%	98.7%	100.0%
	予算の状況の説明		当初16回の環境学習の計画に対して16回開催し、計画どおりに執行することができた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	町内4小学校の4.5年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。 ・実施回数:16回		目標 (15回)	(15回)	(16回)	(16回)	
			実績 9回	12回	15回	16回	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		町内の4小学校において、対象学年の全学級16クラス(合計458人)で「買い物ゲーム」を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	環境学習「買い物ゲーム」体験者数:471人		目標 ()	(508人)	(471人)	()	()
			実績	506人	458人		
	環境保全(ごみ減量やリサイクルの重要性等)に対する理解度:アンケートを実施し、学習体験者数の90%以上		目標 ()	(90%)	(90%)	()	()
			実績	100%	100%		
【H30成果目標】 環境保全に対する意識向上が図られたか(80%以上)を含め、児童に対するアンケートにより本事業のあり方を検証をする。		目標				80%	
進捗状況説明		アンケートでは環境保全に対する理解度100%を達成し、体験した児童からは、「リサイクルしやすい物を買うようにする」「ふだんの生活で買い物の工夫や家や学校でゴミを減らす事がたくさんあった」等の感想があり、学校の先生方からも「ごみ問題についてゲームをしながら授業を行っていたので、とても関心を持って取り組めた」等の意見を頂いた。体験者数目標は当初の在籍見込数であったため、実績の方が13名少ないが、欠席者はいなかった。					

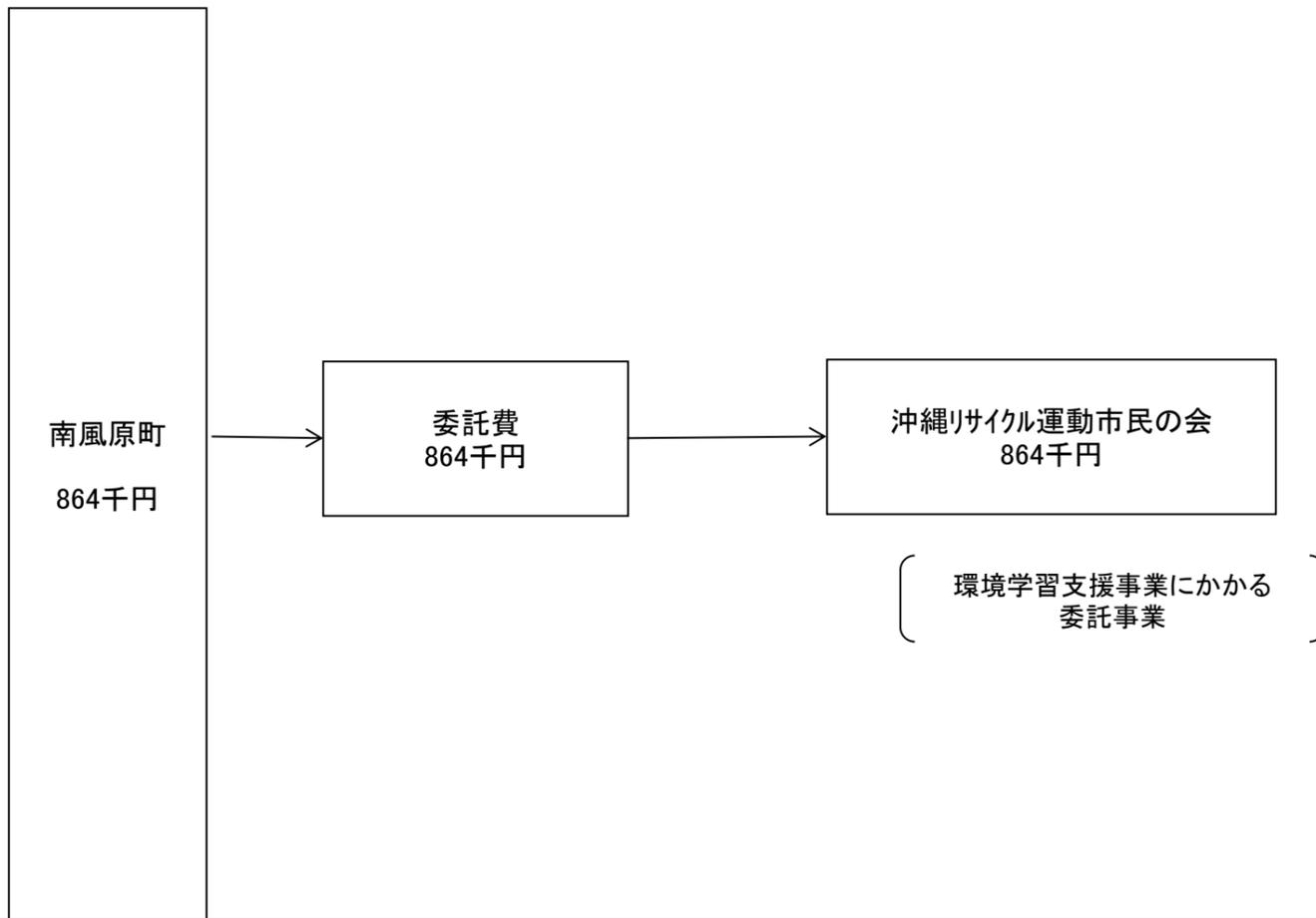
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	現在の授業内容で理解度は100%を達成しているが、国際的な環境問題となっているプラスチック等の海岸漂着物に対する理解は不足している。	廃プラスチックの海岸漂着物が国際問題になっていることを理解させるような授業内容を検討する。

今後の取り組み方針

児童が関心を持って取り組める買い物ゲームのような授業を引き続き実施し、国際的な環境問題に対する理解度を高める。また、日常生活において廃棄物の発生段階(買い物)からゴミ減量を意識できるよう働きかける。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
864	864	691	173	0



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先が開発した環境教育支援ツールでこの委託先しか事業ができないため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 草木リサイクル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	草木廃棄物を循環利用した「循環のシステム」を構築するため、町内家庭から出る草木を堆肥化し、活用する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,214	6,983	6,770	6,832	6,325
		(b) 予算現額	5,714	8,013	7,670	6,512	6,325
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,500	1,030	900	▲ 320	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	5,714	8,013	7,670	6,512	6,325
	B. 執行済額	5,472	7,909	7,158	6,087	5,548	
	うち交付金充当額	4,377	6,327	5,726	4,869	4,438	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	95.8%	98.7%	93.3%	93.5%	87.7%	
予算の状況の説明	ほぼ計画の通り予算の執行ができた。不用額777千円は、草木搬入量が見込値より少なかったためである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	町内から排出される草木を堆肥化することで、リサイクル量の増をはかる。	目標	(リサイクル量の増をはかる)	(リサイクルの増をはかる)	()	()	
		実績	減	増			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・町内の各家庭から排出された草木について、平成28年度より9トン多い407トンを集集し、堆肥化することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	草木のリサイクル量(堆肥化):436トン	目標	()	(440トン)	(421トン)	(436トン)	()
		実績		477トン	398トン	407トン	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・目標に29トン及ばなかった理由は、台風の襲来が少なかったことが原因である。実績としては前年よりは9トン上回った。収集した草木は委託業者により堆肥化され、農地や牛舎等で利用されている。					

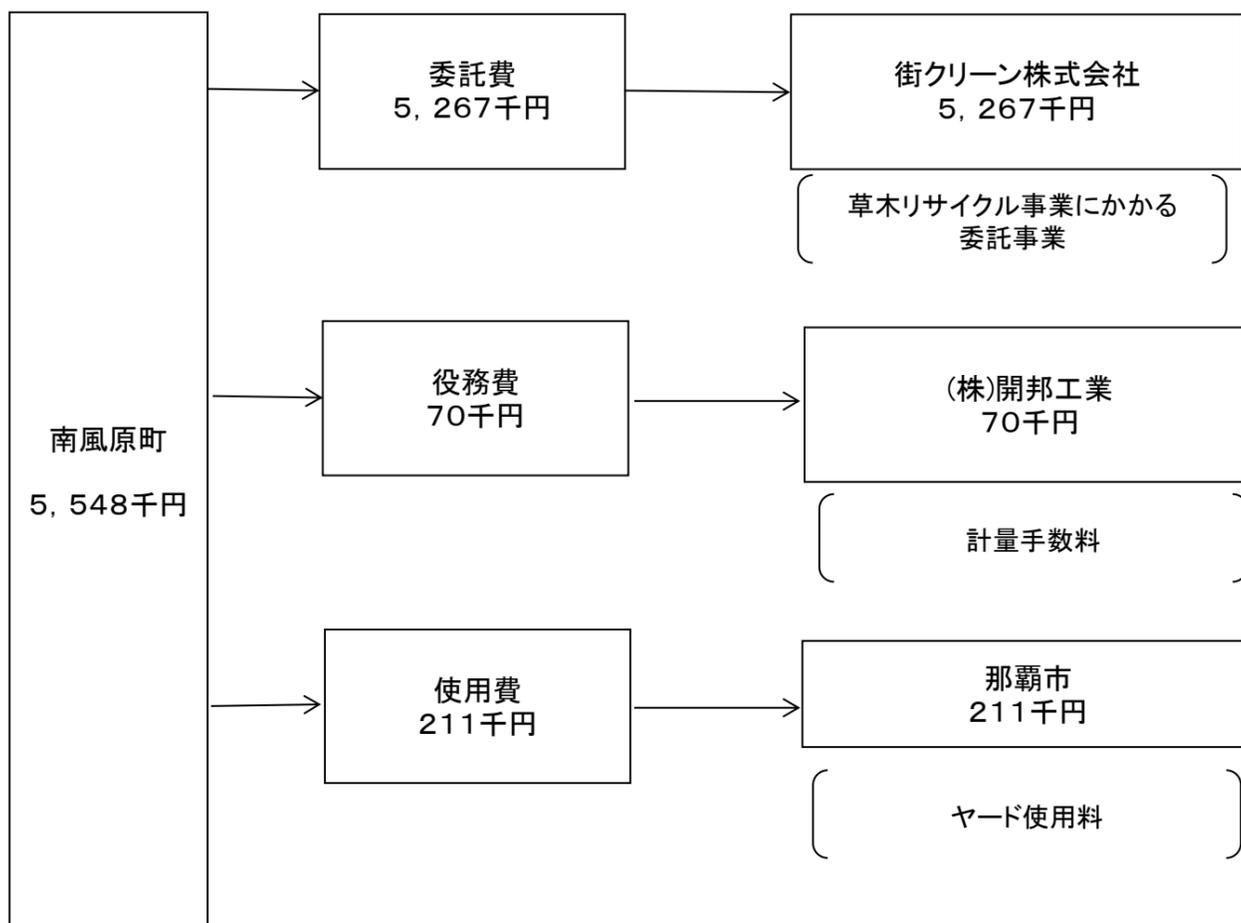
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	草木を可燃ごみとして排出する家庭が見受けられ、リサイクル量を減少させている原因となっている。	草木を可燃ごみとして排出している世帯には、個別指導してリサイクルの徹底を図る。

今後の取り組み方針

可燃ごみとして排出している世帯には、分別シールを貼るなど個別指導を行い、リサイクルの強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,548	5,548	4,438	1,110	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町近郊で家庭から排出された草木を堆肥にリサイクルできる委託先が一社しかないため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は87.7%であったが、草木の搬入量は適正な量であったため予算規模も適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④ 低炭素社会化事業(省エネ設備導入事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア		
担当部署名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成27~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進		
事業内容	省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の実現を図るため、防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,383	—	94,770	55,978	
		(b) 予算現額	10,231	—	94,664	55,978	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 152	—	▲ 106	0	
		(d) 繰越額	—	9,811	—	—	
		A. 計(b+d)	10,231	9,811	94,664	55,978	
	B. 執行済額		389	9,616	94,663	55,763	
	うち交付金充当額		311	7,693	75,730	44,610	
	次年度繰越額		9,811	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		3.8%	98.0%	100.0%	99.6%	
予算の状況の説明		平成29年度はLED化整備工事を17地区、2業者で実施することができ予算を執行することができた。不用額215千円については入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	443灯の防犯灯の設置	目標	(750)	(443)	()	()	
		実績	733	405			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成29年度は443灯のLED化を目標に、南風原町を2地区(17自治会)に分け、防犯灯のLED化整備工事を実施し、405灯の防犯灯設置を行った。目標を38灯下回る結果となった要因は、灯具等の単価が値上がりし、事業費が増額したことによるものである。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	平成29年度の削減量:21.18t-co2/年	目標	()	(35.86)	(21.18)	()	()
		実績		37.65	18.44		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	17自治会の既存蛍光灯CO2排出量計算とLED灯切り替え後の排出量の差により削減量を求めた。温室効果ガス総排出削減量18.44[t-CO2/年]、率にして53.3%の削減をすることが出来た。目標と実績の差については、防犯灯設置数量の減及び、排出係数の変更による。					

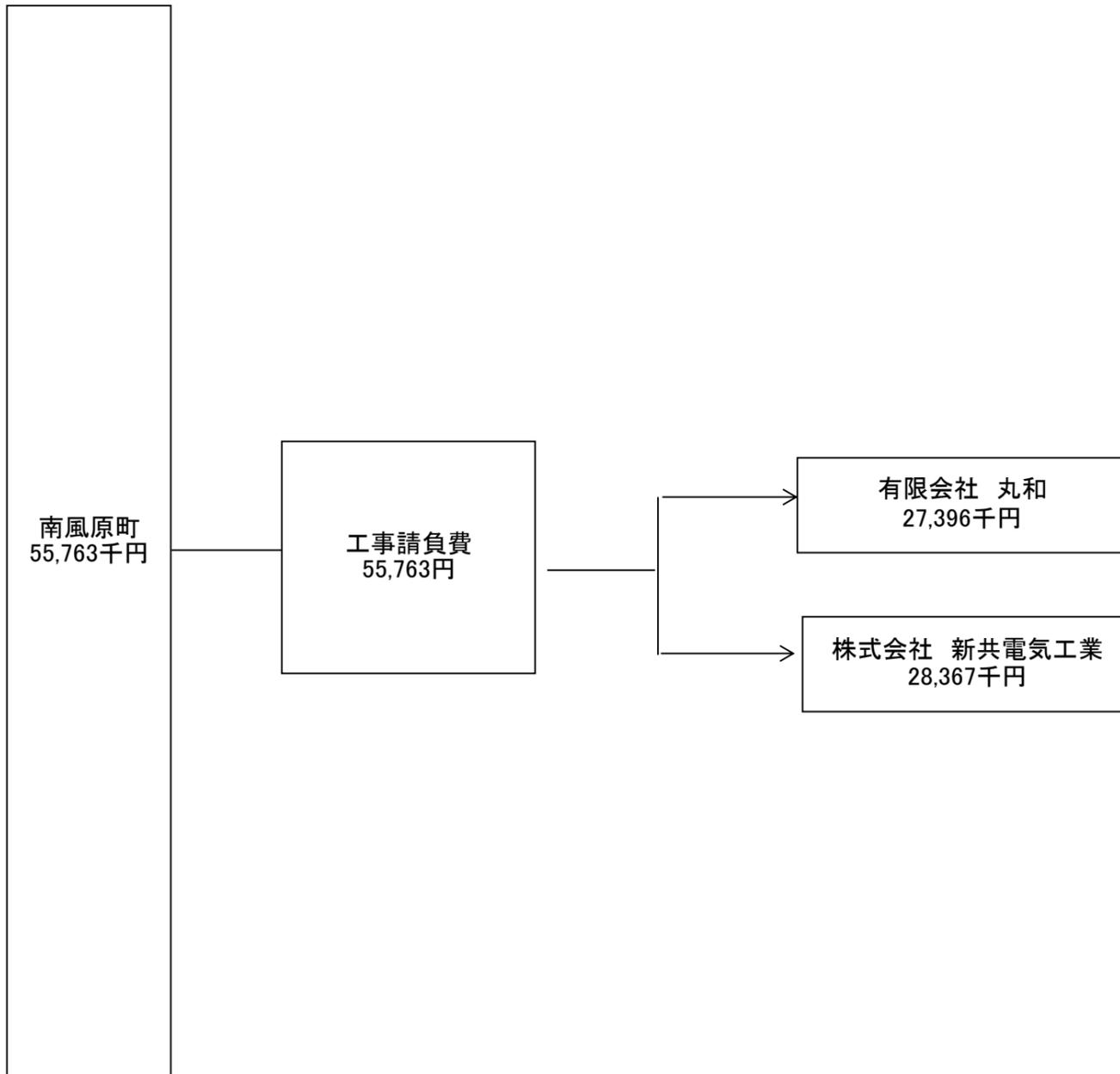
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	灯具等の単価が値上がりしたことで、設置数量が限られてくる。	設置場所や優先順位について自治会との調整を行う。

今後の取り組み方針

・区長会を活用し情報共有を図ることや、自治会長との連携を密にとることで、業務の効率化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
55,763	55,763	44,610	11,153	0



資金の用途の流れ、検査評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名委員会選定後、指名競争入札参加によって工事請負契約を締結しているのが妥当だと考える。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑤ 南風原町景観計画策定事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-(ア)					
担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成28～平成30年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所	III-10-(1)					
事業内容	観光地として魅力ある景観形成を図るため、昨年度の基礎調査を踏まえ、町内全12字すべてにおいてワークショップ(住民意見交換会)を実施し、景観計画(案)の検討・作成を行う。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,942	6,000				
		(b) 予算現額	3,726	5,724				
		(c) 増減額(b-a)	▲216	▲276				
		(d) 繰越額	—	—				
		A. 計(b+d)	3,726	5,724				
	B. 執行済額		3,726	5,724				
	うち交付金充当額		2,980	4,579				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおり、予算執行ができた。入札残により、補正で予算276千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	ワークショップの開催で住民意向の把握	目標	(現況調査の実施)	(住民意向の把握)	()	()		
		実績	現況調査の実施	住民意向の把握				
	景観計画(案)の検討・作成	目標	(アンケート調査・分析)	(計画(案)作成)	()	()		
		実績	アンケート調査・分析	計画(案)作成				
達成状況説明	・住民ワークショップ(意見交換会)を全12区・自治会で実施した事で、各字での景観資源を拝聴する事ができ、総合的に南風原町独自の景観像を明確化する事が出来た。 ・これまでの基礎調査及び、ワークショップでの意見及び町の考えをとりまとめ、南風原町景観計画(案)を作成する事ができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)	
	景観計画(案)の策定完了	目標	()	(調査完了)	(計画書(案)作成)	()	()	
		実績		調査完了	計画書(案)作成			
	【H31成果目標】策定した計画について、南風原町景観審議会で大規模開発の適合チェック等(年1回以上)を行うことで、本事業を検証することとする。		目標					—
	進捗状況説明	景観計画(案)で将来像に向けた課題、景観形成における基本方針、地区区分の基本的な考え方を定めた。今後、まちづくりの景観の指針として活用し南風原町の豊かな自然や歴史・文化資源を守り、育て、魅力ある景観形成を図る。						

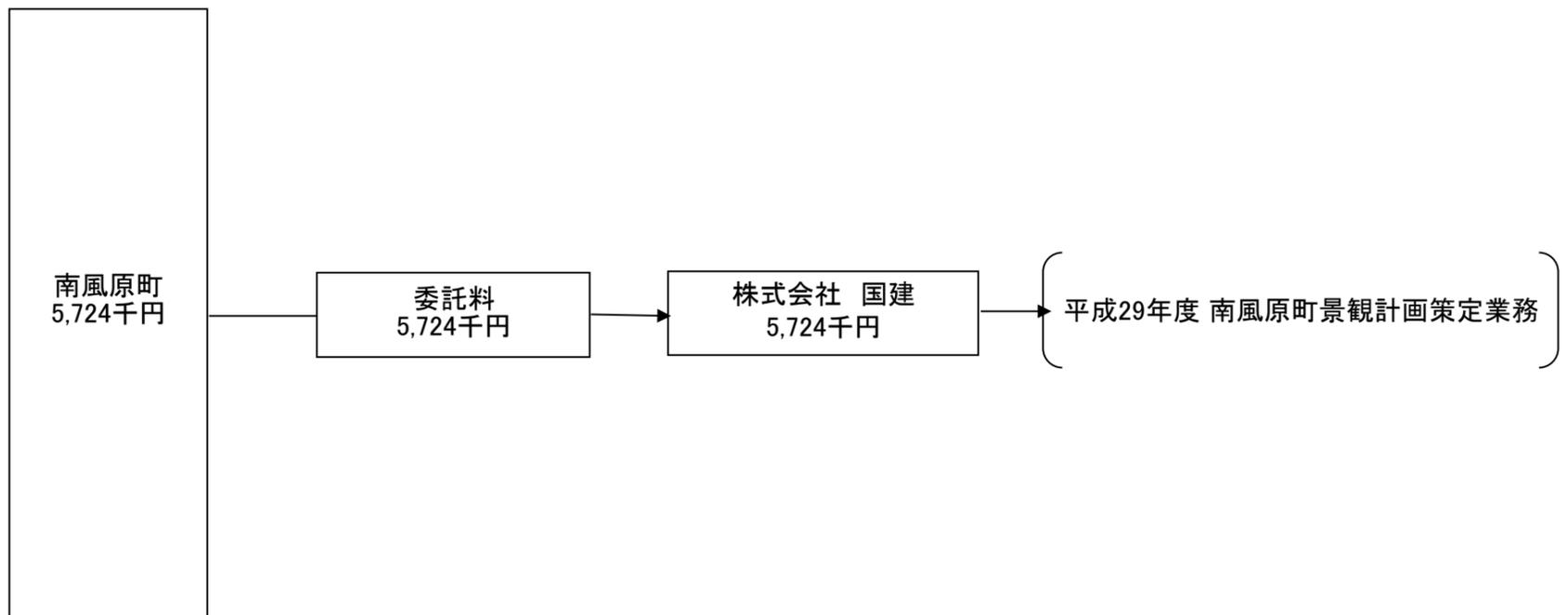
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	町内全12字でワークショップ(住民意見交換会)を開催したが、今後は建築制限、届出対象行為を具体的に定めていくこととなるため、計画策定に向けて、さらに多数の意見を反映させる必要がある。	更に多くの意見を拝聴するため、住民説明会やパブリックコメント等による町民の「景観」への意識啓発と情報収集の強化を図る。

今後の取り組み方針

平成30年度は事業最終年度となるため、景観計画(案)を基に届出対象行為をより具体的に定め、住民説明会やパブリックコメント等を実施し広く意見を拝聴したうえで南風原町景観計画を策定する。
策定後は南風原町が目指すべき「将来像」に向け、行政、町民、事業者等の多様な主体が共通のビジョンを持つ事で、町全体で魅力ある景観形成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,724	5,724	4,579	1,145	0



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について不用額はなく適正な規模であった。 ○用途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 防災体制強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部課名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	島しょ県である沖縄は、大規模災害時には物資の補給が困難となり、孤立してしまう恐れがある。そのため、町独自で長期保存ができる食糧等の備蓄を行い、防災体制の強化を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,525	12,736	3,233	2,791	848
		(b) 予算現額	13,710	12,736	1,997	2,322	848
		(c) 増減額(b-a)	6,185	0	▲ 1,236	▲ 469	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	13,710	12,736	1,997	2,322	848
	B. 執行済額	13,491	10,584	1,997	2,322	597	
	うち交付金充当額	10,792	8,467	1,597	1,857	477	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.4%	83.1%	100.0%	100.0%	70.4%	
予算の状況の説明	不用額251千円は、入札残等によるものである。 事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	備蓄品の購入 ①防災ブランケット	目標	()	()	()	(650枚)	
		実績				650枚	
	【参考】 ・備蓄品の購入 (米、水、トイレ袋等)	目標	(・3,240食分の備蓄品の購入)	(・3,240食分の備蓄品の購入)	(備蓄品の購入)	()	
		実績	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入	備蓄品の購入		
達成状況説明	・地域防災計画の食料等備蓄計画に基づき、5年間で人口36,000人の20分の1の3日分の食料等備蓄を目標とし、平成28年度に充足率100%を達成した。平成29年度は、食料等備蓄計画の目標数である650枚を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		26年度	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	目標備蓄数 650枚	目標	()	()	()	(650枚)	()
		実績				650枚	
	【参考】 ・備蓄品の購入 (米、水、トイレ袋等)	目標	(3,240食分の備蓄品の購入)	(3,240食分の備蓄品の購入)	(備蓄品の購入)	()	()
		実績	3,312食分の備蓄品の購入	3,312食分の備蓄品の購入	備蓄品の購入		
	進捗状況説明	・平成29年度で防災ブランケット650枚の整備を行い、目標備蓄数を達成した。					

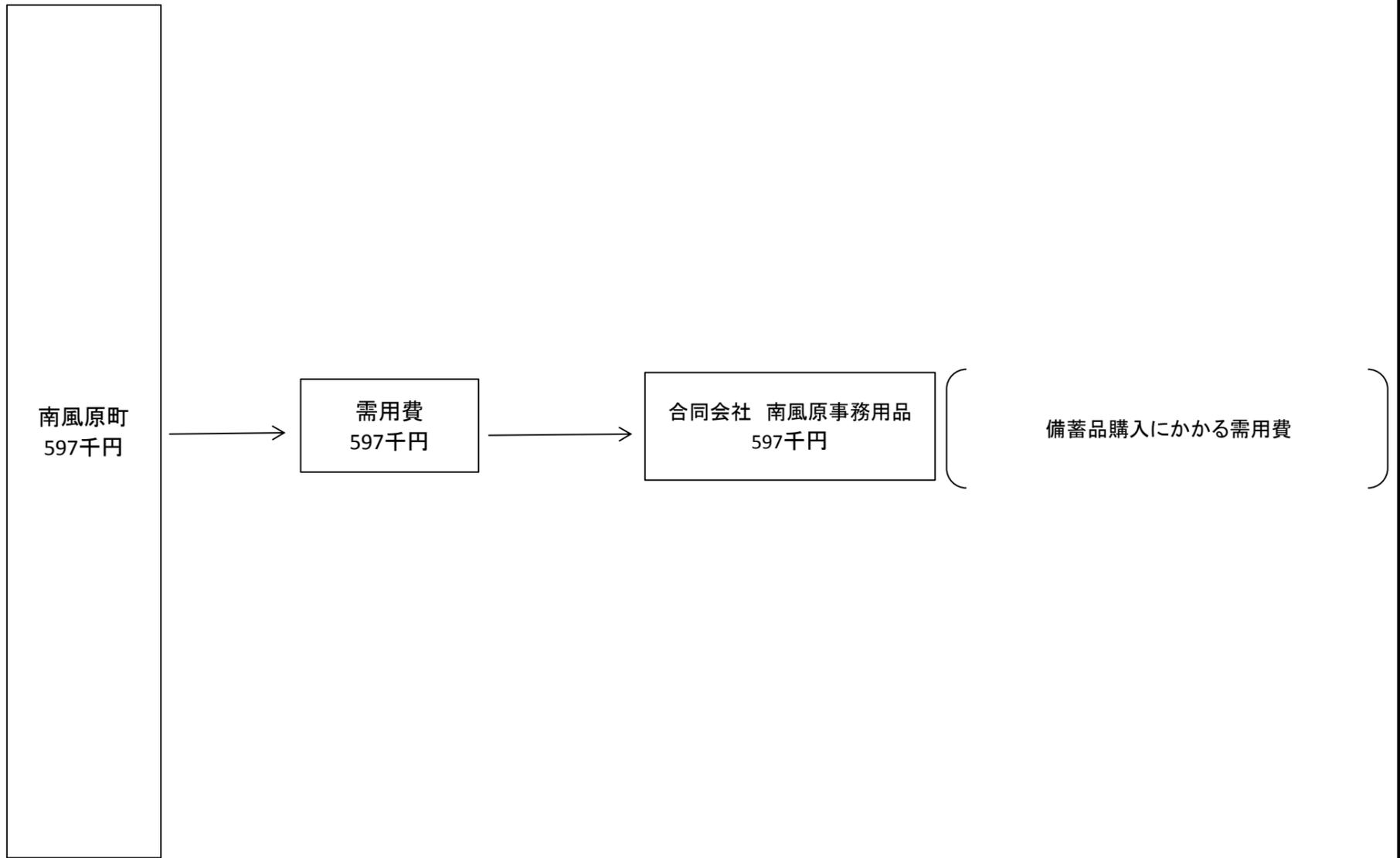
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・地域防災計画の食料等備蓄計画で設定している目標備蓄数を整備することができているが、毎年人口が増加していることから、現状にあわせた整備が必要となっている。</p>	<p>・地域防災計画の食料等備蓄計画で設定している目標備蓄数の見直し、現状にあわせた整備を図る。</p>

今後の取り組み方針

・平成30年度において、地域防災計画の食料等備蓄計画を防災会議で見直し、人口増加に合わせた備蓄品の整備に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
597	597	477	120	0



資金の流 れ、費 目・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○予算は、地方自治法施行令167条における指名競争入札による残額となっていることから、予算規模は適正であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-② 災害時等避難施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部課名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	災害時における地域住民の安全を確保するため、バリアフリー化等、避難所の整備を支援する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,000	—	5,000	2,500
		(b) 予算現額	5,880	3,454	—	5,000	2,500
		(c) 増減額(b-a)	880	▲1,546	—	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	5,880	3,454	—	5,000	2,500
	B. 執行済額		5,880	3,219	—	5,000	2,500
	うち交付金充当額		4,704	2,575	—	4,000	2,000
	次年度繰越額		0	0	—	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.2%	—	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		・H29年度は1箇所の整備を計画し、計画どおり予算の執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	避難所の機能強化工事(施設整備)支援:1箇所	目標	(5箇所)	(—)	(2箇所)	(1箇所)	
		実績	2箇所	—	1箇所	1箇所	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度目標どおり、1箇所の機能強化工事の支援を行った。 ・災害時に備えたるため床張替え、調理室の整備、バリアフリー化工事を行い災害時避難施設の機能強化を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(31年度)
	避難所(区、自治会)の整備36.8%(全避難所19ヶ所中7ヶ所整備完了) ※H33年度までに全19自治会の整備を目標とする。	目標	()	(—)	(2件)	(1件 36.8%)	()
		実績		—	1件	1件 36.8%	
	【H31成果目標】 整備された避難所を活用した避難訓練の実施(年1回)により、本事業を検証する。	目標					1回
進捗状況説明	平成33年度までに全避難所19ヶ所全ての整備を予定しており、平成29年度は累計7件、36.8%の目標を達成した。 【26年度以前の実績】 平成24年度実績:1件(5%) 平成25年度実績:2件(15%) 平成26年度実績:2件(26%)						

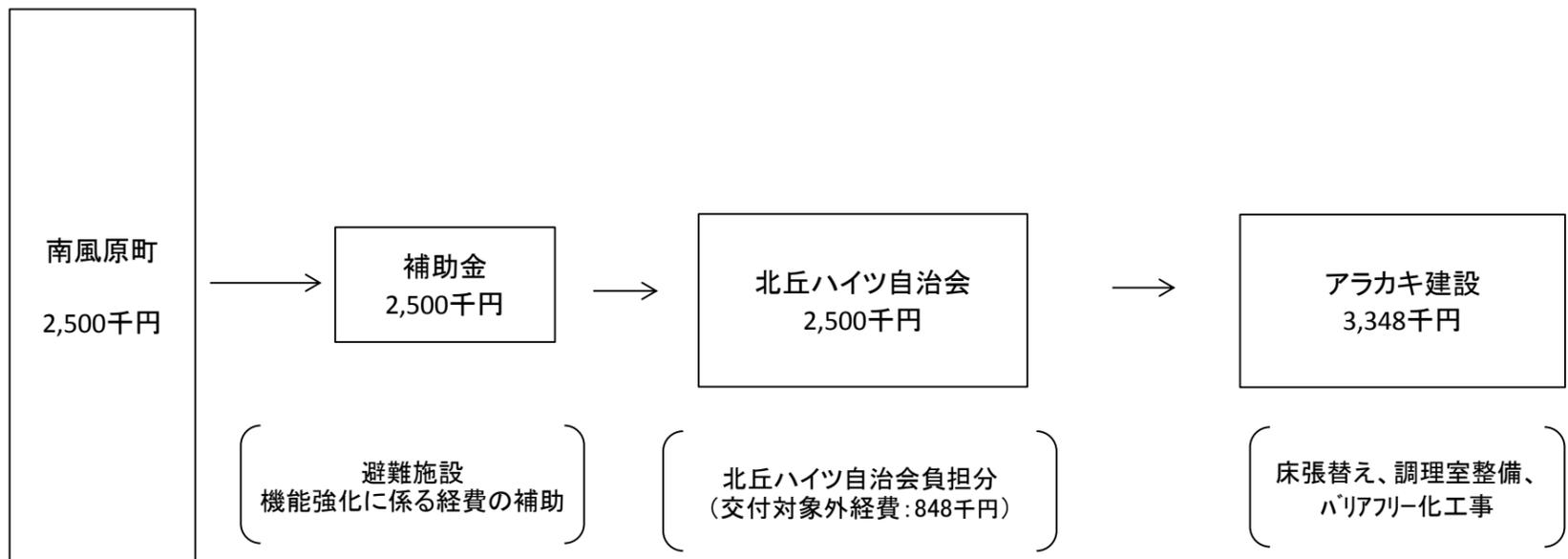
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回整備した1箇所について、関係自治会とスムーズに協議を行えたことが目標達成の要因である。	残りの12箇所の整備について、他の関係自治会と協議を行い、早期に調整を行っていく。

今後の取り組み方針

平成30年度以降も、毎月開催される区長会等で事業内容を説明し、整備の必要な施設について関係自治会と協力して事業を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,348	2,500	2,000	500	848



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町災害時等避難施設改修事業補助金交付要綱に基づき支出していることから妥当と考えている。 ○全て避難施設の機能強化に関する費用となっており予算規模は妥当であったと判断した。 ○受益者である北丘ハイツ自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断した。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

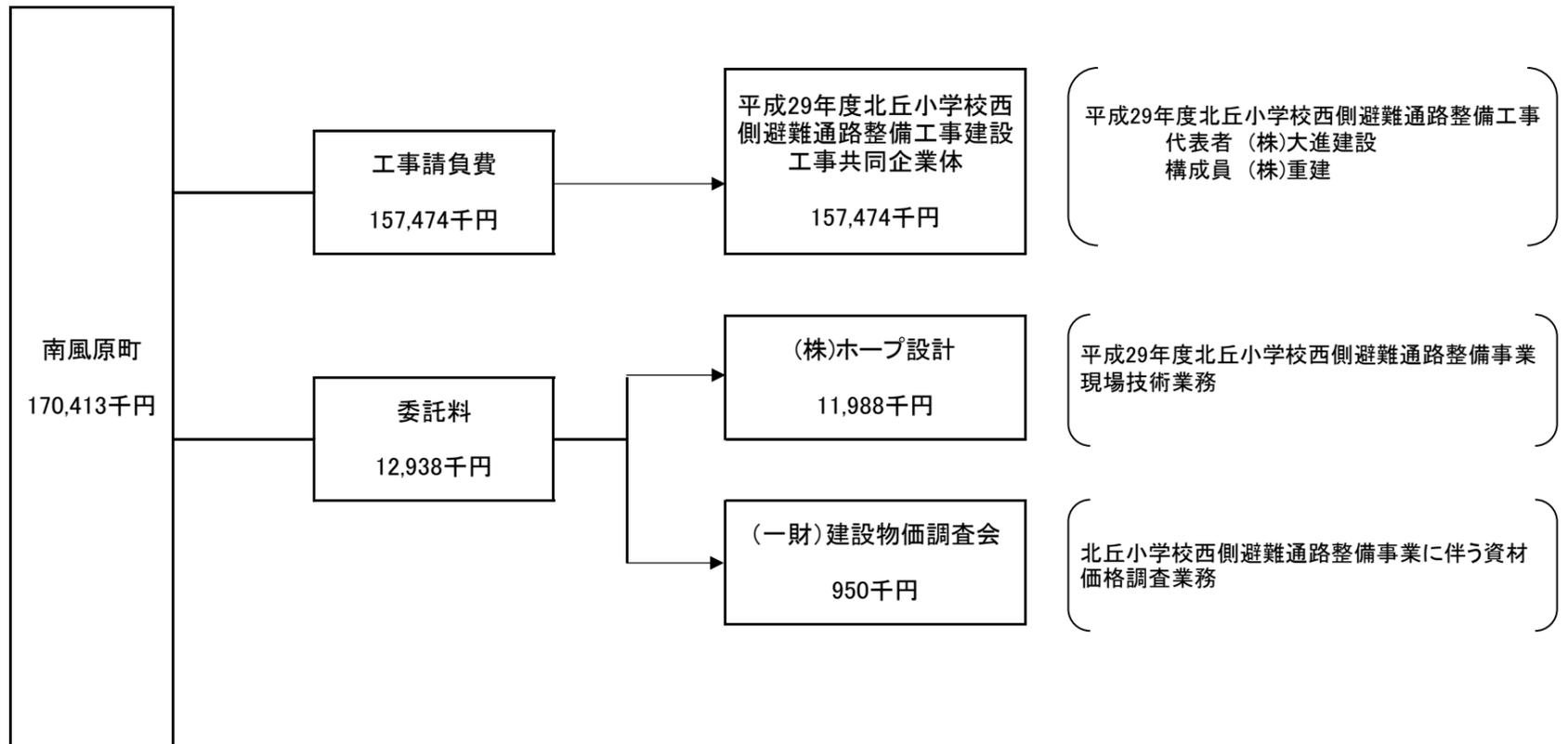
市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③ 北丘小学校西側避難通路整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化					
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度 平成26~30年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 III-10-(2)					
事業内容	災害時の住民の安全を確保するため、避難通路及び法面の整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額	(a) 当初予算額	12,701	—	—	175,627	
		(b) 予算現額	11,016	—	—	170,417	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,685	—	—	▲ 5,210	
		(d) 繰越額	—	7,712	—	—	
		A. 計(b+d)	11,016	7,712	—	170,417	
	B. 執行済額		3,304	7,712	—	170,413	
	うち交付金充当額		2,643	6,169	—	136,330	
	次年度繰越額		7,712	0	—	0	
	執行率(%) (B/A)		30.0%	100.0%	—	100.0%	
予算の状況の説明		補正による予算5,210千円の減については、入札残によるものであり事業は適切に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	北丘小学校西側避難通路整備工事の実施		目標 (調査・測量)	(基本設計)	()	(工事の実施)	
			実績 調査・測量	基本設計及び実施設計		工事の実施	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成26、27年度において調査・測量及び実施設計を行い、平成29年度は法面上部を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(31年度)
	整備工事の完了		目標 ()	(基本設計の完了)	()	(工事の完了)	()
			実績	基本設計及び実施設計の完了		工事の完了	
	【H31成果目標】整備した避難通路を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。		目標				1回
進捗状況説明	平成29年度に予定していた避難通路の付帯工事にあたる法面上部の整備が完了した。引き続き、平成30年度末の供用開始に向け整備を進める。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・避難通路は、学校敷地内への整備となるため、授業中の建設機械の稼働による騒音やボーリング工事の振動が課題となり授業に支障のないよう事業を行う必要がある。</p>	<p>・避難通路整備における騒音や振動は、作業時間の検討を行うと共に防音シートの設置や導入可能な低騒音型の建設機械を使用するなど環境改善に努める。</p>

今後の取り組み方針
<p>・本事業の実施にあたっては、作業区域を十分考慮して各種機械が同時に稼働する時間を合理的な範囲で短くするよう施工計画を立案し、学校現場に支障のないよう整備を進めていく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
170,413	170,413	136,330	34,083	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定方法については指名競争入札により選定し、130万円以下の委託業務については、本町契約規則により、3社見積もりによる随意契約を行っており妥当であったと考える。</p> <p>○土木工事設計要領、土木工事標準積算基準書(沖縄県土木建築部)により設計及び整備をおこなっており予算規模は事業内容に見合った適性なものと判断する。</p> <p>○費目・使途については事業目的の達成の観点から、適正であったといえる。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 放課後児童の居場所づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部課名	民生部 こども課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	安心・安全に子供を預けることができ、保護者の子育てへの負担感を軽減するため、本町の民間の賃貸住宅等を利用している学童クラブに対して家賃の補助を実施。また、学童クラブが生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者に対し利用料を減免した場合の補助を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,310	2,310	7,530	8,010	8,160
		(b) 予算現額	2,310	2,310	6,506	7,046	7,996
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲1,024	▲964	▲164
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,310	2,310	6,506	7,046	7,996
	B. 執行済額		2,310	2,270	6,108	6,761	7,568
	うち交付金充当額		1,848	1,816	4,886	5,408	6,054
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.3%	93.9%	96.0%	94.6%
予算の状況の説明		学童保育料の実績を見込み補正により、予算164千円を減額した。 学童クラブ利用支援補助を生活保護世帯まで拡大し当初82名の児童が対象となる見込みだったが、利用者が少なかったため実績は73名となり、不用額が428千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	民間賃貸住宅を使用している学童クラブに対する支援の実施	目標	(5件)	(7件)	(7件)	(実施)	
		実績	5件	8件	7件	実施	
	生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者に対し学童保育料を減免した学童クラブに対する支援の実施	目標	(-)	(-)	(-)	(実施)	
実績		-	-	-	実施		
達成状況説明	・賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている7学童クラブに対して、負担軽減のため1ヶ月50,000円の上限で家賃補助を実施した。 ・学童保育料の減免に対する支援については、ひとり親家庭に加え、平成29年度から生活保護世帯も対象として実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(23年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(30年度)
	民間賃貸住宅を使用している学童クラブに対する支援の完了	目標	(-)	(7か所)	()	()	()
		実績	-	7か所			
	生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童クラブ利用者に対し学童保育料を減免した学童クラブに対する支援の完了	目標	(-)	(82人)	()	()	()
		実績	-	73人			
【H30成果目標】 安心・安全に子供を預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標				80%	
進捗状況説明	家賃に係る経費の補助は目標7か所を達成することが出来た。学童クラブ保育料減免に係る補助については、生活保護世帯の学童利用者が見込みよりも少なかったため実績は73人となった。家賃に係る経費の補助・学童クラブ利用料減免に係る補助を行うことで、学童クラブの運営の安定化に繋がり、子ども達の安心・安全な放課後の居場所作りを充実させることができた。						

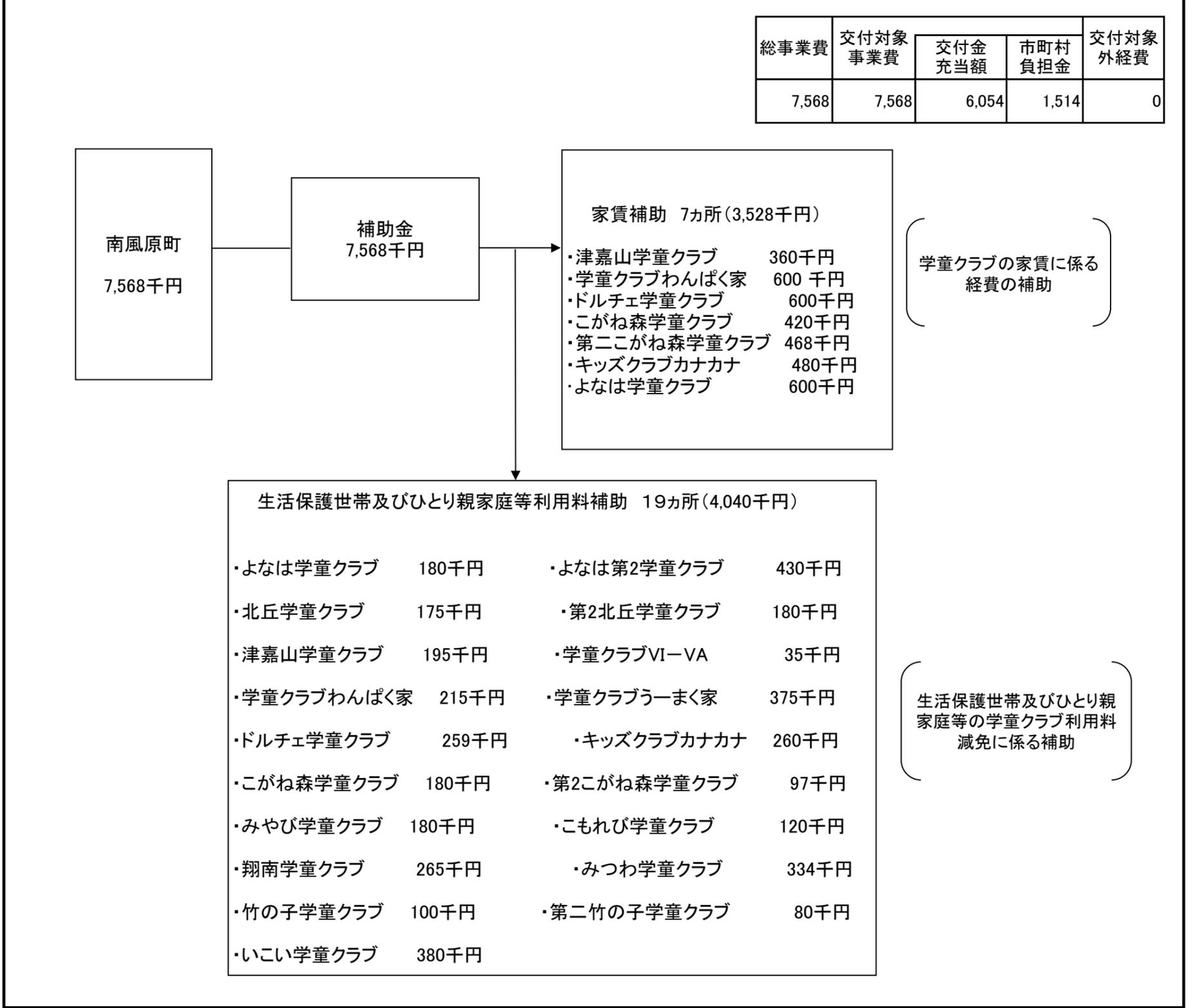
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(民間賃貸住宅を使用している学童クラブに対する支援) 民設民営のほとんどの学童クラブに対して、1ヶ月50,000円の上限で家賃補助を行っているが、学童クラブによって家賃が異なっている。	(民間賃貸住宅を使用している学童クラブに対する支援) 現状の金額(1ヶ月上限50,000円)が妥当なのか、検証する必要がある。補助額を検討することと併せて、家賃が発生しない公的施設の活用も検討する。
	(学童保育料を減免した学童クラブに対する支援) 補助を行うことで、学童クラブの運営の安定化や環境改善が図れるため、改善状況について確認する必要がある。	(学童保育料を減免した学童クラブに対する支援) 保育料を減免されている利用者の意見も確認しながら改善されているか確認する必要がある。

今後の取り組み方針

(民間賃貸住宅を使用している学童クラブに対する支援)
・学童クラブの家賃に係る経費の補助については、各学童クラブが賃貸している住宅の家賃に変動がないか再確認し、現状の補助額が妥当なのか検討する。また、公的施設に空きスペースがあるかどうかを確認し、今後活用出来るかどうかを検討する。

(学童保育料を減免した学童クラブに対する支援)
・学童クラブによる利用料減免に対する補助については、引き続き補助を行うとともに、学童クラブを利用する保護者全員にアンケート等を実施して保育環境の状況や保育の質の状況を確認する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績、知識等を勘案した上で補助事業者(学童クラブ)を決定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額を支出し、適当な額で実施している。○補助金の上限を超える金額はクラブ負担であり、妥当で合ったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-② 幼稚園保育充実事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課・教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	保護者の負担軽減を図るため、安全な給食提供に必要な共同調理場、及び幼稚園の備品(食缶)等の設備を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	958	487	486	973	1,195
		(b) 予算現額	1,647	487	27,958	8,246	1,195
		(c) 増減額(b-a)	689	0	27,472	7,273	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	1,647	487	27,958	8,246	1,195
	B. 執行済額		1,070	430	27,587	7,637	967
	うち交付金充当額		856	344	22,069	6,109	772
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		65.0%	88.3%	98.7%	92.6%	80.9%
予算の状況の説明		不用額228千円は、入札残等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	給食関係消耗品、備品の整備	目標	—	(給食関係消耗品・備品の整備)	(給食関係消耗品・備品の整備)	(給食関係消耗品・備品の整備)	
		実績	—	給食関係消耗品・備品の整備	給食関係消耗品・備品の整備	給食関係消耗品・備品の整備	
		目標	—				
		実績	—				
達成状況説明	・食卓机9台、配膳台1台、コンテナ他3品目の備品と、深皿他17品目の消耗品の整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	給食提供に必要な共同調理場及び幼稚園の備品整備完了	目標	()	幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備	幼稚園4歳児、5歳児園児への給食提供環境整備	(整備完了)	()
		実績		幼稚園4歳保育児童への給食提供環境整備完了	幼稚園4歳児、5歳児園児への給食提供環境整備完了	整備完了	
	【H30成果目標】給食提供によって、保護者の負担軽減が図られたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより当該事業のあり方を検証する。		目標				80%
	進捗状況説明	・共同調理場及び幼稚園の備品を整備し、平成30年度4月からの5歳児クラス1増に対してスムーズな対応を実施するための取組を行うことができた。					

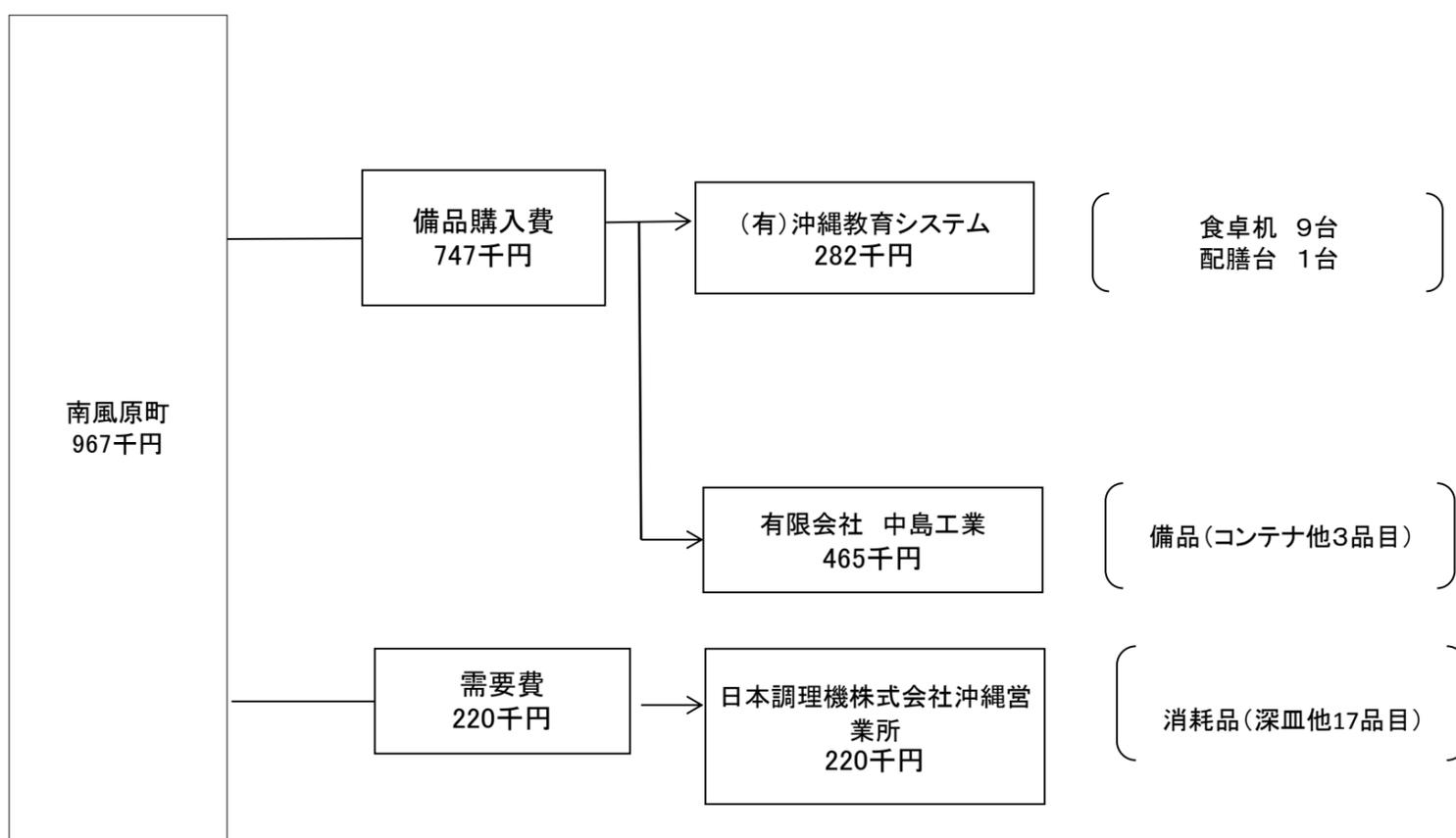
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成27年度より整備している給食提供に必要な備品及び消耗品については、共同調理場及び各幼稚園において適切に管理し、全クラスで活用している。</p>	<p>・引き続き備品等を適切に管理し、安全・安心な給食提供に努め、幼稚園保育の充実を図る。</p>

今後の取り組み方針

・今後も事業で整備した備品(保温食缶等)や消耗品(皿、箸等)については、保管庫等で適切に管理を行い、安全・安心な給食の提供に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
967	967	772	195	0



資金の流 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○購入業者は、地方自治法施行令に基づき、指名競争入札及び随意契約により選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模は、整備に必要な費用を計上しており、適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 陸軍病院壕公開活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	南風原町の歴史継承及び観光の誘客を図るため、沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を行うとともに、整備・公開している20号壕を訪れる県内外からの見学者へのガイド案内を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,856	11,603	6,515	6,705	6,766
			5,856	11,603	5,039	4,631	6,766
			0	0	▲ 1,476	▲ 2,074	0
			-	-	-	-	-
			5,856	11,603	5,039	4,631	6,766
	B. 執行済額		5,536	10,776	5,039	4,631	4,822
	うち交付金充当額		4,428	8,620	4,031	3,704	3,857
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.5%	92.9%	100.0%	100.0%	71.3%
予算の状況の説明		不用額1,944千円は、主に来壕者数が減少したことによる南風原町観光協会への委託費587千円の減と嘱託職員報酬1,565千円のうち、1,300千円を対象外経費にしたことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	開壕日数 308日	目標	(310日)	(308日)	(308日)	(308日)	
		実績	317日	308日	308日	309日	
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	見学者の要望を確認し、定休日でも開壕して目標達成に取り組んだ。 壕の安全を保つために変位観測業務を実施し、壕を案内するために常駐のガイドを配置している。 壕の保存・活用に使用するための基礎情報である、壕内の風化や経年劣化に関する図面作成、写真撮影を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	見学者指数 11,500人 (平成28年度見込み 11,500人)	目標	(9,804人)	(10,000人)	(10,000人)	(11,500人)	()
		実績		11,287人	10,310人	8,801人	
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	見学者数は年ごと、月ごとに増減があり、安定していない。平成29年度は、平成25年度以来、4年ぶりに見学者数が10,000人を割っている。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 見学者数の増減には修学旅行の動向が大きな影響を与えており、修学旅行の団体見学が減少すると一団体当たり80~120人の見学者数減となる。 また、修学旅行がほとんど無い時期(9月・1月など)は見学者数そのものが少ない。今後、修学旅行の時期以外に見学者数を増やすための取り組みが必要となる。 現在内部を一般公開している20号壕は、公開から10年が経過しており、壕内の経年劣化・風化等に対する現況調査と対応策の検証が必要になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開している20号壕について、見学者数の少ない月に見学者を呼び込める方法の検証が必要。 平成29年度より「沖縄陸軍病院南風原壕群および黄金森周辺戦跡活用検討委員会」が発足している。内部を一般公開している20号壕とその周辺に残る戦跡等を連動させた活用方法を検討し、見学者の学びの幅を広げるとともに、見学者数の増加を図る。 平成29年度より「沖縄陸軍病院南風原壕群20号現況調査検討部会」が発足している。部会では、一般公開から10年が経過する20号壕の経年劣化や風化の状況について調査検討を行い、経年劣化・風化等に対する対応策の検証を行っている。

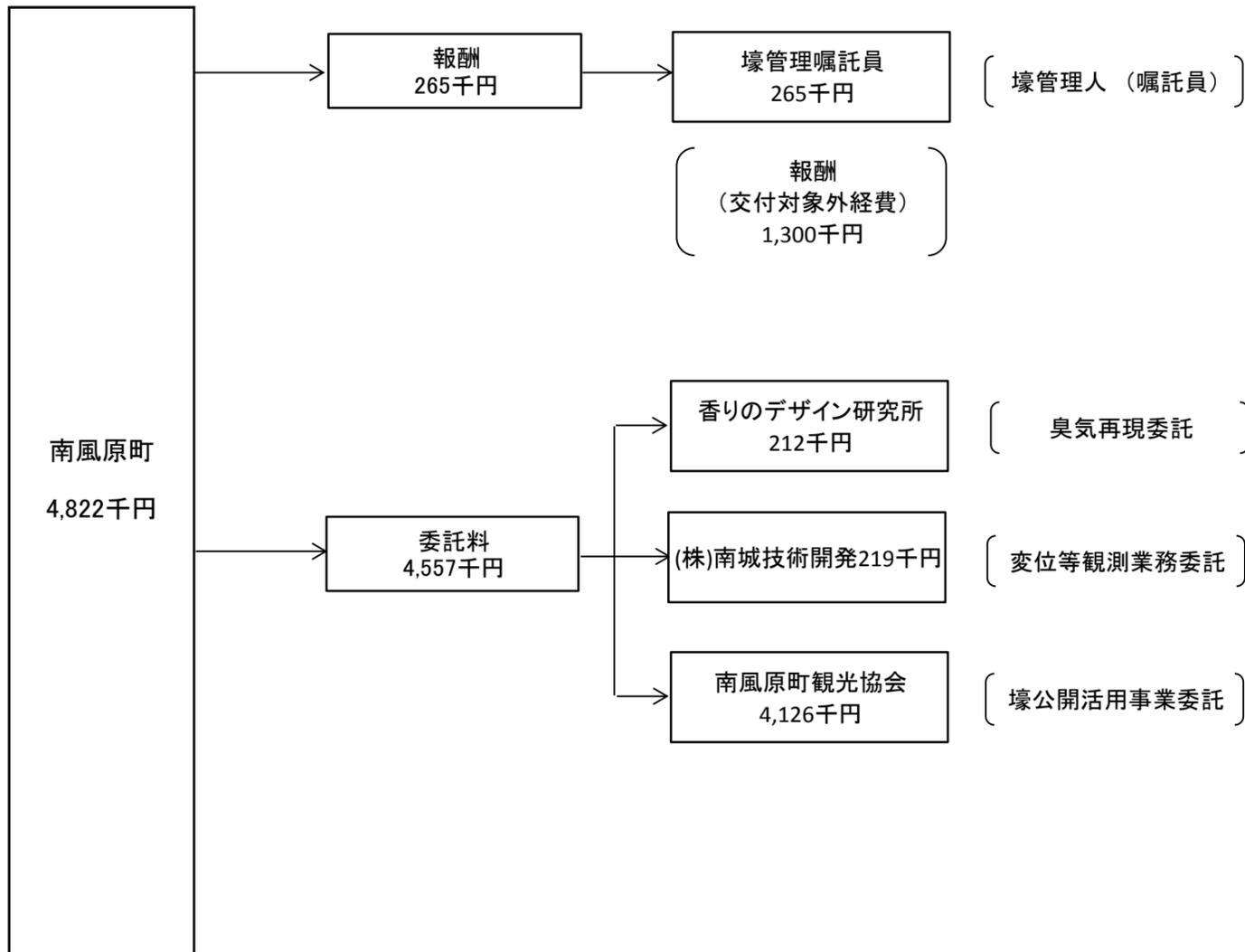
今後の取り組み方針

・壕の見学者数の増減について、修学旅行以外の見学者数の増加への方策の検証を行う。特に、修学旅行が少ない9月、1月などに見学者を呼び込める方法や見学者数の割合として少ない、町内在住者や県内在住者に対する周知方法の検証を行う。

・平成30年度に「沖縄陸軍南風原壕群および黄金森周辺戦跡活用検討委員会」、「沖縄陸軍病院南風原壕群20号現況調査検討部会」の2つの部会の答申が提出される。この答申をもとに、壕群の保存・活用を積極的に進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,122	4,822	3,857	965	1,300



資金の流 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託について、町の観光資源を活用する組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託しており、妥当だと考えている。 ○予算規模は事業に要する費用であり適正だと考えている。 ○費目・用途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	子ども平和学習交流事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア			
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	III-3-(2)		
事業内容	小学校6年生を対象に、戦争・平和・差別・人権についての事前学習と県外研修を実施し、施設見学、現地の人との交流を通して平和について広く学習する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,435	2,588	2,729	1,969	1,385
		(b) 予算現額	1,435	2,588	2,970	1,659	1,084
		(c) 増減額(b-a)	0	0	241	▲ 310	▲ 301
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	1,435	2,588	2,970	1,659	1,084
	B. 執行済額		1,283	2,254	2,882	1,639	946
	うち交付金充当額		1,026	1,803	2,305	1,311	756
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.4%	87.1%	97.0%	98.8%	87.3%
予算の状況の説明		計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。補正による予算301千円の減額は、旅費と印刷製本費等の減による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・子ども平和学習交流事業参加者数(8人)	目標	(12人)	(24人)	(12人)	(8人)	
		実績	12人	24人	12人	8人	
	・事前学習、本研修の後その報告会を開催	目標	(-)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	
		実績	-	報告会を開催	報告会を開催	報告会を開催	
達成状況説明	4小学校から6年生2人、計8人が選考され、計画通り本研修を終えることができた。研修終了後には役割分担をし、本研修の報告会を開催した。また、事前学習から本研修までの取り組みを整理し、学習のまとめを今年度の報告書として出版した。学校からの推薦には始まり、初めての顔合わせから報告書作成まで、およそ8ヶ月に及ぶ関わりの中での事業で、小学校卒業後のOB会の活動へも繋がっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	・参加児童の保護者へのアンケートで、子どもにより変化がみられた:95%	目標	()	(95%)	(95%)	(95%)	()
		実績		96%	100%	100%	
	・参加後、平和や戦争、人権や差別について社会の問題に興味があった児童:95%	目標	()	(95%)	(95%)	(95%)	()
		実績		100%	100%	100%	
	【H30成果目標】 参加児童の平和等に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する		目標				80%
進捗状況説明	保護者からの事業後のアンケートから、「研修を一つ一つ終わる度に、家族に対して得意そうに話す姿を見て、いい変化が現れたと思った」「自分の考えや思いを、言葉で表現するようになった」「ニュースで平和学習で学んだワードに反応する」などの良き変化の様子が報告された。また児童に対するアンケートでも、「今の自分のままではいけないと気づき少しずつ前向きに代わろうとする姿が見られる」「他校のお友達ができただことで、中学へ行くのを楽しみにしている」などの回答が得られた。						

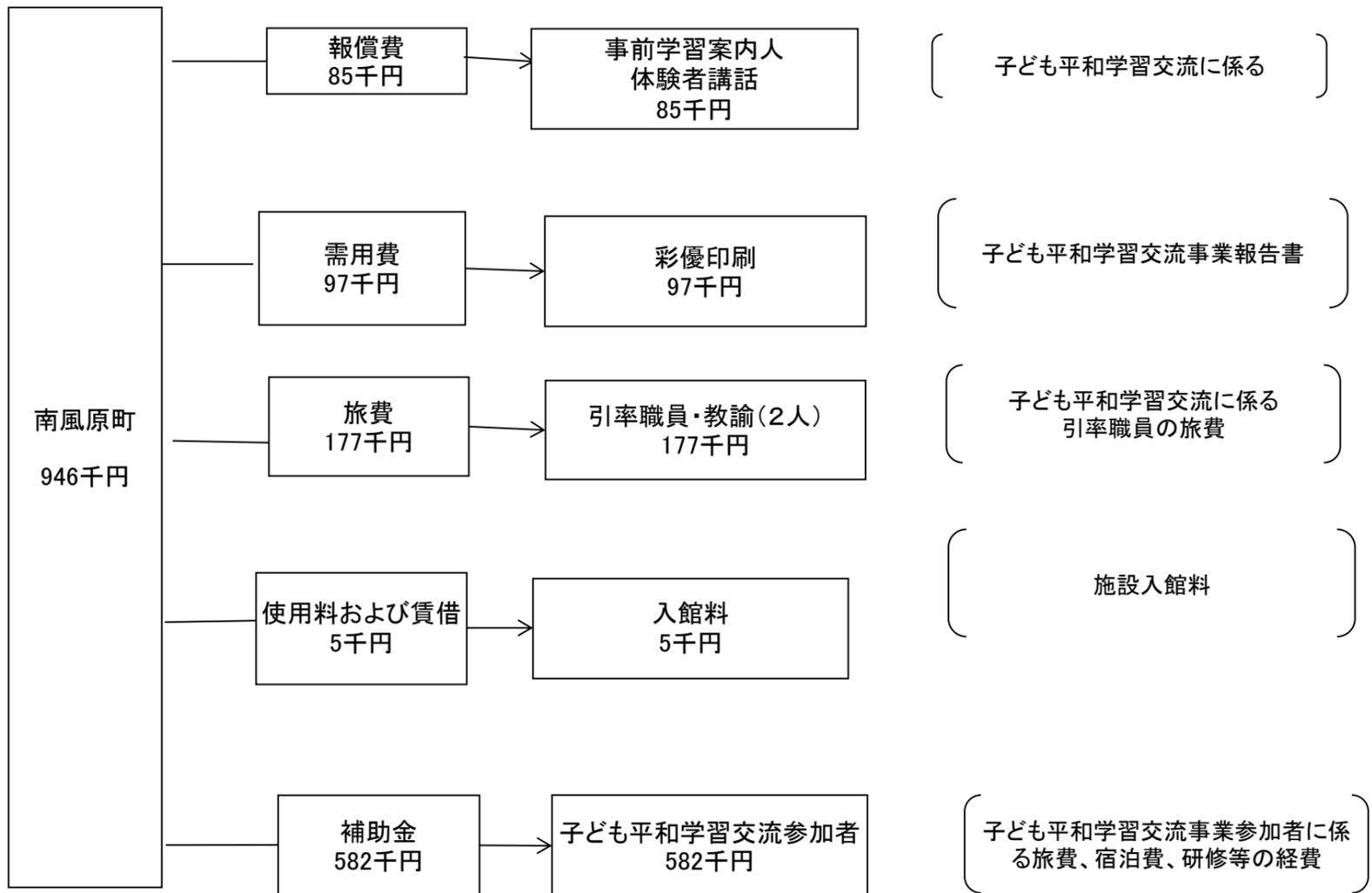
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・記録したり、仲間たちとの意見交換を通して考えたこと等を継続して自分の言葉で表現できるようにしたい。 ・人権について当事者意識を持たせるようにするための情報や、学習機会の提供を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習の後は、感想を書かせたり、意見交換をして、自分の考えを述べたり表現する機会を作る。 ・いろいろな立場の人たちを例に挙げて、不利な立場になる人はいないか、苦しむ人はいないかなどの視点を持てるように情報を提供する。

今後の取り組み方針

・毎回感想は書かせているが、それぞれがどんな感想を持ったのかなど、個別の発表や意見交換ができる時間を確保する。
 ・平和学習の目的を達成するために、身近な差別の問題や「人権」について認識を深めるために事例を紹介しながら、自分の考えをまとめていけるように時間配分を考えて研修日程を組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
946	946	756	190	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。参加者(補助金)の選定は学校長推薦により行い適正であった。 ○事業達成に必要な金額を支出し妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・用途が事業目的である、研修先への旅費、交流に必要な経費として目的に即している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	伝統芸能保存育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ			
担当部署名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成		
事業内容	伝統芸能の継承を図るため、伝統芸能保持団体である自治会への道具・衣装・楽器・面玩具等の備品の購入に対し補助をする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		(b) 予算現額	2,852	3,000	2,000	317	3,000
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,148	0	▲ 1,000	▲ 2,683	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	2,852	3,000	2,000	317	3,000
	B. 執行済額		2,651	2,970	1,647	316	2,389
	うち交付金充当額		2,120	2,376	1,317	253	1,911
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.0%	99.0%	82.4%	99.7%	79.6%
予算の状況の説明		不用額611千円は、自治会の申請額が見込額よりも下回ったことによる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	伝統芸能保存育成補助件数 3件	目標	(6件)	(6件)	(3件)	(3件)	
		実績	4件	4件	2件	4件	
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・町内の伝統芸能継承を推進するため、3自治会へ伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装・楽器・道具の購入に対して4件の補助金交付を行った。 当初は3件を予定していたが、1件の追加要望があり4件となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	補助団体による伝統芸能上演等回数 51回	目標	(55回)	(67回)	(34回)	(51回)	()
		実績		68回	34回	68回	
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	・29年度は大幅に目標値を達成し、伝統芸能の保存継承を促進した。						

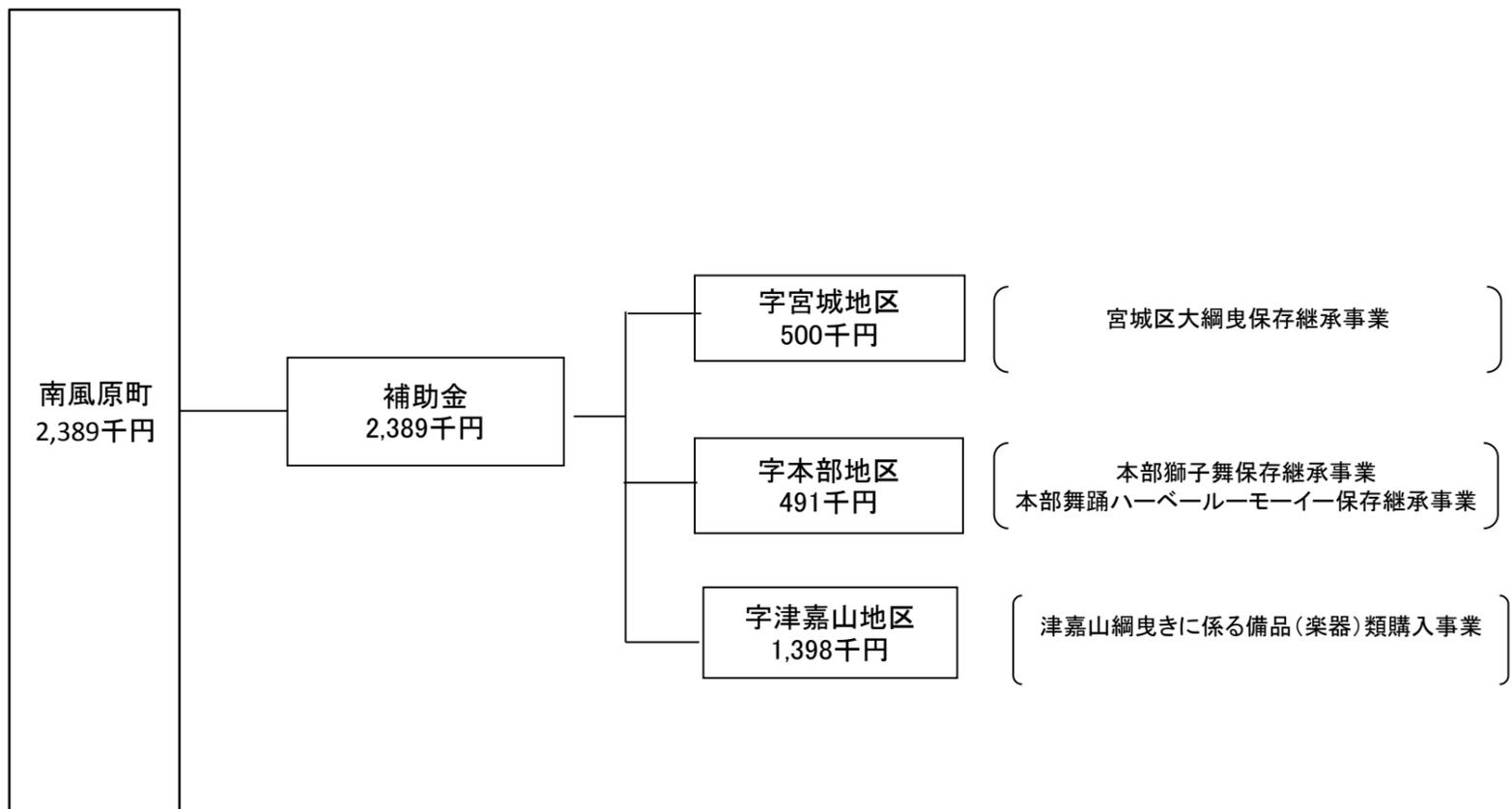
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	自治会で道具や衣装等を購入後に伝統芸能を上演する場を確保していくことが求められている。	自治会での上演や公共施設等での上演をととして活動の機会を増やしていく。

今後の取り組み方針

自治会や芸能関係団体等と話し合いの場を設けて上演の場を確保し、伝統芸能の上演者やその後継者を育成していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,389	2,389	1,911	478	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○予算規模は事業に要する費用であり適正だと考えている。 ○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき実施しており妥当である。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-④	南風原町海外移住者子弟研修生受入事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア			
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な 交流の推進 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	それぞれの生まれ育った国や地域への理解を深め、海外と本町を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南風原町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の文化と歴史の学習を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,500	1,900	3,903	2,095	3,008
		(b) 予算現額	1,500	1,900	2,303	1,595	2,370
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,600	▲ 500	▲ 638
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	1,500	1,900	2,303	1,595	2,370
	B. 執行済額		1,207	1,573	2,266	1,579	2,295
	うち交付金充当額		965	1,258	1,813	1,263	1,836
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		80.5%	82.8%	98.4%	99.0%	96.8%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。補正により、予算638千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・受け入れ国の数3カ国 南米3カ国(ペルー、ブラジル、アルゼンチンの内2カ国)及び米国ハワイ	目標	(1カ国 ペルー)	(3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル)	(2カ国 ペルー・ブラジル・アルゼンチン)	(3カ国)	
		実績	2カ国 ブラジル・ペルー	3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル	1カ国 アルゼンチン	3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル	
	・受け入れ研修生の数:4人	目標	(2人)	(5人)	(2人)	(4人)	
		実績	2人	4人	2人	4人	
	・研修成果の報告会を開催	目標	(—)	(報告会の開催)	(報告会の開催)	(報告会の開催)	
実績		—	報告会の実施	報告会の実施	報告会の実施		
達成状況説明	夏にハワイから2人、冬に南米(ペルー・ブラジル)から2人、予定通り合計4人を研修生として受け入れた。また、研修終了後は、帰国前に研修成果の報告会を開催し、関係者にその成果を披露することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者 に対してアンケートを実施 ・研修終了後、移民史に興味があった:80%	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		100%	100%	100%	
	研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者 に対してアンケートを実施 ・日本語をさらに習得したい:80%	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		100%	100%	100%	
	研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者 に対してアンケートを実施 ・日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった:80%	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		100%	100%	100%	
研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者 に対してアンケートを実施 ・ホストファミリーとしてまた研修生を受け入れたい: 70%	目標	()	(—)	(70%)	(70%)	()	
	実績		—	未実施	50%		
研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者 に対してアンケートを実施 ・海外の子弟と交流ができてとても良かった: 80%	目標	()	(—)	(80%)	(80%)	()	
	実績		—	未実施	100%		
進捗状況説明	・研修後に実施したアンケートでは、「日本の文化と信じていたことが、中国の影響を受けた沖縄の文化であることがわかった」「親戚に会えたことが嬉しかった」「沖縄の歴史や文化に興味湧いた。」「自分のルーツを話してくれる祖父母がいなくなった今、このような研修プログラムを通して、親戚に会ったり、沖縄の歴史を学ぶことができて幸いであった」などの感想が寄せられた。ホームステイについては、家族全員が一致した意見ではない場合があり、次回の受け入れには厳しい意見もあった。一方で研修生を受け入れたいという申し出もあり、今後の調整をしていきたい。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【研修終了後、移民史に興味があった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生全員が移民史について興味があったと回答した。研修生がさらに理解を深めるため、自身のルーツを学ぶ機会を作る必要があったと感じた。 <p>【日本語をさらに習得したい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在する日本の言語を習得するほどに、その地域を理解することに繋がるため、さらに日本語を習得する取り組みが必要だと感じた。 <p>【日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味は持っているようだが、疑問もあるようなため、自国と日本または沖縄との文化や習慣の違いについて理解する必要があると感じた。 <p>【ホストファミリーとしてまた研修生を受け入れたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーに任せっきりにならないように、滞在中の様子や、受入についての提案などを細かに話し合う必要があると感じた。 <p>【海外の子弟と交流ができてとても良かった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生たちと、ホストファミリーとの人間的繋がりを大切にし、長いおつきあいができる充実した研修期間になるよう、心配りが必要。 	<p>【研修終了後、移民史に興味があった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生がルーツを学ぶ機会として、親戚訪問、移民の歴史講座の受講などを行う。 <p>【日本語をさらに習得したい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修期間中はできる限り日本語での対話を心がけ、3ヶ月間の研修では充分でない日本語の学習は、帰国後も継続して貰うよう促す。 <p>【日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の解説や理由をできるだけ説明する。また研修生自ら情報収集できるようにアドバイスを行う。 <p>【ホストファミリーとしてまた研修生を受け入れたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーの意見を集約して、受入体制の改善を図る。 <p>【海外の子弟と交流ができてとても良かった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーの中でも一部で受け入れられ、他の家族との繋がりが薄くならないように努める。

今後の取り組み方針

【研修終了後、移民史に興味があった】

- ・平成30年度は移民の歴史講座を実施するため、琉球大学に講師を依頼する。研修生受入後、引き続き歴史・文化講座を実施する。また、研修生が親戚を訪問できるように関係者と調整を行う。

【日本語をさらに習得したい】

- ・帰国した研修生同士の交流を深めてもらい、一緒に日本語の習得をできるような学習会の開催などを促す。

【日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった】

- ・沖縄の歴史文化の講座を3回ほど取り入れる。興味を持ったことをさらに学習できるように、書籍や情報が得られる手段をアドバイスする。

【ホストファミリーとしてまた研修生を受け入れたい】

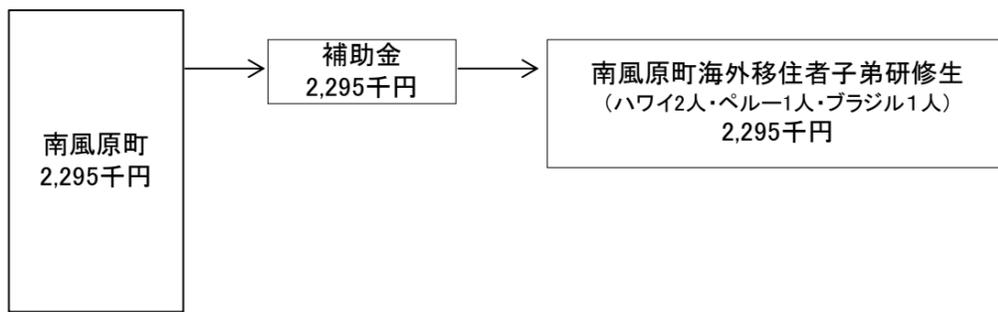
- ・平成30年度は、事前にホストファミリーを集めての意見交換会を行い、ホストファミリーの負担軽減や改善につなげる。

【海外の子弟と交流ができてとても良かった】

- ・ホストファミリーが、新しい家族のように研修生を大切にしている様子を、事業後に報告できる機会を設け、研修生の家族や町人会にも具体的な様子を伝えるようにしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,295	2,295	1,836	459	0



南風原町海外子弟研修生交付金事業に係る費用 旅費、研修等

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は南風原町出身の海外移住者のみと限定しており、支出先として妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、適当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を支出しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途が事業目的に即している。

市町村名	南風原町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 長寿県復活食の応援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第3章-2-(1)-ア 沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進					
担当部課名	民生部 保健福祉課	事業実施(予定)年度 平成25~33年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 III-4					
事業内容	将来の生活習慣病の予防に向け、町内の小学校5年生及び中学校2年生を対象に生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,875	4,959	5,558	7,068	4,022
		(b) 予算現額	5,481	4,959	5,558	4,502	2,300
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,394	0	0	▲ 2,566	▲ 1,722
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	5,481	4,959	5,558	4,502	2,300
	B. 執行済額		5,313	4,747	5,109	4,501	2,224
	うち交付金充当額		4,250	3,797	4,086	3,600	1,779
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.9%	95.7%	91.9%	100.0%	96.7%
予算の状況の説明		・学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、補正により1,722千円の予算減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	学童期における生活習慣病予防健診の実施(町内の小5・中2)	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・学童期における生活習慣病予防健診を小学5年生206人、中学2年生115人に実施することができた。また、生活習慣病健診後は結果説明会を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	将来の生活習慣病予防に向けた、食生活や生活習慣を理解できた割合を80%以上とする。	目標	()	(50%)	(80%)	()	()
		実績		73%	76%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・食生活や生活習慣を理解できた割合については、生活習慣病予防健診を受診された児童・生徒とその保護者に対して、アンケート調査を実施した。154名からの回答を集計した結果、「理解できた」割合は76%で、昨年度から3%増加したものの目標にわずかに届かなかった。					

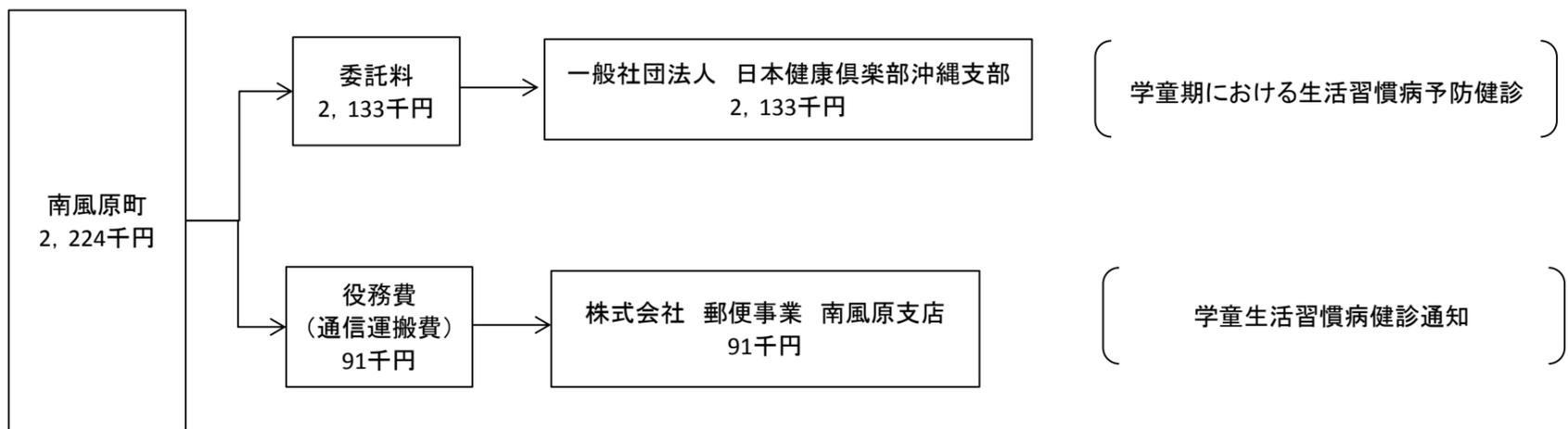
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に届かなかった背景として自分の健診結果が日頃の食生活等と関連しているのかイメージしてもらえ働きかけが弱かったと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が自分の結果をイメージしやすいよう工夫を行っていく。

今後の取り組み方針

・生活習慣病健診後の結果説明会の講話内容に、対象者が自分の結果をイメージしやすいよう教材(媒体)、時間配分など工夫していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,224	2,224	1,779	445	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業にあたっては業者調査を実施。委託事業の要件に見合う業者が1ヶ所のみであったため、町の条例に準じて随意契約を行った。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	